

MEGASOFT®

ミュージックCDデザイナー3
個人用音楽CD制作ソフト

個人用音楽CD制作ソフト



ユーザーズガイド

はじめに

導入する

画面構成と環境設定

CD作成の 手順

CDの制作
(実践編)

Solid Audioの 方式

編集機能を使いこなす

CDナビ
機能を使い
こなす

CDを
デザイン
する

リファレンス

はじめに

このたびは「ミュージックCDデザイナー3」をお買い上げいただきまことにありがとうございます。

このマニュアルには、本製品のインストールから実際の使用方法までが記載されています。本製品を正しくご利用いただくために、必ずこのマニュアルを一読されておくことをお奨めします。

また、このマニュアルは、マニュアル作成時のソフト及びハードウェアの情報に基づき作成されています。その後、ソフトウェアのバージョンアップ等により、本マニュアルの記載内容とソフトに搭載されている機能が異なっている場合がありますのでご了承ください。

目次.....	2
機能別索引.....	6
目的別索引.....	8
著作権について.....	10
本製品の使用に関するご注意.....	11
本書の表記について.....	12



preface

はじめに

1

機能別索引	6
目的別索引	8
著作権について	10
本製品の使用に関するご注意	11
本書の表記について	12

第1章 ミュージックCDデザイナー3を導入する

13

Part1 主な機能	14
Part2 動作環境	16
Part3 機器接続の確認	18
CD-R/RWドライブ接続の確認 / 18	
サウンド環境の確認 / 19	
アナログ/デジタル機器の接続確認 / 19	
インターネット接続環境の確認 / 19	
Part4 ミュージックCDデザイナー3をインストールする	20
その 新規インストールから起動まで / 20	
その アップグレードインストールの場合 / 23	
Part5 インストール後の基本設定 ~ CD-R/RWドライブの選択 ~	25
自動検索でCD-R/RWドライブを選択する / 25	
手動検索でCD-R/RWドライブを選択する / 26	
Part6 ミュージックCDデザイナー3のアンインストール	27
その1 自動アンインストール / 27	
その2 詳細アンインストール / 28	
Part7 使用するパソコンの環境設定	30
ソフトウェア関係 / 30	
OSの設定 / 30	
ハードディスク性能の改善 / 30	

第2章 ミュージックCDデザイナー3の画面構成と環境設定

31

Part1 ミュージックCDデザイナー3の画面構成と使い方	32
Part2 画面構成	34
取り込み / 34	
編集 / 36	
作成/出力 / 37	
CDナビ(音楽CDデータベース) / 37	
デザイン / 38	
Part3 ミュージックCDデザイナー3の環境設定	39
その CD-R/RWドライブの設定と読み込み速度の変更 / 39	
その 作業用フォルダと表示色の変更 / 40	
その CDナビ、ミュージックデータベース等に関する設定 / 41	
その デザインに関する環境設定 / 42	
その その他の設定 / 42	

第3章 オリジナルCD作成の手順

43

Part 1	ミュージックCDデザイナー3で作成できるサウンド	44
	音楽CD (CD-DA) / 44	
	ジュークボックスCD (CD-ROM) / 45	
	ファイルの書き出し / 45	
Part 2	CD作成までの手順～制作モードと、再生・録音デッキ/仮想デッキ～	46
	再生・録音デッキと仮想デッキ / 46	
	制作モード / 47	
Part 3	オリジナルCD作成の流れ	48
Part 4	録音ソースの種類と選択の方法	50
	使用可能なソースと選択の方法 / 50	
Part 5	編集作業の手順	52
Part 6	書き込み/ファイル出力の方法	53
Part 7	仮想デッキに録音した曲情報やデザインの保存	55
	トラック情報ファイルの種類 / 55	
	データファイルの保存と読み込みの仕方 / 55	
Part 8	ファイルの整理	57
	ファイル削除の手順 / 57	

第4章 オリジナル音楽CDの制作 (実践編)

59

Part 1	CD制作の準備	60
	その 制作モードの選択 / 60	
	その 録音機器の選択の仕方 / 61	
Part 2	各種ソースからの録音	62
	その 音楽CDから録音する / 62	
	その アナログ/デジタル機器から録音する / 64	
	その ファイルから録音する / 68	
	その 音楽配信サイトから録音する / 69	
Column	ミュージックデータベースから曲目をダウンロードする	70
	ミュージックデータベースから曲目をダウンロードする 70	
Part 3	録音したトラックを編集する	71
	その 頻繁に使用する編集機能 / 71	
	その 編集機能の使い方 / 72	
Part 4	書き込みを行う	73
	その 使用できるメディアの種類と手順 / 73	
	その 音楽CDを作成する / 76	
	無音秒数について / 76	
	その ジュークボックスCDを作成する / 78	
	その ファイルに書き出す / 80	
Column	CD-TEXTの音楽CDの作成とトラック情報の編集	83
	CD-TEXTの音楽CDの作成について / 83	
	トラック情報の編集の手順 (入力・変更の手順) / 84	

Index

第5章 SolidAudioプレーヤへの転送とバックアップ

85

Part 1	SolidAudio方式とミュージックCDデザイナー 3	86
Part 2	SolidAudio方式の楽曲をダウンロードする	87
Part 3	SolidAudioプレーヤへの楽曲の転送とファイル形式での保存	88
その	あらかじめ準備しておいた楽曲を転送する / 88	
その	音楽配信サイトからダウンロード後転送する / 90	
その	ファイルとして保存する / 91	
Part 4	SolidAudioプレーヤの楽曲をバックアップする	92

第6章 編集機能を使いこなす

95

概要	編集機能について	96
基本操作のチャート		98
編集コマンドの使い方	その <音響効果用コマンド>	99
	『ノイズ除去』コマンド / 99	
	『レベル調整』コマンド / 100	
	『イコライザー』コマンド / 101	
編集コマンドの使い方	その <トラック操作用コマンド>	103
	『ミュート』コマンド / 103	
	『無音の削除』コマンド / 105	
	『無音の挿入』コマンド / 106	
	『抽出』コマンド / 107	
	『部分削除』コマンド / 109	
	『分割』コマンド / 111	
	『結合』コマンド / 113	
編集コマンドの使い方	その <エフェクトコマンド>	114
	『ミキシング』コマンド / 114	
	『ピッチシフト』コマンド / 116	
	『フェードイン』コマンド / 117	
	『フェードアウト』コマンド / 118	
	『クロスフェード』コマンド / 119	
	『拡張エフェクト』コマンド / 121	

第7章 CDナビ機能を使いこなす

123

CDナビについて.....	124
Part1 新しい音楽CDを手動で登録する.....	124
Part2 音楽CDのトラック情報を登録（変更）する.....	126
Part3 登録済みのCD情報を検索する.....	128
Part4 登録情報の削除	131
Part5 登録済みのCD情報をデザイン画面で使用する.....	131
Part6 CDナビに登録されたCDを試聴する	132
試聴機能とは / 132	
試聴の設定を確認する / 132	
試聴用サウンドデータを作成する / 134	
CDナビに登録された試聴用サウンドデータを試聴する / 134	

第8章 CDをデザインする

135

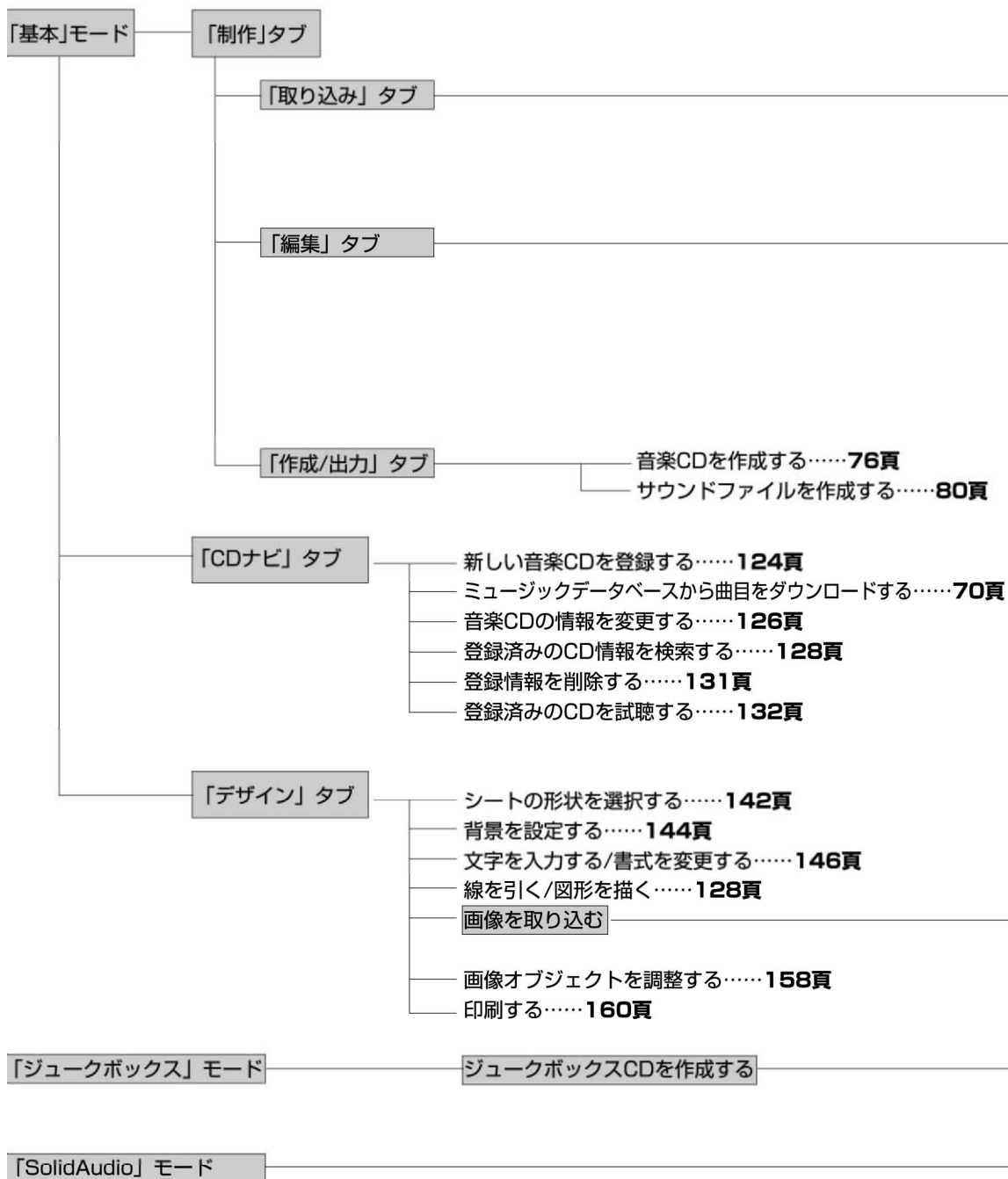
概要	デザインできるもの	136
概要	描画ツールバーについて	138
概要	実際のデザインの流れ	140
Part 1	シートの形状を選択する	142
Part 2	背景の設定	144
Part 3	文字の入力・読み込み（トラック情報）・書式を設定する	146
	文字の入力 / 146	
	テキストファイルの読み込み / 147	
	円形テキストの入力 / 148	
	書式を設定する / 149	
	テキスト方向 / 150	
	CDトラック情報の貼り込み / 150	
Part 4	線を引く・図形を描く	152
	線を引く / 152	
	図形を描く / 153	
Part 5	画像を取り込む	155
	画像ファイルを貼り込む / 155	
	デジカメ・スキャナから取り込む / 156	
	画像を拡大・縮小する / 156	
	画像の向きを変える / 157	
	画像の一部を透明にする / 157	
Part 6	オブジェクト配置・重なり修正	158
	オブジェクト配置の変更 / 158	
	オブジェクトの重なりを修正する / 159	
Part 7	印刷する	160
Part 8	知っている便利な機能とテクニック	162
	グリッドとルーラー / 162	
	オブジェクトのグループ化 / 162	
	右クリックメニューを活用する / 163	
	画像の周囲や特定の色を透明化する / 163	
	印刷のズレを修正する / 164	

最終章 リファレンス

165

Part 1	ファイルやトラックの選択方法について	166
Part 2	トラックの複製と削除	167
Part 3	表示色や背景などのカスタマイズを行う	168
	デッキパネルとデザイン画面の表示色を変更する / 168	
	デッキパネルの背景を変更する / 169	
	デッキパネルの表示を変更する ～スピアナとレベルメーター～ / 170	
	デッキパネルのトータル時間のカウンター表示を変更する / 170	
Part 4	ミュージックデータベースの設定について	171
	その CDDDB/CDDDB2/KCDB/MIDDBの設定 / 171	
	その CDDDB2のユーザー登録を行う / 172	
Part 5	エラーの対処法と用語について	174
トラブルの生じた場合	調査依頼書 / 175 ユーザー登録変更届け / 176	

機能別索引



CDからの録音(ドライブを選択する).....	62頁
ファイルからの録音(フォルダを選択する).....	64頁
外部入力からの録音(サウンドデバイスを使って録音する).....	68頁
音楽配信サイトからの録音(サイトから音楽データをダウンロードする).....	69頁
トラック情報を入力・変更する.....	84頁
アナログソースのノイズを軽減する(ノイズ除去).....	99頁
音量の増減を調整する(レベル調整).....	100頁
音質を詳細に調整する(イコライザー).....	101頁
曲中の指定箇所を無音にする(ミュート).....	103頁
曲中の無音箇所を削除する(無音の削除).....	105頁
曲中の指定箇所に無音を挿入する(無音の挿入).....	106頁
曲中の指定箇所を切り出す(抽出).....	107頁
曲中の指定箇所を削除する(部分削除).....	109頁
1つのトラックを複数トラックに分ける(分割).....	111頁
複数トラックを1つのトラックにまとめる(結合).....	113頁
2つの曲を混合する(ミキシング).....	114頁
曲の音程を変化させる(ピッチシフト).....	116頁
曲の冒頭の音量を徐々に大きくする(フェードイン).....	117頁
曲の末尾の音量を徐々に小さくする(フェードアウト).....	118頁
2曲を音量をクロスさせるようにつなげる(クロスフェード).....	119頁
拡張エフェクト	

左右チャンネルの音量バランスを調整する(L/R個別レベル調整).....	121頁
--------------------------------------	------

画像ファイルより取り込む.....	155頁
デジカメやスキャナより取り込む.....	156頁

WMAフォーマットのCDを作成する.....	78頁
TwinVQフォーマットのCDを作成する.....	78頁
MP3フォーマットのCDを作成する.....	78頁

SolidAudio方式の楽曲をダウンロードする.....	87頁
SolidAudioプレーヤに楽曲を転送する.....	88/90頁
SolidAudio形式の楽曲をファイルに保存する.....	91頁
SolidAudioプレーヤの楽曲をバックアップする.....	92頁

目的別索引

取り込み

使用するパソコンの環境を設定する	30
CD-R/RWドライブの接続の確認をする	18
CD-R/RWドライブの選択を行う	25(上)
CD-R/RWドライブの設定と読み込み速度を変更する	39(中)
録音設定を確認する	64(中)
録音ソースの種類を選択する	50、61
音楽CDから録音する	62
複数の音楽CDから録音する	63(下)
アナログソースから録音する	64(中)、66(中)
複数のアナログソースから録音を行う	67(下)
サウンドデバイス(ケーブル類などを含む)を確認する	19(上)、64(上)、65
デジタルソースから録音する	64(中)、66
複数のデジタルソースから録音を行う	67(下)
録音の開始と終了を設定する	66(中)
MIDIファイルから録音する	68
MP3ファイルから録音する	68
WAVEファイルから録音する	68
TwinVQファイルから録音する	68
WMAファイルから録音する	68
音楽配信サイトから録音する	69
作業用フォルダを変更する	40
複数のファイルをまとめて選択する	166

編集

トラック情報を入力・変更する	84
曲順を並び替える	68(下)
録音したトラックを編集する	71、72
トラックのノイズを除去する	99
トラックの音量(レベル)を調節する	100
トラックの特定の周波数の音を増減する	101
トラックの特定部分の音を消す	103
トラックの中の余計な無音部分を削除する	105
トラックの必要箇所に無音部分を挿入する	106
トラックの特定部分を切り出す	107
トラックの特定部分のみを削除する	109
1つのトラックを2つ以上に分ける	111
2つ以上のトラックを1つにまとめる	113
2つのトラックを混合する	114

トラックのテンポと音程を上下する	116
トラックの先頭部分の音量を徐々に上げる	117
トラックの末尾部分の音量を徐々に下げる	118
2つのトラックをフェードアウト/フェードインでつなぐ	119
トラックの右チャンネルと左チャンネルのバランスを変える	121
トラック間の無音時間を設定する	76(下)
トラックを複製する	167(上)
トラックを削除する	63(欄外)、167(下)
複数のトラックをまとめて選択する	166

書き込み

出力形式を選択する	53(中)、74(中)、80(中)、82(上)
書き込み速度を設定する	54(上)、76(中)、78(中)
作成枚数を設定する	76(中)、78(中)
TYPE80(80分)メディアを使用する	53(欄外)、73(欄外)
CD-TEXTの音楽CDを作成する	77(上)、83
書き込みテストを行うかどうかの設定を行う	75(上)、77(上)、79(上)
追記を可能にするかどうかの設定を行う	78(下)
一時ファイルを作成するかどうかの設定を行う	79(上)
一度書き込んだメディアに追記する	79(下)
複数枚の音楽CDを作成する	77(中)
複数のジュークボックスCDを作成する	79(中)
ジュークボックスCD(MP3 CD)を作成する	78
ジュークボックスCD(WMA CD)を作成する	78
ジュークボックスCD(TwinVQ CD)を作成する	78
メディアの空き容量を設定する	35(下)

ファイルの書き出し・保存・削除

トラック情報ファイルを保存する	55(中)
トラック情報ファイルを読み込む	56(中)
CDデザインファイルを保存する	55(中)
CDデザインファイルを読み込む	56(中)
ファイルを削除する	57

SolidAudioプレーヤへ楽曲を転送する	90
SolidAudioプレーヤの楽曲を バックアップする	92
SVQファイルを保存する	91
MP3ファイルで保存する	80、82
WAVEファイルで保存する	80
TwinVQファイルで保存する	80、82
WMAファイルで保存する	80、82

ミュージックデータベース

CDナビを活用する	124
アルバム情報を 登録・変更する	124(中)、126
登録済みの情報を検索する	128
登録情報を削除する	131(上)
登録された情報を試聴する	132、134(中)
試聴用サウンドデータを 設定(CDナビ)する	41(中)
試聴用サウンドデータを作成する	134(上)
Cddb/Cddb2/KCddbの 設定をする	41(中)、171
Cddbから曲目を取得する	62(中)、70
Cddb2のユーザー設定を行う	172(中)

デザイン

文字を入力する	146
テキストファイルを読み込む	147(中)
日付/時刻の 挿入形式を設定する	42(上)、147(欄外)
円形テキストを入力する	148
書式を設定する	149
テキスト方向を設定する	150(上)
線を引く	152
図形を描く	153
画像ファイルを貼り込む	155
PhotoCDの解像度を設定する	42(上)
図形作成後の状態を設定する	42(上)
デジカメ・スキャナから貼り込む	156(上)
画像を拡大・縮小する	156(中)
画像の向きを変える	157
画像の一部を透明化する	157(下)、163(中)

グリッドの間隔を設定する	42(上)、162(欄外)
デザイン画面の背景色を 設定する	40(下)、168(下)
デザイン画面の グリッドの表示色を変更する	40(下)、168(下)
図形・画像・文字を横方向へ移動し、 ラベルシートの中央に配置する	158(中)
図形・画像・文字を縦方向へ移動し、 ラベルシートの中央に配置する	158(中)
数値入力によってオブジェクトの 位置や大きさを変える	158(中)
図形・画像・文字を前面に移動させる	158(下)
図形・画像・文字に影を落としたような 効果を与える	158(下)
複数の図形・画像・文字をグループ化する	162(中)
複数の図形・画像・文字を まとめて選択する	162(欄外)
図形・画像・文字を背面に移動させる	158(下)
図形・画像・文字の重なりを修正する	159(中)
図形・画像・文字を整列する	159(上)
ミュージックデータベースに登録した情報を デザインで使用する	131(下)、150(中)
印刷する	160
印刷のズレを修正する	142(下)、164
枠線の印刷や折り目の印刷を設定する	42(上)

画面表示

デッキパネルの表示色を変更する	40(下)、168
デッキパネルの背景を変更する	40(下)、169
デッキパネルの表示(スペアナ表示 とレベルメーター表示)を変更する	170(上)
デッキパネルのトータル時間の カウンター表示を変更する	170(中)

索引の見方について

頁数の後に続くカッコ内文字は、該当する項目が、その頁のおよその場所に掲載されているかを表しています。(上)は上部、(中)は中程、(下)は下部、(欄外)は欄外を意味します。およその目安としてご利用ください。

カッコがない頁数については、およその頁全体にわたって該当する項目に対する説明が掲載されています。

著作権について

本ソフトウェアは、個人で音楽CDを作成するために必要となる機能を搭載したソフトウェアです。本ソフトウェアを使用することで市販されている音楽CDやアナログレコード、MD、MP3ファイルやTwinVQファイルなどのデジタル圧縮オーディオデータなどから簡単に音楽CDを作成することができます。ただし、市販の音楽CDやビデオ、DVDなどはすべて著作物として、著作権法によって保護されています。たとえば、音楽CDの場合は、CDの作成を行ったレコード作成者、作詞、作曲、編曲、演奏者（実演家）などの権利が著作権法によって保護されています。そのため、こういった著作物は、原則的に著作権者の方達に許可（許諾）を得ることなく無断で複製や改変、放送、再配布などの行為を行うことは認められていません。無断で複製を行い販売を行ったり、インターネット上などで再配布を行ったりすると法的に罰せられることもあるので注意してください。

ただし、著作権法では、個人が私的に楽しむという利用目的に限定するという条件つきで複製を認めています。一般的な例で説明しますと、自分が所有している音楽CDをカセットテープなどのアナログ機器で複製を行い、個人で楽しむ限りは、著作権侵害にはあたりません（これを販売したり、たとえ無料とはいえ見知らぬ他人に再配布したりした場合は、著作権侵害にあたります）。もちろん、複数の音楽CDから自分の好きな曲だけを抜き出し、ベスト盤を作成することも問題ありません。また、レンタルCD店で借りてきた音楽CDについても、違法レンタルCD店でない限り、日本音楽著作権協会（JASRAC）の管理楽曲でレンタルを許諾されたものを取り扱い、自分が所有している音楽CDと同様に取り扱うことができます。

ただし、私的利用目的の複製が認められているのは、カセットテープなどのアナログ技術を使用した録音機器のみで、デジタル技術を使用した録音機器は、政令で指定されたデジタル機器についてのみ機器とメディアの両方で著作権料を支払うように義務付けられています。

現在この政令で指定されたデジタル機器には、音楽専用CDレコーダーやDAT、MD、DCC、D-VHSなどがあり、パソコンで使用されているCD-R/RWドライブは、政令で指定されたデジタル機器ではありません。そのため、パソコン用のCD-R/RWドライブを使用して音楽CDを作成する場合は、アナログ機器と同様に個人で楽しむ場合に限り複製を行うことができるという考え方が一般的です。

音楽CDを作成する場合、著作権問題を避けてとめることはできません。必ず上記の問題に注意して作成を行ってください。また著作権者達は、音楽CDなどの著作物を販売することによって得た利益で生活を行い、その利益は新たな音楽活動を行うための資金として使用されています。パソコン用のCD-R/RWドライブは音楽専用CDレコーダー用のメディアも使用できるので、できるだけ著作権料が含まれているこのメディアを使用し、音楽CDの作成を行うことをお勧めしておきます。

本製品の使用に関するご注意

ご注意

本製品は、インストール時に表示される「ソフトウェア使用許諾契約書」をよくお読みになったうえでご使用ください。「ソフトウェア使用許諾契約書」に記載されている条項を無視してご使用になった場合、法的に罰せられることがあります。

お断り

本マニュアルに記載されている内容の一部又はすべてを無断で転載したり、複製、改変などの行為を行うことはできません。

本マニュアルの内容は、ソフトウェアの改良によって将来予告なく変更されることがあります。

本マニュアルの内容については、万全を期して作成していますが、万一わかり難い点や記載漏れ、誤記などがございましたらご連絡ください。

本製品を使用したことによるお客様の損害、逸失利益等などは、お客様の責任とさせていただきます。

Copyright© 1998-2001 MEGASOFT Inc. All rights reserved.

商標

Microsoft、Windows、Windows NTは、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標または商標です。その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

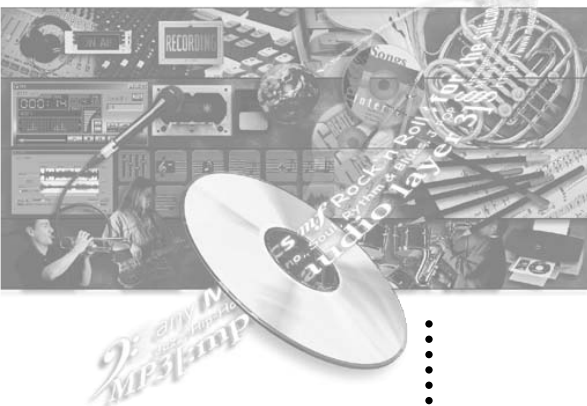
本書の表記について

- ・特に断りのない場合、使用しているコンピューターのことを「パソコン」と表記しています。
- ・ミュージックCD デザイナー3をインストール後、設定の変更を全く加えていない状態を「デフォルト」と表記しています。
- ・特に断りのない場合、Windows 95 及び Windows 98/98SE、Windows Me、Windows 2000を総称して「Windows」と表記しています。
- ・アイコンやボタンなどに^{マウス}ポインタを合わせ、マウスの左ボタンを1回押すことを「クリック」、すばやく2回押すことを「ダブルクリック」、マウスの右ボタンを1回押すことを「右クリック」と表記しています。
- ・ダイアログなどのチェックボックス、及びラジオボタンをクリックし、^{チェック}の状態にすることを「オンにする」または「チェックを入れる」と表記しています。
- ・所定のメニュー欄をクリックして現れるメニューを「プルダウンメニュー」と表記しています。
- ・CD-RやCD-RWは、すべてブランクメディア（何も書かれていない状態のメディア）をさします。また、特に断りのない限り、両者を総称して「メディア」と表記しています。
- ・CD-Rドライブ及びCD-RWドライブは、特に断りが無い限り、総称して「CD-R/RWドライブ」と表記しています。
- ・特に断りのない場合、「CD-R/RWドライブ」という表記にはCD-Rドライブ及びCD-RWドライブを含みます。

第1章 ミュージックCDデザ イナー3を導入する

ここでは、本ソフトウェアを使用する上で必要となる動作環境及び、機器接続の方法、本ソフトウェアの特徴、パソコンへのインストールの方法などを説明しています。

Part1	主な機能	14
Part2	動作環境	16
Part3	機器接続の確認	18
Part4	ミュージックCDデザイナー3をインストールする...	20
Part5	インストール後の基本設定 ～ CD-R/RWドライブの選択～	25
Part6	ミュージックCDデザイナー3のアンインストール...	27
Part7	使用するパソコンの環境設定	30



introduce

Part1 主な機能

注1

CD-TEXTの音楽CDの作成及び再生には、対応した機器が必要です。

*1

WAVEファイルとは、WAVEファイルとは、Windowsで標準的に採用されているサウンドデータの形式で、音楽CDを作成する場合は、サンプリングレート44.1KHz、16bitステレオのものを使用します。

ミュージックCDデザイナー3は、次のような特徴を備えたソフトウェアです。

豊富な再生機能

音楽CDやWAVE/MP3/TwinVQ/WMA/MIDIファイルの再生を行うことができます。また、イントロやアウトロ、リピート再生なども行うこともでき、CD-TEXTの音楽CDやCDナビに登録されている音楽CDをセットすると自動的に曲目とアーティスト名を表示します。^{注1}

ベスト盤音楽CDの作成

音楽CDやWAVEファイル^{*1}、MP3/TwinVQ/WMAなどのデジタル圧縮オーディオファイル、MIDIファイルなどからお気に入りの曲だけを集めて、自分だけのオリジナル音楽CDの作成ができます。また、CDタイトルやアーティスト名、曲目などを表示することができるCD-TEXT対応の音楽CDを作成することができます。^{注1}

ジュークボックスCDの作成

MP3/TwinVQ/WMAのデジタル圧縮オーディオファイルを使用したジュークボックスCDを作成することができます。ジュークボックスCDでは、24時間以上のロングプレイを楽しむことができます。

アナログソースのデジタル化

パソコンに搭載されているサウンドカードのライン入力やマイク入力を使用し、レコードやカセットテープなどのアナログソースからパソコン搭載のハードディスクにデジタル録音することができます。また、ライン入力とマイク入力のミキシングを行うこともでき、簡単な操作で音楽CDにすることもできます。

インテリジェントレコーディング

アナログ録音の開始・終了をタイマーで処理したり、曲単位で録音を行う「トラックの分割」を自動的に行う機能を搭載しています。音飛び検出機構なども搭載しているので、アナログソースのデジタル化も安心して行うことができます。

デジタルレコーディング

BS/CS放送チューナーやDATなどに搭載されているデジタル出力端子を使用し、デジタル録音を行うことができます。また、入力信号のサンプリング周波数（44.1KHz/48KHz）の自動検出機構を搭載しているので、これらの機器からデジタル録音を行った場合も安心して音楽CDを作成することができます。

最新のインターネット音楽配信技術に対応

Microsoft社が提唱するWindows Media™ TechnologiesとNTT東日本/NTT/神戸製鋼が提唱するSolidAudioの2つの音楽配信技術に対応し、オンラインショップ「BaySide」から直接SolidAudioプレーヤへ楽曲をダウンロードすることができます。

ミュージックデータベースのサポート

音楽CDをセットするだけで、CDDDB/KCDBをはじめとするインターネット上のミュージックデータベースに接続し、アルバム名、曲目、アーティスト名などを自動取得することができます。

自由自在にサウンドを操る豊富な編集機能

11バンドスペアナ付きグラフィックイコライザを搭載し、フェードインやフェードアウト、曲の結合/分割、聴感上の音圧を基準に平均化する自動レベル調整機能など豊富な編集機能を搭載しています。また、アナログソースから録音した場合に問題となるハムノイズやヒスノイズの削除機能も搭載しています。

手持ちの音楽CDをカタログ化して整理

ミュージックCDデザイナー3を利用して製作したオリジナルCDや市販の音楽CDを、カタログ化してパソコンで管理する「CDナビ」機能を搭載しています。実際のCDをセットすることなく試聴したり、曲名で検索することができるので、目的の曲がどのCDに収録されているのかをすばやく発見することができます。

充実したラベルデザイン機能

TWAIN機器からの読み込みをサポートしているほか、CDナビと連動した「CDトラック情報ツール」、BMPやJPEGをはじめ、11種類の画像フォーマットに対応した「画像ツール」、豊富な機能を搭載した「文字ツール」や「ドローツール」などを利用してCDラベルやブックレット、インレイなどを作成・印刷することができます。また、市販のCD-R専用ラベル用紙やCD-ROMケース用紙などを多数サポートしているので、用紙を選択するだけの簡単操作で印刷を行うことができます。

豊富なCD-R/RWドライブをサポート

その安定性や対応機種豊富なことから評価の高い、株式会社ビー・エイチ・エー社製の"B's Recorder GOLD"で使われているライティングエンジンを採用しています。OEM製品もあわせると300機種を超える豊富な対応CD-R/RWドライブで動作可能です。最新対応ドライブは、随時ホームページで公開しています。

MCDDエクステンション

モジュールを追加するだけで機能を拡張できる仕組みとして「MCDDエクステンション」を準備しています。このため、今後開発される対応モジュールを追加するだけで、簡単に機能を拡張することができます。

Part2 動作環境

ミュージックCDデザイナー3をお使いになるには、次のようなシステムが必要になります。

対応パソコン

PC/AT互換機または、NEC PC-9800シリーズ、
PC-9821シリーズ、PC98-NXシリーズの各機種

オペレーティングシステム

日本語Microsoft Windows 95または
Windows 98/98 Second Edition、Windows Me、
Windows 2000

CPU

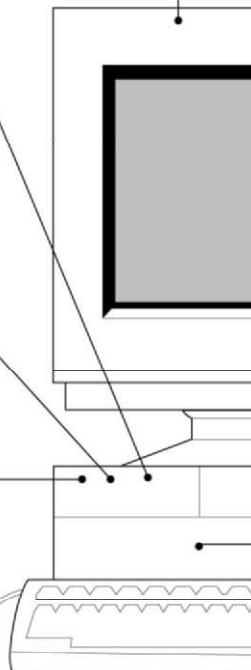
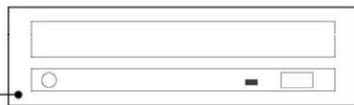
インテル® MMX® Pentium® プロセッサ
166MHz以上（インテル® Pentium® IIプロ
セッサ 266MHz以上を推奨）

メモリ

16Mバイト以上（32Mバイト以上を推奨）

CD-R/RW ドライブ

本ソフトウェアが対応しているCD-RドライブもしくはCD-RWドライブ。ただし対応ドライブは、随時更新されます。対応ドライブ一覧については、「ヘルプ」メニューにある「サポートするCD-R/RWドライブの一覧」で確認してください。また、最新のサポート情報は、弊社ホームページ（<http://www.megasoft.co.jp/mcdd/>）上でも案内しています。



ディスプレイ

800×600ドット (SVGA) /32,000色以上

ハードディスク

本ソフトウェアのインストールには40Mバイトの空き領域が必要です。また、本ソフトウェア使用時には、音楽データを保存しておく領域として、1分間につき約10MBの空き容量が必要です。例えば、80分の音楽データを保存しておくためには、約800MBの空き容量が必要になります。

その他

サウンドデバイス

アナログソース（レコードやカセットテープなど）からの録音を行う場合は、Windowsから使用可能なサウンドデバイスが必要です。また、DATなどからデジタル録音を行う場合は、デジタル入力端子を搭載したサウンドデバイスが必要です。

プリンタ

CDジャケット・レーベルの印刷を行う場合は、Windowsから使用可能なプリンタが必要となります。

インターネット接続環境

インターネットを利用した音楽配信サイトから、SolidAudioなどのデジタル圧縮オーディオをダウンロードする場合やCDDDBやKCDBなどからアルバム情報を取得する場合は、インターネット接続環境が必要になります。

USBポートなど

SolidAudioプレーヤーで使用するID情報つきスマートメディアにファイルの転送を行う場合や、それに書き込まれている音楽データをバックアップする場合は、読み出し/書き込みに使用する機器の接続に使用するUSBポートなどの端子をパソコンが搭載している必要があります。

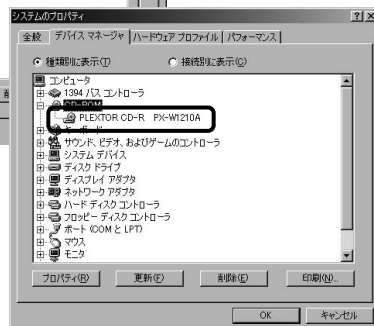
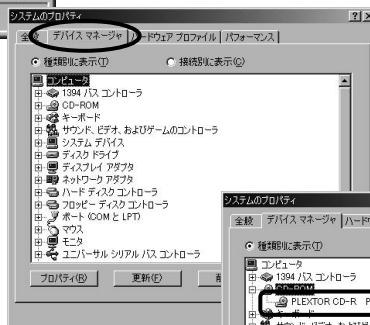
Part3 機器接続の確認

ミュージックCDデザイナー3のご利用にあたって、機器が正しく接続されているかご使用前に確認を行ってください。機器が正常に接続されていないと、ミュージックCDデザイナー3に搭載されている各種機能を使用できないことがあります。

CD-R/RWドライブ接続の確認



本ソフトウェアは、CD-R/RWドライブが正しく接続され、Windowsから使用できる状態になっていないと音楽CDの作成を行うことができません。コントロールパネルの「システム」のプロパティを開き、「デバイスマネージャ」のタブをクリックし、「CD-ROM」のアイコンをダブルクリックして、正常に動作しているかどうかの確認を行ってください。



「！」マークが表示されている場合は、正常に動作していません。その場合は、次のような点について確認を行ってください。

- ・ ケーブルがきちんと接続されているかどうか確認する
- ・ マスター / スレーブの設定やSCSI ID番号の設定が間違っていないか確認する
- ・ SCSI接続のCD-R/RWドライブを使用している場合は、ターミネータ（終端抵抗）が正しく設定されているかどうか確認する

サウンド環境の確認



アナログソースから録音する場合、サウンドデバイスが正しく接続され、Windowsから使用可能な状態になっている必要があります。CD-R/RWドライブの接続を確認したときと同じ手順で確認を行ってください。



また、コントロールパネルの中にある「マルチメディア」のプロパティ*1を開き、使用しているサウンドカードが再生/録音に使用されているかどうかの設定も確認しておいてください。

*1

Windowsのバージョンによっては、「サウンドとマルチメディア」のプロパティとなっている場合があります。

アナログ/デジタル機器の接続確認

サウンドデバイスを利用して、アナログソースやデジタルソースから録音を行う場合は、レコードプレーヤーやカセットデッキ、DAT、BS/CSチューナなどの機器が正しく接続されている必要があります。ご使用前に必ず、機器の接続確認を行ってください。

アナログ機器を使用する場合は、サウンドデバイスに搭載されているライン入力端子と接続したいアナログ機器のライン出力端子をケーブルで接続します。また、マイクを使用する場合は、サウンドデバイスのマイク入力端子に接続を行います。

インターネット接続環境の確認

ミュージックCDデザイナー3は、インターネット上に設置されているCDDDB/KCDBなどの4種類のミュージックデータベースやSolid Audioを採用した音楽配信サイトからの楽曲のダウンロードなどにも対応しています。これらの機能を使用する場合は、あらかじめインターネットに接続する環境が整っていなければなりません。契約されているプロバイダから配布されているマニュアルなどを参考にして確認しておいてください。インターネット接続環境がない場合は、上記機能を使用することができません。

導入する

Part4 ミュージックCDデザイナー3をインストールする

Paint Shop Pro Liteについて

ミュージックCDデザイナー3には、画像編集ソフト「Paint Shop Pro Lite」を標準添付しています。Paint Shop Pro Liteをインストールするには、製品CD-ROMの「PSP Lite」フォルダ内にある、「SetupCD_JAPANESE.EXE」を実行してください。

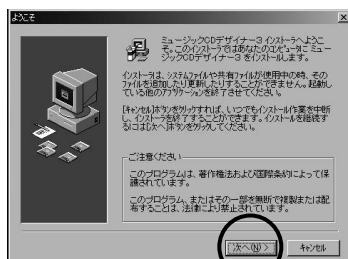
パソコンの準備が完了したら、ミュージックCDデザイナー3のインストールを行います。

その 新規インストールから起動まで

(1) 製品CDをお使いのパソコンのCD-ROMドライブに挿入します。



(2) 製品CDを挿入したCD-ROMドライブを開き、「SETUP.EXE」をダブルクリックし、インストールを行います。

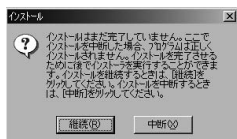


(3) ミュージックCDデザイナー3のインストーラーが起動します。[次へ]をクリックしてください。^{*1}



(4) ソフトウェア使用許諾契約書が表示されます。ライセンス契約に同意し、ミュージックCDデザイナー3をインストールする場合は、[はい]をクリックします。^{注2}

*1



[キャンセル]をクリックすると、インストールが中止されます。

注2

ソフトウェア使用許諾契約書には、本ソフトウェアを使用する上で重要な事柄が記載されています。必ず、お読みください。



(5) ご利用になる方のお名前とシリアル番号を入力します。入力が終わったら [次へ] をクリックします。*1

*1

シリアル番号は、ユーザーズマニュアル（本書）の巻末に綴じ込まれた用紙に記載されています。



(6) インストール先のフォルダを指定します。デフォルトでよろしければ [次へ] をクリックします。*2

*2



インストール先のフォルダを変更する場合は、[参照] をクリックしてインストール先のフォルダを設定し、その後、[次へ] をクリックします



(7) インストールするコンポーネントを選択し、[次へ] をクリックします。



(8) オプションを選択し、[次へ] をクリックします。

にチェックを入れた場合は、デスクトップ上にアイコンが作成され、そのアイコンをダブルクリックすることによって、ミュージックCDデザイナー3を素早く起動させることができます。

にチェックを入れた場合は、インストール完了後、ツールバー上で右クリックし、[ツールバー] - [クイック起動]

を選択することによって、ツールバーにアイコンを作成することができます。そのアイコンをクリックすることによって、ミュージックCDデザイナー3を素早く起動させることができます。

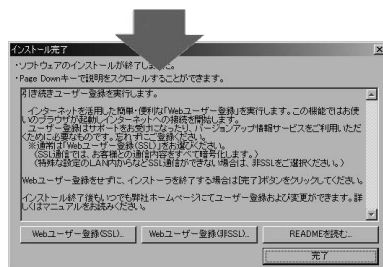


(9) [開始] をクリックし、ミュージックCDデザイナー3のインストール作業を開始します。

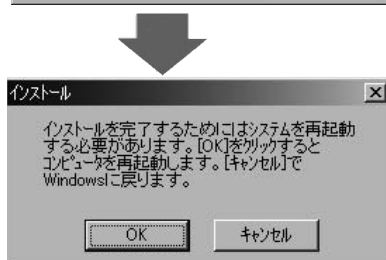


インストール中は、進捗状況が棒グラフで表示されます。

(10) ミュージックCDデザイナー3のインストールは完了しました。[次へ] をクリックして、最終ステップに進みます。



(11) インターネット接続環境が整っていれば、Webブラウザを使用して、ユーザー登録を行うことができます。ユーザー登録を行わない場合は、[完了] をクリックします。



(12) インストール作業は終了しました。ミュージックCDデザイナー3を使用するには、パソコンを再起動する必要があります。すぐに再起動する場合は、[OK] をクリックしてください。[キャンセル] をクリックした場合は、インストーラを終了し、Windowsに戻ります。その後手動でパソコンを再起動してください。



(13) デスクトップにショートカットを作成した場合は、そのアイコンをダブルクリックし、ミュージックCDデザイナー3を起動させます。ショートカットを作成していない場合は、[スタート] - [プログラム] - [ミュージックCDデザイナー3] と開き、「ミュージックCDデザイナー3」を選択して起動させます。

その アップグレードインストールの場合

- (1) 製品CDをお使いのパソコンのCD-ROMドライブに挿入します。
- (2) 製品CDを挿入したCD-ROMドライブを開き、「setup.exe」をダブルクリックし、インストールを行います。
- (3) ミュージックCDデザイナー3のインストーラーが起動します。[次へ]をクリックしてください。^{*1}
- (4) ソフトウェア使用許諾契約書が表示されます。ライセンス契約に同意し、ミュージックCDデザイナー3をインストールする場合は、[はい]をクリックします。^{※1}
- (5) ご利用になる方のお名前とシリアル番号を入力します。入力が終わったら[次へ]をクリックします。^{*2}
- (6) 登録情報を確認して[次へ]をクリックします。
- (7) インストール先のフォルダを指定します。デフォルトでよろしければ[次へ]をクリックします。インストール先のフォルダを変更する場合は、[参照]をクリックしてインストール先のフォルダを設定し、その後、「次へ」をクリックします。



- (8) アップデート方法の選択を行います。[旧バージョンの処理]で[残す]にチェックを入れておくと旧バージョンを残したまま、新規にミュージックCDデザイナー3をインストールします。また、[旧バージョンのデータファイル]で[コピーして利用する]にチェックを入れておくと、旧バージョンのデータを引き継ぐことができます。

- (9) インストールするコンポーネントを選択し、[次へ]をクリックします。

Paint Shop Pro Liteについて

ミュージックCDデザイナー3には、画像編集ソフト「Paint Shop Pro Lite」を標準添付しています。Paint Shop Pro Liteをインストールするには、製品CD-ROMの「PSPLite」フォルダ内にある、「SetupCD_JAPANESE.EXE」を実行してください。

*1

[キャンセル]をクリックすると、インストールが中止されます。

△ 注1

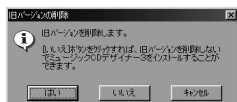
ソフトウェア使用許諾契約書には、本ソフトウェアを使用する上で重要な事柄が記載されています。必ず、お読みください。

*2

シリアル番号は、ユーザーズマニュアル(本書)の巻末に綴じ込まれた用紙に記載されています。

導入する

*1 旧バージョンの削除



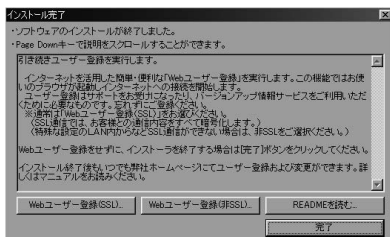
[旧バージョンの処理]で[削除する]にチェックを入れた場合は、旧バージョンを削除するかどうかのダイアログが表示されます。削除する場合は[はい]をクリックし、旧バージョンのアンインストールを行ってください。その後、インストール作業が自動的に行われます。



(10) オプションを選択し、[次へ]をクリックします。

(11) [開始]をクリックし、ミュージックCDデザイナー3のインストール作業を開始します。*1

(12) ミュージックCDデザイナー3のインストールは完了しました。[次へ]をクリックして、最終ステップに進みます。



(13) インターネット接続環境が整っていれば、Webブラウザを使用して、ユーザー登録を行うことができます。ユーザー登録を行わない場合は、[完了]をクリックします。

(14) インストール作業は終了しました。ミュージックCDデザイナー3を使用するには、パソコンを再起動する必要があります。すぐに再起動する場合は、[OK]をクリックしてください。[キャンセル]をクリックした場合は、インストーラを終了し、Windowsに戻ります。その後、手でパソコンを再起動してください。



(15) デスクトップにショートカットを作成した場合は、そのアイコンをダブルクリックし、ミュージックCDデザイナー3を起動させます。ショートカットを作成していない場合は、[スタート] - [プログラム] - [ミュージックCDデザイナー3]と開き、「ミュージックCDデザイナー3」を選択して起動させます。

Part5 インストール後の基本設定 ～CD-R/RWドライブの選択～

本製品ではインストール後最初の起動時に、CD作成に使用する「CD-R/RWドライブの選択」画面が表示されます。本製品を使用するには、ここで使用するドライブを正しく選択する必要があります。CD-R/RWドライブの選択の方法は「自動検索」と「手動検索」の2種類の方法が準備されています。

自動検索でCD-R/RWドライブを選択する

自動検索では、ソフトウェアが接続されているCD-R/RWドライブを自動的に検索します。通常は、この方法を使用することをお奨めします。接続されているCD-R/RWドライブが認識されなかったり、パソコンがハングアップしてしまうような場合には、後述する「手動検索」を行ってください。

自動検索でCD-R/RWドライブを選択する場合は、次のような手順で行います。

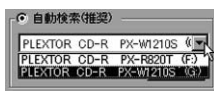


*1 自動検索の際のトラブル

自動検索を行ってパソコンがハングアップしてしまった場合は、パソコンを再起動した後に、[Ctrl] キーを押しながらミュージックCDデザイナー3を起動すると、「CD-R/RWドライブの選択」画面が表示されます。

導入する

CD-R/RWドライブが認識されるとドロップダウンリストに表示され、画面右側に認識されたCD-R/RWドライブの情報が表示されます。



CD-R/RWドライブを複数台接続しているときは、ボタンをクリックして、リストの中から使用したいCD-R/RWドライブを選択してください。

オプションを設定します。[読みこみ速度]は、音楽CDから録音を行う場合に使用する読みこみスピードです。また、Burn-ProofやJust Linkなどのエラー防止技術を搭載したCD-R/RWドライブを使用している場合は、その機能を使用するかどうかの設定も行います。^{注1}

設定が終わったら[OK]をクリックします。

△ 注1

エラー防止技術のオプションは、対応したCD-R/RWドライブを使用している場合のみ表示されます。

手動検索でCD-R/RWドライブを選択する

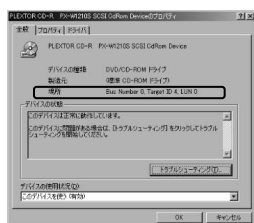
手動検索は、ユーザーが使用しているCD-R/RWドライブの設定情報を直接入力することで行います。手動検索でCD-R/RWドライブを選択する場合は、次のような手順で行います。



「手動検索」にチェックを入れます。

使用しているCD-R/RWドライブの設定を参考にして、「バスID」と「機器ID」を入力し、[確認]をクリックします。

バスIDについて



バスIDは、ATAPI (E-IDE) 接続かSCSI接続のどちらか一方の機器のみで構成されているときは「0」、それ以外の時は「0」または「1」を選択します。機器IDは、SCSI接続のCD-R/RWドライブの場合は設定した「ID番号」を入力し、ATAPI接続のCD-R/RWドライブの場合は、マスターが「0」、スレーブは「1」を入力します。また、あらかじめ、CD-R/RWドライブのプロパティを開き、設定情報を確認しておくとも簡単に設定を行えます。

注1

エラー防止技術のオプションは、対応したCD-R/RWドライブを使用している場合にのみ表示されます。

接続されているCD-R/RWドライブが認識されると画面右側にCD-R/RWドライブの情報が表示されます。表示されない場合は、この手順を再度行ってください。

オプションを設定します。[読み込み速度]は、音楽CDから録音を行う場合に使用する読み込み速度です。また、Burn-ProofやJust Linkなどのエラー防止技術を搭載したCD-R/RWドライブを使用している場合は、その機能を使用するかどうかの設定も行います。^{注1}

設定が終わったら[OK]をクリックします。

Part6 ミュージックCDデザイナー3 のアンインストール

ミュージックCDデザイナー3のアンインストールは、すべてを自動的に行う「自動アンインストール」とアンインストールするファイルなどを選択することができる「詳細アンインストール」の2種類の方法があります。それぞれ、次のような手順で行います。

その1 自動アンインストール（推奨）



(1)「コントロールパネル」を開き、「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。

(2)「インストールと削除」のタブの中のリストの中から「ミュージックCDデザイナー3」をクリックし、その後、[追加と削除]をクリックします。



(3) アンインストールウィザードが起動します。



(4) [自動アンインストール] にチェックを入れ、[次へ]をクリックします。



(5) [アンインストール] をクリックし、アンインストールを開始します。*1

*1



共有コンポーネントについて

共有コンポーネント（ファイル）は、ミュージックCDデザイナー3以外のアプリケーションが使用している場合があります。削除を行ってもよいかわからない場合は、「いいえ」か「すべていいえ」を選択してください。

その2 詳細アンインストール

- (1) 「コントロールパネル」を開き、「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。
- (2) 「インストールと削除」タブの中のリストから「ミュージックCDデザイナー3」をクリックし、その後、[追加と削除]をクリックします。
- (3) アンインストールウィザードが起動します。
- (4) [詳細アンインストール]にチェックを入れ、[次へ]をクリックします。



- (5) 削除したいファイルを選択し、[次へ]をクリックします。



- (6) 削除したいシステムファイルを選択し、[次へ]をクリックします。



- (7) ミュージックCDデザイナー3をインストールしたフォルダを削除するかどうかを選択し、[次へ]をクリックします。



(8) ミュージックCDデザイナー3のINIファイルを削除するかどうかを選択し、[次へ]をクリックします。



(9) ミュージックCDデザイナー3に関連したINIファイルの記述を削除するかどうかを選択し、[次へ]をクリックします。



(10) レジストリキーを削除するかどうかを選択し、[次へ]をクリックします。

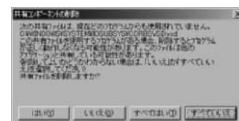


(11) アンインストールを開始します。開始は、[アンインストール]をクリックすることで行えます。*1

*1



共有コンポーネントについて



共有コンポーネント（ファイル）は、ミュージックCDデザイナー3以外のアプリケーションが使用している場合があります。削除を行ってもよいかわからない場合は、「いいえ」か「すべていいえ」を選択してください。

Part7 使用するパソコンの環境設定

オリジナルCDを作成する場合、使用する環境によっては、録音時にノイズや音飛びなどの現象が起こったり、書き込み作業に失敗してしまうことがあります。

ミュージックCDデザイナー3を使用するにあたって、次のような点に注意し設定を行っておくと、上記のようなトラブルは起きにくくなります。

ソフトウェア関係

- ・メモリを大量に消費してしまうようなアプリケーションソフトの使用停止
- ・ウィルスチェッカーなどのディスクチェックを行うソフトウェアの使用停止
- ・操作とは関係なく一定時間に自動的に起動するソフトウェアの停止



OSの設定



- ・アクティブデスクトップを無効にする



- ・スクリーンセーバーの使用停止



- ・[挿入の自動通知]を無効にする^{*1}
- ・省電力機能の停止
- ・ファイルやプリンタの共有の停止



- ・[ウィンドウの内容を表示したままドラッグする]をチェックする

* 1

この設定機能は、Windows 2000にはありません。

ハードディスク性能の改善



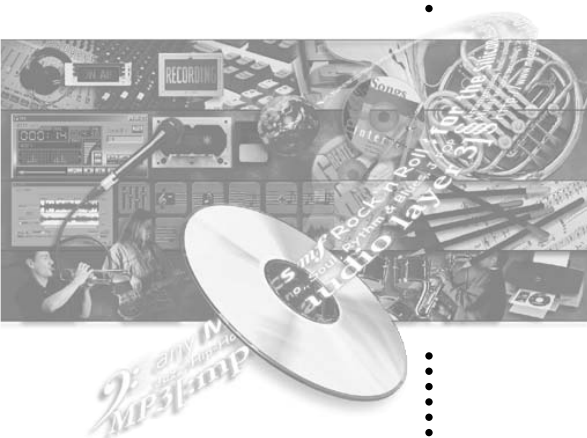
録音に使用するハードディスクをWindowsに標準で付属している「デフラグ」などのツールを使い、ファイルの断片化の解消を行っておきます。

第2章

ミュージックCDデザイナー3 の画面構成と環境設定

ここでは、ミュージックCDデザイナー3の画面の構成と環境設定の方法について説明しています。

- Part1 ミュージックCDデザイナー3の画面構成と使い方 ...32
- Part2 画面構成34
- Part3 ミュージックCDデザイナー3の環境設定...39

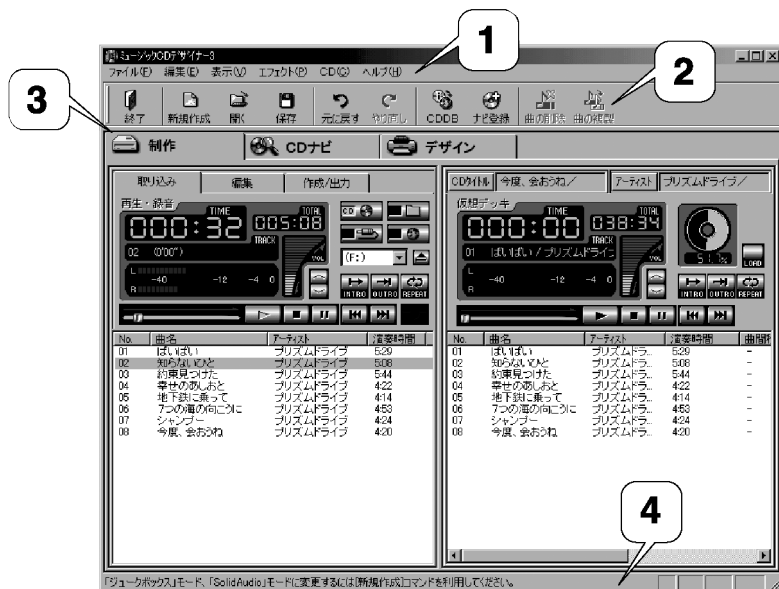


preference

Part1 ミュージックCDデザイナー3の画面構成と使い方

ミュージックCDデザイナー3に搭載されている機能は、大きく分けて「制作」、「CDナビ」、「デザイン」の3つの作業に分類されます。そして、実際のCD作成やジャケットの作成などの作業は、これらの作業ウィンドウを開き、その中で行います。また、作業ウィンドウを順次切り替えていくことでCDの作成から、作成したCD用のレーベル作成までを一貫して行うことができます。

ここでは、ミュージックCDデザイナー3の基本画面の構成を説明しています。



注1

表示される内容は、行っている作業内容（制作、CDナビ、デザインのいずれか）によって異なります。

*1

ツールバーの表示/非表示



「表示」メニューから、ツールバーの表示/非表示を切り替えることもできます。また、「制作」コマンド、「CDナビ」コマンド、「デザイン」コマンドを選択することでも作業ウィンドウの切り替えを行うことができます。

メニューバー注1

「ファイル」「編集」「表示」「エフェクト」「CD」「ヘルプ」などの各種コマンドを選択することができます。メニューバーに登録されているコマンドは、ツールバーや作業選択タブなどを使用しても実行することができます。

ツールバー注1

ツールバーは、メニューバーに登録されているコマンドのショートカットとして機能し、アイコンを使用して効率良く作業を行うことができます。*1

作業選択タブ

作業選択タブは「制作」「CDナビ」「デザイン」の3種類があり、作業したいウィンドウを開くために使用します。

・制作

音楽CDやジュークボックスCDを作成したり、インターネット上から音楽データをダウンロードし、SolidAudioプレーヤに転送する機能です。また、この機能は、再生・録音デッキと仮想デッキという2種類のデッキを利用して作業が行われ、次の3つの作業に分類されています。

(a) 取り込み

再生・録音デッキに準備されている各種ソースを利用して、仮想デッキに対し音楽の録音を行う機能です。

(b) 編集

仮想デッキに録音したトラック(曲)に対して、各種エフェクト処理やフィルター機能などを使用してさまざま効果を与えることができる機能です。

(c) 作成/出力

仮想デッキに録音したトラック(曲)を利用し、音楽CDやジュークボックスCDを作成する機能です。また、録音したトラックをWAVファイル形式やMP3/WMA/TwinVQファイル形式で出力することもできます。

・CDナビ

ミュージックCDデザイナー3を使用して作成したCDなどの情報を登録しておき、必要に応じてCDの情報を検索することができる機能です。

・デザイン

CDに貼るラベルやブックレットなどをデザインし印刷する機能です。

ステータスバー

モード変更の情報を表示します。「表示」メニューから、ステータスバーの表示/非表示を切り替えることもできます。

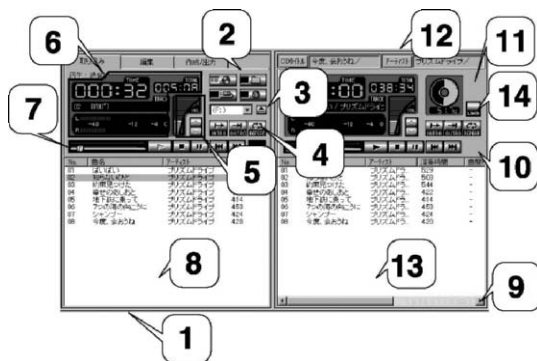
Part2 画面構成

* 1

仮想デッキに録音された曲を、ミュージックCDデザイナー3では「トラック」と呼んでいます。

制作

「制作」タブは、音楽CDやジュークボックスCDなどを作成する場合に使用します。制作タブでは、仮想デッキに対して録音を行うための「各種音楽ソースからの再生・録音」作業、「録音したファイルの編集」、「作成/出力」の3種類の作業を行うことができます。また、これらの作業は「取り込み」、「編集」、「書き込み」の各タブをクリックすることで行え、「表示」メニューの中の「制作」からも選択することができます。



取り込み

再生・録音デッキ

画面左側に表示されているのが「再生・録音デッキ」です。再生・録音デッキは、各種音楽ソースの選択・再生と仮想デッキへの録音が行えます。また再生・録音デッキは、上半分が操作パネル、下半分が入力ソース情報ウィンドウとなっています。

入力ソース選択アイコン

入力ソースの選択を行うためのボタンです。[CD] アイコンがWAV/MP3/WMA/TwinVQなどの[ファイル] アイコンが、サウンドカードのライン入力やデジタル入力端子を利用する場合に使用する[外部入力] アイコンが、インターネット上の音楽配信サイトから楽曲をダウンロードする[音楽配信サイト]です。

CD-ROMドライブ設定ウィンドウとイジェクト/ロード

音楽CDを入れたドライブを選択します。この画面は、入力ソースとしてCDを選択した場合にのみ表示されます。また、イジェクトアイコンをクリックするとメディアをイジェクトし、再度クリックするとトレイを閉めます。

イントロ・アウトロ・リピートボタン

[イントロ] アイコンがイントロ、[アウトロ] アイコンがアウトロ、[リピート] アイコンがリピートボタンです。曲の最初や最後を確認したり、再生を行うときに繰り返し聞きたいときに使用します。

ボリューム

再生ボリュームの調整を行います。上矢印でボリュームが大きくなり、その逆で小さくなります。

トラック情報

曲の時間、トータル情報、再生中または選択中のトラック情報、再生している曲の周波数ごとの音量レベルを表示するスペクトラム・アナライザーが表示されます。

シークバー・再生・停止・次トラック・前トラック・一時停止ボタン・録音

左のシークバーは、再生中に任意の頭出しをしたい場合に使用します。各種ボタンは、音楽CDや各種音楽データファイルなどを仮想デッキに録音したり、再生を行いたい場合に使用します。

入力ソース情報ウィンドウ

入力ソースの情報が表示されます。表示される情報は、使用するソースによって異なります。

- ・CDの場合はトラック、曲名、アーティスト名、演奏時間などのトラック情報が表示されます。^{注1}
- ・ファイルの場合は、エクスプローラ風のファイラー画面が表示されます。
- ・外部入力の場合は、カセットテープやレコードなどのアナログソースや、MD / DATなどのデジタルソースから録音する場合の録音条件の設定画面が表示されます。

仮想デッキ

再生・録音デッキで再生した曲や、選択したファイルを録音するためのデッキです。上半分が操作パネル、下半分がトラック情報ウィンドウです。

再生・停止・次トラック・前トラック・一時停止ボタン

録音された曲を再生し、ノイズや音飛びなどがないかどうかの確認を行う場合に使用します。また、曲順の変更を行うこともできます。

仮想CDインジケータ

仮想デッキに録音された容量を表示しています。メディアの空き容量を100%として色が変わった部分だけ使用したことを示しています。

CDタイトル/アーティスト

オリジナルCDのタイトルとアーティスト名をここに入力します。この情報はCD作成を行った場合に、自動的にCDナビにアルバム名として登録され、CD-TEXT対応のCD-R/RWドライブを使用している場合は、この情報がアルバム名として書き込まれます。

トラック情報ウィンドウ

録音された曲の情報が表示され、曲名やアーティスト名などを入力することができます。^{*1} また、CD-TEXTで作成された音楽CDやCDナビに登録されている曲を録音した場合は、その情報がそのまま使用されます。

ロードボタン

ブランクメディアの容量を取得します。取得した容量は仮想CDインジケータに反映されます。

△ 注1

曲名とアーティスト名は、CD-TEXTの音楽CDを対応したドライブで使用した場合か、CDナビに登録されている音楽CDのみで表示されます。

画面構成と
環境設定

*1

👉 曲情報について

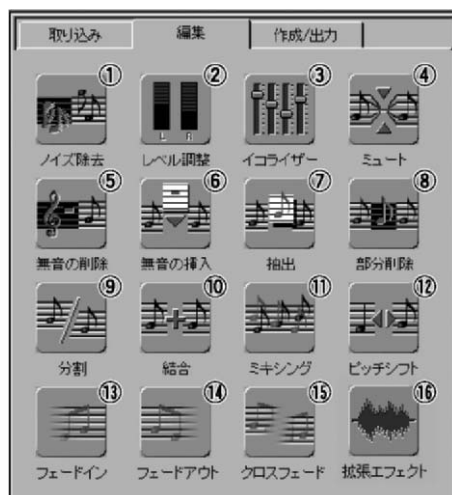
トラック情報ウィンドウに表示される内容は、CD作成を行った場合に、CDナビに自動的に登録されるだけでなく、CD-TEXT対応のCD-R/RWドライブを使用している場合は、この情報が書き込まれます。また、この情報はデザインでも使用することができます。

注1

作業内容によっては、複数のトラック（曲）を選択しないと使用できない機能があります。

編集

編集は、仮想デッキに録音されたトラック（曲）を編集する場合に使用します。編集できる項目は次のようなものがあり、仮想デッキで選択したトラック（曲）を編集することができます。^{注1}



イズの除去を行う [ノイズ除去]

トラックの録音レベルを調整する [レベル調整]

特定の周波数帯のレベルを調整する [イコライザー]

トラック内の指定した部分の音を消す [ミュート]

トラックの無音部分を削除する [無音の削除]

トラック内の指定した部分に無音を挿入する [無音の挿入]

トラックの内の指定した部分のみを抽出する [抽出]

トラック内の指定した部分のみを削除する [部分削除]

トラックの分割を行う [分割]

トラックとトラックを結合する [結合]

2つのトラックをミキシングする [ミキシング]

入力された信号の音の高さを任意に変化させる [ピッチシフト]

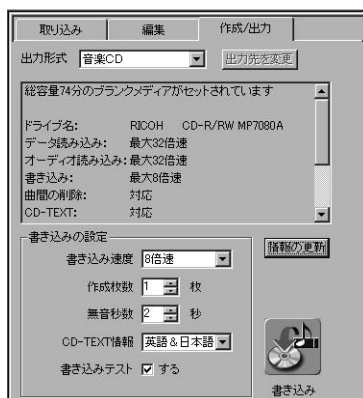
トラックに対して徐々に音が大きくなる処理を行う [フェードイン]

トラックに対して徐々に音が小さくなる処理を行う [フェードアウト]

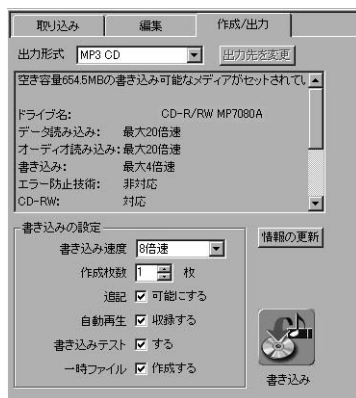
フェードインとフェードアウトの両方の処理を行う [クロスフェード]

MCDDエクステンションで追加された機能を使用する [拡張エフェクト]

作成/出力



「基本」モードの例



「ジュークボックス」モードの例

仮想デッキに録音されたトラック（曲）をCDに記録したり、ファイルとして書き出したい場合に使用します。画面上半分が、書き込み先情報ウィンドウ、下半分が書き込み設定ウィンドウです。書き込み設定ウィンドウでは、CDを作成する場合とファイルとして書き出す場合で表示される情報が異なり、それぞれに関する詳細な設定が行えます。

CDナビ（音楽CDデータベース）



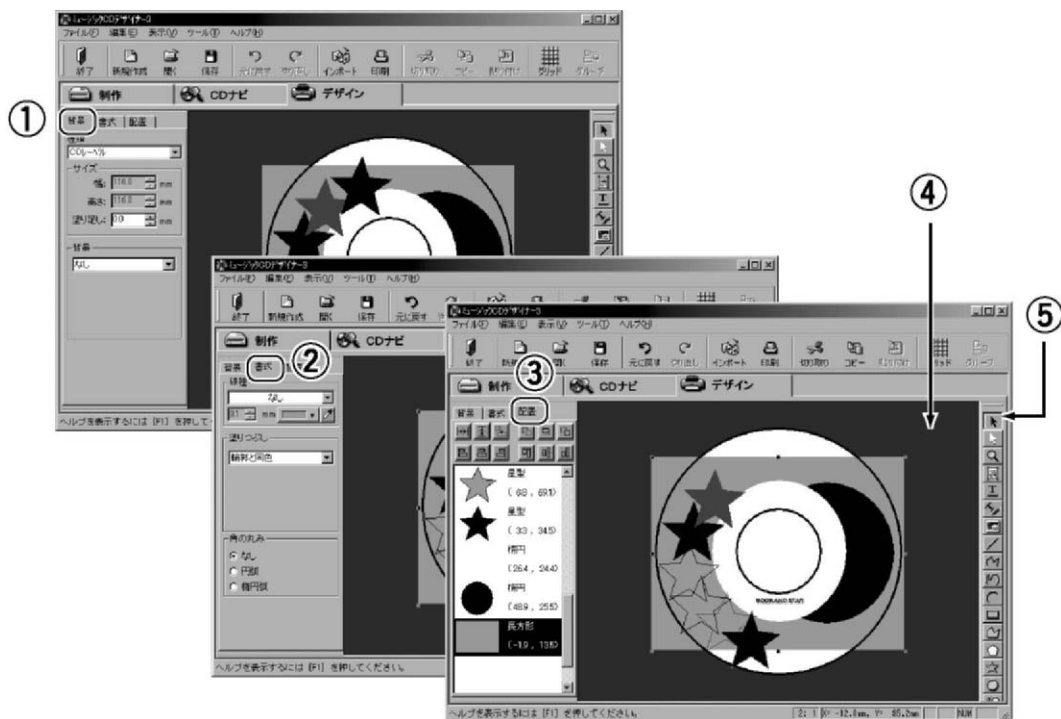
るファイルを表示するウィンドウで、左側のCDデッキを使用して検索したアルバムの試聴などを行うことができます。

詳細な使い方は第7章（123頁）を参照してください。

「CDナビ」のタブは、市販のCDやミュージックCDデザイナー3を使用して作成した音楽CDをカタログ化し、簡易データベースとして使用するためのウィンドウです。画面左側が、CDナビに登録されている情報を検索したり、登録されている

デザイン

「デザイン」タブは、CDレーベルやブックレット、ジャケットなどを作成するときに使用するウィンドウです。



画面左側がデザイン機能設定用のウィンドウです。

作成したいシート (CD レーベルやブックレット、ジャケット) などの用紙を設定する [背景]


オブジェクトの各種設定を行う場合に使用する [書式]

レイヤ情報などを設定する [配置] の3種類のタブが配置されています。

画面中央が実際のデザインに使用するウィンドウです。

画面右側には、図形や絵と描いたり、画像やテキストを貼りこむときに使用する [描画ツールバー]^{*}が配置されています。

* 1

 描画ツールバーの表示

描画ツールバーは「ツール」メニューからも選択して使用することもできます。

詳細な使い方は第8章 (135頁) を参照してください。

Part3 ミュージックCDデザイナー3の環境設定



ミュージックCDデザイナー3は、[ファイル]メニューの中にある[環境設定]で、標準で使用する作業領域やCD-R/RWドライブの読み出しスピード、書き込みスピードなどの設定を行うことができます。

環境設定は、「CD-R/RW」、「フォルダと色」、「CDナビ」、「デザイン」、「その他」の5種類の設定を行うことができ、それぞれの「タブ」をクリックすることで設定画面を変更することができます。



その CD-R/RWドライブの設定と読み込み速度の変更

CD-R/RWドライブに関する設定は、[CD-R/RW]タブで行います。複数台のCD-R/RWドライブを接続している場合は、自動検索が手動検索で接続されているCD-R/RWドライブを検索して設定を行ってください。

自動検索/手動検索の使い方は、25頁を参照してください。

CD-R/RWドライブを使用して音楽CDから録音を行う場合に使用される読み込み速度の変更は、[オプション]の[読みこみ速度]で行います。ノイズや音飛びなどが見られる場合は、これをより低速なスピードに変更します。^{注1}

また、Burn-ProofやJust Linkなどのエラー防止技術^{*1}を使用するかどうかなどの設定は、[エラー防止技術]のチェックボックスで行います。

△ 注1

CD-ROMドライブを使用して音楽CDから録音する場合は、常に最高スピードとなり、読み込み速度を変更することはできません。

* 1

エラー防止技術の設定は、対応したCD-R/RWドライブを使用している場合のみ表示されます。

その 作業用フォルダと表示色の変更



各種作業で使用するフォルダと表示色の変更は、[フォルダと色]のタブで行います。

* 1

「トラック情報の保存」を行うと、仮想デッキに登録されている曲がこのフォルダにWAVEファイルとして自動的に保存されるので空き領域を消費します。

* 2

フォルダの変更

フォルダを変更する場合は、録音可能時間が表示されているので、それを参考にして設定を変更してください。また、「新規フォルダ」をクリックして、新しいフォルダを作成することができます。

* 3

データの保存先

この設定は、あくまでフォルトの設定を行うだけです。実際にデータを保存するときに、設定したフォルダ以外にも保存先を指定することもできます。

* 4

収録可能な曲数

「参照」ボタンの下には、CDナビに収録可能な曲数が表示されているので、それを参考に設定を変更してください。

作業フォルダ



このフォルダは、音楽CDやアナログソース、MP3/WMA/TwinVQなどのファイルから録音を行った時に曲を一時的に保存しておくためのフォルダです。^{*1} [参照]をクリックするとフォルダ選択画面が表示されるので、新たに設定するフォルダを選択して[OK]をクリックしてください。^{*2}

ドキュメントフォルダ

このフォルダは、「トラック情報ファイル」や「CDデザインファイル」の保存に使用するフォルダです。[参照]をクリックすると、フォルダ選択画面が表示されるので、新たに設定するフォルダを選択して[OK]をクリックしてください。^{*3}

CDナビフォルダ

このフォルダは、CDナビに登録した情報を保存しておくためのフォルダです。[参照]をクリックすると、フォルダ選択画面が表示されるので、新たに設定するフォルダを選択して[OK]をクリックしてください。^{*4}

表示色

再生・録音デッキや仮想デッキのインジケータの色や、デザイン画面の背景及びグリッドの色の変更を行います。変更は、設定したい項目の をクリックし、メニューから選択することで行えます。

その CDナビ、ミュージックデータベース等に関する設定



CDナビの試聴用サウンドデータの設定は[CDナビ]タブで行います。また、ここでは、インターネット上に設置されているミュージックデータベースに関する設定も行うことができます。



インターネットへの接続方法は、
[電話回線]か[LAN]を選択します。

(1) 試聴用サウンドデータの設定

試聴用サウンドデータの設定は、(1) 試聴時間、(2) ファイル形式 (MP3/WMA/TwinVQのうちいずれか)、(3) フォーマット (サンプリング周波数、ビットレート、ステレオ/モノラル) などの項目について設定を行うことができます。

また、TwinVQがMP3を選択した場合は、[高度な設定]を利用して、音質優先/速度優先などの設定を行うこともできます。

詳しくは132頁を参照してください。

(2) CDDDB

CDDDBは、インターネット上に設置されているミュージックデータベースに関しての設定です。次のような項目について設定が行えます。

- ・音楽CDを挿入するたびに自動で検索を行う [自動で接続する]
- ・ツールバーに配置されているCDDDBアイコン (アイコン画面) をクリックした場合のみ検索を行う [手動で接続する]
- ・接続先として使用するミュージックデータベース
- ・メールアドレス (必須)^{注1}

(3) 接続方法

CDDDBを使用する場合に利用する接続方法についての設定が行えます。[電話回線]にチェックを入れた場合は、CDDDBを利用する場合にWindowsのダイヤルアップネットワークを利用して検索を行います。ダイヤルアップルータを利用している場合は、LANにチェックを入れてください。また、LANを選択した場合は、プロキシサーバーを使用しているかどうかの設定もあわせて行ってください。^{*1}

MP3の「高度な設定」画面



TwinVQの「高度な設定」画面



△ 注1

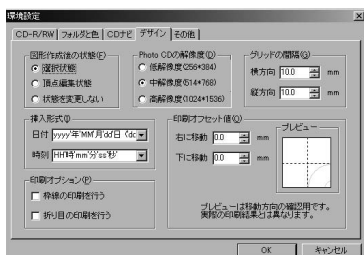
メールアドレスを登録しておかないとミュージックデータベースは使用できません。

*1

プロキシサーバーのアドレスやポート番号は、ネットワーク管理者に確認して入力を行ってください。

画面構成と
環境設定

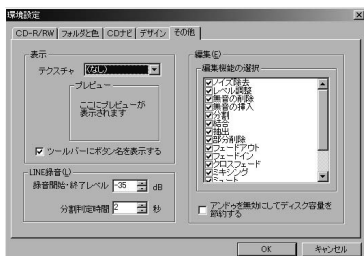
その デザインに関する環境設定



デザインに関する設定は、[デザイン]タブで行えます。ここでは、(1)図形作成後の状態、(2)画像としてPhoto CDを使用する場合の解像度を設定する[PhotoCDの解像度] (3)グリッドの間隔、(4)挿入形式、(5)枠線の印刷や折り目の印刷を行う[印刷オプション] (6)印刷位置の微調整を行う[印刷オフセット値]の設定が行えます。

詳しくは164頁を参照してください。

その その他の設定



アナログ/デジタル機器からの録音に使用する「LINE録音」に関する設定や使用する「編集機能」の選択、再生・録音デッキ/仮想デッキの背景の表示変更などの設定は、[その他]のタブで行えます。

(1) 表示

再生・録音デッキ/仮想デッキの背景の表示変更は[表示]で行います。背景は、デフォルトで準備されているもの以外にもJPGファイルがBMPファイルで作成されたものであればユーザーが任意に準備したものを使用することができます。変更する場合は、ミュージックCDデザイナー3がインストールされているフォルダの中にある、「Texture」を開き、その中にある「Panel」フォルダにファイルをコピーしてください。

(2) LINE録音

録音開始・終了レベルは、自動で録音の開始・終了を行う場合に使用する「レベル」の設定です。このレベル以上になると音楽の再生が始まったと認識し録音を始めます。逆にこのレベル以下になると録音を終了します。通常はデフォルトのままでも問題はありませんが、ライブレコードなどを録音しているときにトラック分割してほしくないところで分割されてしまったりする場合は、この設定を変更してみてください。^{*1}

また、分割判定時間は、上記のレベルが何秒間持続したらトラック分割を行うかの設定です。

(3) 編集

「編集」タブで表示するボタンの選択を行うことができます。通常、デフォルトで問題が生じることはありませんが、表示したくないボタンがある場合は、そのチェックを外すことで表示されなくなります。

*1

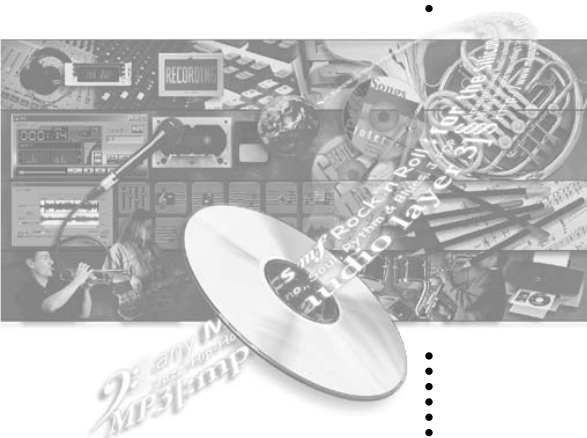
👉 無音部分がないICD

トラック分割を行う設定でアナログ/デジタル機器から録音を行った場合、分割判定時間分の無音部分が曲の最後に必ず挿入されます。無音部分がないICDを作成したい場合は、「無音部分の削除」を行ってください。

第3章 オリジナルCD作成の手順

ここでは、ミュージックCDデザイナー3を使用して作成できるCDの種類とその作成の手順について説明しています。

Part1	ミュージックCDデザイナー3で作成できるサウンド...44
Part2	CD作成までの手順46
Part3	オリジナルCD作成の流れ48
Part4	録音ソースの種類と選択の方法50
Part5	編集作業の手順52
Part6	書き込み / ファイル出力の方法53
Part7	仮想デッキに録音した曲情報やデザインの保存...55
Part8	ファイルの整理57



Original

Part1 ミュージックCDデザイナー3で作成できるサウンド

ミュージックCDデザイナー3は、音楽CDとジュークボックスCDの2種類の形式のCDとサウンドファイルを作成することができます。

音楽CD (CD-DA)

音楽CD (CD-DA : Compact Disc Digital Audio) は、44.1kHz/16ビット/ステレオのPCMデジタル音声を記録したCDのことで、市販されている音楽CDもこの形式です。作成した音楽CDは、プレスされたCDと高い互換性が確保されており、音楽再生専用CDプレーヤーやポータブルCDプレーヤー、カーステレオなどで再生することができます。

市販されている音楽CDだけでなく、カセットテープ/レコードなどのアナログ音源を使用してオリジナル音楽CDを作成することができ、デジタル出力端子を搭載した機器からも音楽CDを作成することができます。また、パソコン上で使用されているWAVファイルやMIDIファイル、MP3/WMA/TwinVQなどの圧縮オーディオなどからも作成することができます。もちろん、シングルCDのみを集めた音楽CDを作成したり、お気に入りの曲だけをあつめたベスト盤CDなどを作成することもできます。

また、ミュージックCDデザイナー3では、音楽CDと同等のPCMデジタルデータに加え、アルバム名、アーティスト名、曲目などを記録するCD-TEXTの音楽CDを作成することもできます。CD-TEXTは、半角アルファベットのみに対応した英語モードと漢字表示に対応した日本語モードの両方を作成することができます。作成したCD-TEXTの音楽CDは、対応したCDプレーヤーを使用した場合に、記録した文字情報を表示することができます。^{注1} 対応していないCDプレーヤーで再生を行った場合は、通常の音楽CDとして使用することができます。

△ 注1

日本語のCD-TEXTを表示するためには、日本語の表示に対応したCDプレーヤーが必要です。

ジュークボックスCD（CD-ROM）

ミュージックCDデザイナー3では、圧縮オーディオとパソコン上で使用することができるプレーヤソフトと一緒に記録したジュークボックスCDを作成することができます。ジュークボックスCDでは、通常の音楽CDの10倍以上の再生時間をもつCDを作成することができ、24時間ノンストップで音楽の再生を続けるCDを作成することも可能です。使用することができる圧縮オーディオの形式には、次の3種類の形式があります。

MP3（Mpeg1 Audio Layer3）

MP3形式は、MPEG1（Moving Pictures Experts Group Phase1）の音声圧縮技術を利用して作成された圧縮オーディオです。この方式では、音楽CD並みの音質を、WAVファイルの約10分の1程度の大きさで実現することができます。1分あたり約1MBのファイルサイズを必要とします。

WMA（Windows Media Audio）

Microsoft社の音声圧縮技術を用いた圧縮オーディオがWMA形式です。CD並みの音質を、WAVファイルの約20分の1程度の大きさで実現することができます。1分間あたり約500Kバイトのファイルサイズを必要とします。

TwinVQ

NTTサイバースペース研究所が開発した音声圧縮技術を用いた圧縮オーディオがTwinVQ形式です。CD並みの音質をWAVファイルの約18分の1以下の大きさで実現することができます。1分間あたり約500Kバイトのディスク容量を消費します。

ファイルの書き出し

ミュージックCDデザイナー3では、音楽CDやジュークボックスCDを作成する以外にも、仮想デッキに録音した曲をWAV/MP3/WMA/TwinVQなどといったパソコン上で使用することができるファイル形式で書き出し、保存しておくことができます。

保存しておいたファイルは、ミュージックCDデザイナー3で再生することができるのもちろんのこと、必要に応じて、ベスト版音楽CDを作成する場合などに使用することもできます。

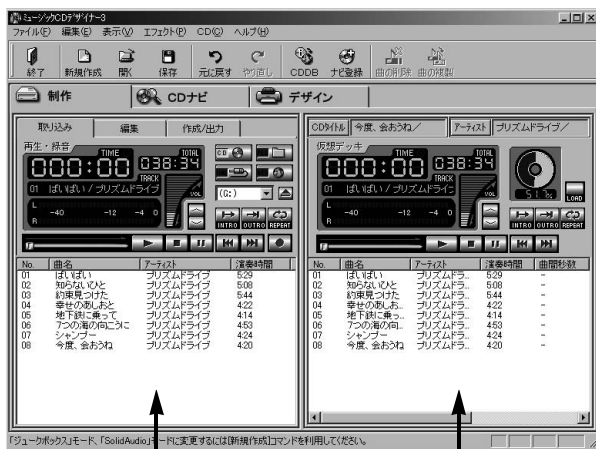
Part2 CD作成までの手順～制作モードと、再生・録音デッキ / 仮想デッキ～

ミュージックCDデザイナー3では、「再生・録音デッキ」と「仮想デッキ」という2種類のデッキを使用して各種CDの作成を行います。そして、仮想デッキの動作モードを制作モードと呼んでいます。

再生・録音デッキと仮想デッキ

ミュージックCDデザイナー3でCDを作成する場合に重要なのが、画面左側に配置された再生・録音デッキと画面右側に配置された仮想デッキの2つのデッキです。

再生・録音デッキは、各種音楽ソースの再生プレーヤとして動作しているだけでなく、録音開始操作もこのデッキを使用して行います。仮想デッキは、録音先として動作し、再生・録音デッキから録音指示がだされた楽曲（音楽）は、すべてこのデッキに録音されます。つまり、再生・録音デッキは、CDプレーヤからMDプレーヤにダビングを行うときの再生側のCDプレーヤに相当し、仮想デッキは、ダビング先のMDプレーヤに相当しています。そして、実際のCD作成は、再生・録音デッキを使用して仮想デッキに録音された曲（音楽）を対象に行います。

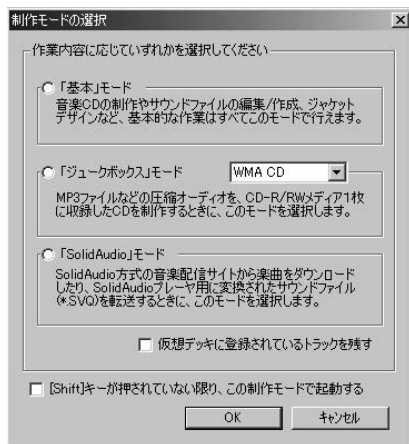


再生・録音デッキ

仮想デッキ

制作モード

ミュージックCDデザイナー3では、以下の3種類の制作モードがあります。



「基本」モード

基本モードは、音楽CDの制作やサウンドファイルの編集/作成、ジャケットデザインと印刷などを行うためのモードです。仮想デッキに対して録音された曲は、音楽CDの作成に使用することができるだけでなく、WAV/MP3/WMA/TwinVQなどの各種形式のサウンドデータとして出力することもできます。

「ジュークボックス」モード

ジュークボックスモードは、MP3/WMA/TwinVQなどの圧縮オーディオを書き込んだジュークボックスCDを作成するためのモードです。このモードでは、編集機能を使用することはできません。

「SolidAudio」モード

SolidAudio方式を採用したインターネット上の音楽配信サイトから楽曲（音楽）をダウンロードしたり、SolidAudioプレーヤ用に変換されたサウンドファイルを転送するためのモードです。このモードでは、CDの作成を行うことはできません。^{注1}

△ 注1

「SolidAudio」モードは、Windows95/98/Meでのみ選択できます。Windows 2000では選択できません。

Part3 オリジナルCD作成の流れ

ミュージックCDデザイナー3は、オリジナルCDの作成だけでなく、ジャケット/レーベルデザインまでを一貫した操作で行うことができます。その操作の流れは、次のようなフローチャートで行います。

Step1

制作モードの選択

「基本」モード、「ジュークボックス」モード、「SolidAudio」モードの中から制作するモードを選択します。「ジュークボックス」モードを選択した場合は、サウンドの品質の設定も行う必要があります。

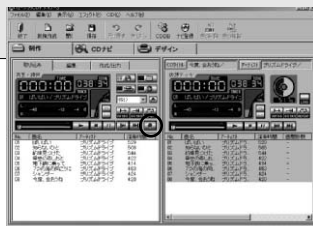
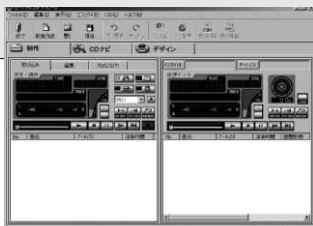


「ジュークボックス」
モードのみ

Step2

ソースの選択と録音

再生・録音デッキを使用してCD作成などに使用するソースを選択し、仮想デッキに対して録音を行います。



Step3

編集

仮想デッキに録音した楽曲に対して各種編集作業を行います。^{*1}



^{*1}

編集作業は、必ず必要なものではありません。

Step4

作成 / 出力

CDの作成を行います。また、指定した楽曲をファイルとして出力することもできます。^{*2}



^{*2}

「基本」モードを選択した場合は、WAV/MP3/WMA/TwinVQの4種類から選択することができます。また、「ジュークボックス」モードを選択した場合は、あらかじめ選択したファイル形式で出力することができます。

CD作成の
手順

Step5

デザイン

CDレーベルやジャケットなどのデザインを行い、それを印刷します。



Part4 録音ソースの種類と選択の方法

ミュージックCDデザイナー3では、様々なソースからオリジナルCDを作成することができます。ここでは、CD作成に使用できるソースの種類と選択の仕方を説明しています。

使用可能なソースと選択の方法




ミュージックCDデザイナー3では、再生・録音デッキに配置されている4つの入力モード選択アイコンを使用し、録音ソースの選択を行います。入力に使用できるソースと具体的な操作方法是次のように行います。



CD



市販されている音楽CDなどからオリジナルCDを作成することができます。また、読み込みに使用するドライブは、パソコンに接続されているCD-R/RWドライブとCD-ROM/DVD-ROMドライブの両方を使用することができます。ただし、CD-R/RWドライブを使用する場合は、読み込み速度をユーザーが設定することができますが、CD-ROM/DVD-ROMドライブを使用する場合は、常に最高スピードで読み込みを行います。


選択は、アイコンをクリックすることで行います。また、読み込みに使用するCD-R/RWドライブまたはCD-ROM/DVD-ROMドライブの変更は、アイコンをクリックし表示されるプルダウンメニューから行えます。アイコンをクリックすると、読み込みドライブのトレーのオープン/クローズを行います。



ファイル

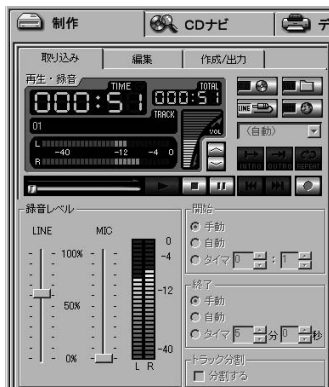



あらかじめ準備しておいたWAVファイルやMIDIファイル、MP3/WMA/TwinVQなどの圧縮オーディオファイルを使用することができます。WAVファイルやMIDIファイルをソースとして使用した場合は、ファイル名が曲名として使用されます。圧縮オーディオを使用した場合は、アーティスト名などの情報がファイル内に書き込まれていれば、その情報が優先して利用されます。

選択は、アイコンをクリックすることで行え、[Ctrl]キーや[Shift]キーを押しながら操作を行うことで、複数のファイルをまとめて選択することもできます。



外部入力




サウンドデバイスの外部入力端子をソースとして使用することができます。カセットテープやレコードなどをソースとして使用する場合は、これを選択します。選択は、 アイコンをクリックすることで行えます。また、ライン (LINE) / マイク (MIC) の各入力のレベルを調整することができ、録音時の開始/終了の方法などを設定することができます。



音楽配信サイト



インターネット上に設置されている音楽配信サイトをソースとして使用することができます。これを選択した場合は、Web ブラウザが起動され、それを使用して音楽配信サイトから楽曲をダウンロードすることができます。

選択は、 アイコンをクリックすることで行えます。^{注1}

△ 注1

制作モードで「基本」モードあるいは「ジュークボックス」モードを選択している場合は、楽曲のダウンロードのみ行えます。仮想デッキに録音する場合は、楽曲をダウンロード後、入力モードを [ファイル] に変更する必要があります。

Part5 編集作業の手順

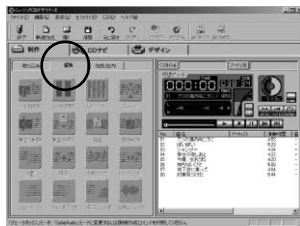
△ 注1

編集作業は、制作モードに「基本」モードが選択されている場合のみ使用できます。

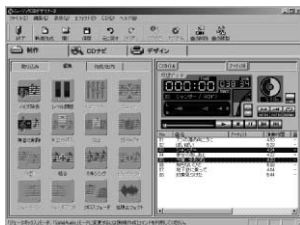
ミュージックCDデザイナー3は、仮想デッキに録音した楽曲に対して様々な処理を施すことができる編集機能を標準で16種類搭載しています。^{注1}

通常、これらの編集機能は、必ず使用しなければならないというわけではありません。しかし、録音に使用した入力ソースが異なっていると楽曲の音量がばらついていたり、アナログ機器から入力を行った場合は、ノイズが混入していたりと不都合がある場合があります。そのような場合は編集機能を使用し、ノイズ除去やレベル調整などの処理を施しておくことで、より音質の良いCDを作成することができます。ここでは、実際に編集作業を行う場合の基本手順について説明しています。

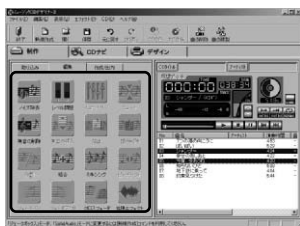
Step 1 「編集」タブをクリックします。



Step 2 仮想デッキに録音されている楽曲の中から、編集を行いたい楽曲を選択します。



Step 3 実行したい編集機能をクリックします。



Step 4 各種設定を行い処理を開始します。



Part6 書き込み / ファイル出力の方法

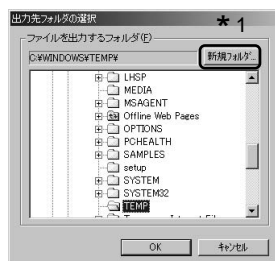
ミュージックCDデザイナー3は、仮想デッキに録音した楽曲を対象にして音楽CDやジュークボックスCDの作成を行います。また、仮想デッキに録音した楽曲は、パソコン上で扱える形式のファイルとして保存することもできます。

これらの機能を使用する場合は、すべて「作成/出力」タブを使用して行います。具体的には、次のような手順で行います。^{注1}

Step 1 「作成/出力」タブをクリックします。



Step 2 出力形式を選択します。



音楽CD / MP3 CD / WMA CD / TwinVQ CDなどを選択した場合は、指定した形式のCDを作成します。出力形式にファイル形式を選択した場合は、仮想デッキで選択されている楽曲のみが指定した形式のファイルとして保存されます。また「出力先を変更」をクリックすることで、楽曲の保存先を変更することができます。

△ 注1

TYPE80メディア (700MBメディア) は、74分 (650MB) までしか書き込みを行えないCD-R/RWドライブがあります。74分を越えた書き込みを行いたい場合は、ドライブメーカーにお問い合わせください。

CD作成の
手順

* 1

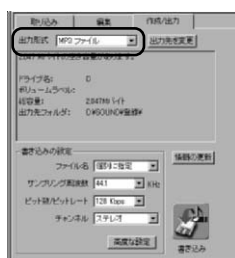
📁 新規フォルダの作成

新規フォルダを作成し、そこに保存することもできます。

Step 3 書き込み設定を行います。



出力形式に「音楽CD」を選択した画面



出力形式に「MP3ファイル」を選択した画面

書き込み先にCDを選択した場合は、書き込み速度、作成枚数、書き込みテストを行うか、などの書き込み時の設定を行います。また、ファイル形式を選択した場合は、保存ファイル名などの設定を行います。^{注1}

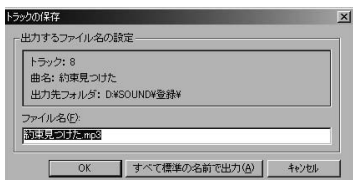
注1

制作モードが「基本」モードに設定されている場合、ファイル形式で保存する際には、サンプリング周波数、ビットレート、ステレオ/モノラルなどの詳細な設定が行えます。

Step 4 書き込みアイコンをクリックし、CDまたはファイルを作成します。



出力形式に「音楽CD」を選択した場合はすぐに作業が開始され、進捗状況がグラフで表示されます。



ファイル形式で出力を選択し、ファイル名の付け方を「個別に設定」を選択している場合は、ファイル名入力のダイアログボックスが起動します。

Part7 仮想デッキに録音した曲情報やデザインの保存

ミュージックCDデザイナー3では、仮想デッキに録音した楽曲の情報を「トラック情報ファイル」として保存したり、デザイン機能を使用して作成したCDラベルやジャケットなどのデザイン情報を「CDデザインファイル」として保存することができます。^{注1}

トラック情報ファイルの種類

ミュージックCDデザイナー3で使用するデータファイルは、次の2種類の形式のものがあります。

すべてのトラック情報を記録したトラック情報ファイル、拡張子「CDI」ファイル
仮想デッキに登録されているCDタイトル、アーティスト名、曲名、その他すべてのトラック情報と、音データを記録しているWAVEファイルへのリンク情報が記録されたファイルで、拡張子は「*.CDI」です。^{注2}

CDデザインファイル、拡張子「CDD」ファイル

CDラベルやジャケットなどのラベルシートのデザイン情報が記録されたファイルで、拡張子は「*.CDD」です。

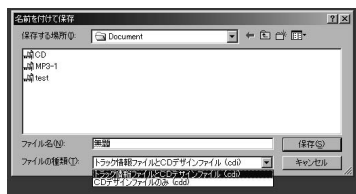
データファイルの保存と読み込みの仕方

トラック情報ファイルやCDデザインファイルの保存や読み込みは、次のように行います。

データファイルの保存



(1) ツールバーの[保存]アイコンをクリックするか^{注3}、[ファイル]メニューの中にある[上書き保存]コマンドまたは[名前を付けて保存]コマンドを実行します。



(2) 「ファイルの種類」コンボボックスで保存したいファイルの形式を選択します。

△ 注1

トラック情報ファイルの保存を行うと作業フォルダに仮想デッキに録音された楽曲が保存されます(WAVファイルから録音した場合を除く)。このため、ハードディスクの空き領域が減るので注意してください。

△ 注2

ミュージックCDデザイナー3では、トラック情報のみを保存することはできません。

△ 注3

ツールバーの「保存」アイコンは、新規作成した場合か、仮想CDデッキに新たに曲を録音したり、ラベルなどのデザインの変更を行った場合しか使用できません。また、保存したファイルを読み込んで作業を行っている場合は、「上書き保存」コマンドと同じ動作を行います。



(3) ファイル名を入力します。

(4) 「保存」をクリックします。

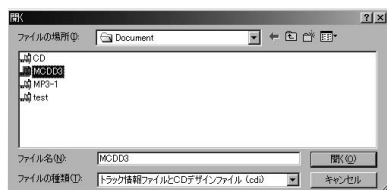
データファイルの読み込み



(1) ツールバーの「開く」アイコンをクリックするか、「ファイル」メニューの中にある「開く」コマンドを実行します。



(2) 「ファイルの種類」コンボボックスで読み込みたいファイルの形式を選択します。



(3) 読み込みたいファイルを選択します。

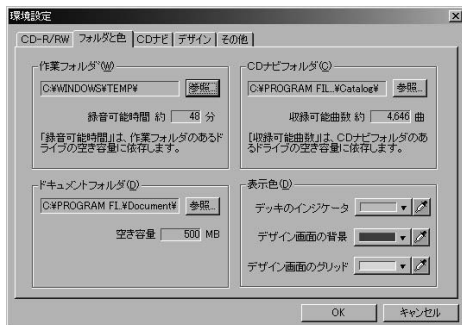
(4) 「開く」をクリックします。

Part8 ファイルの整理

ミュージックCDデザイナー3では、トラック情報ファイルの保存を行うと「作業フォルダ」内に仮想デッキに録音された楽曲が保存され、「ドキュメントフォルダ」にトラック情報ファイルが保存されます。^{注1} このため、トラック情報ファイルの保存を繰り返すとハードディスクの空き領域が減少します。ここでは、不要になったトラック情報ファイルや保存された楽曲の整理の仕方を説明しています。

ファイル削除の手順

Step 1 作業ファイルがどこに保存されているか確認する。



【ファイル】 【環境設定】 【フォルダと色】と開き、「作業フォルダ」とドキュメントフォルダ」の設定を確認します。

Step 2 ファイルの選択を開きます。

【ファイル】メニューの中にある【ファイルの整理】を開きます。



△ 注1

楽曲は、「基本」モードの場合は、WAVファイル形式で保存され、「ジュークボックス」モードでは、指定した圧縮オーディオの形式で保存されます。

CD作成の
手順

Step 3 削除するファイルの種類を選択します。



Step 4 簡易ファイラーを使用して削除したいファイルが保存されているフォルダ（ディレクトリ）を選択します。



* 1

[すべて削除] を選択するとフォルダ内の対象となるすべてのファイルを削除することができます。

Step 5 削除したいファイルを選択します。

Step 6 [削除] をクリックしファイルの削除を行います。*1

また、他の形式のファイルを削除する場合は、Step2からの手順を繰り返し実行し、ファイルの整理が完了したら [OK] をクリックします。

第4章 オリジナル音楽CDの 制作(実践編)

ここでは、オリジナル音楽CDとジュークボックスCDの2種類の形式のCDの作成の仕方を説明しています。

Part1	CD制作の準備	60
Part2	各種ソースからの録音	62
Column		70
Part3	録音したトラックを編集する	71
Part4	書き込みを行う	73
Column		83



Original CD

Part1 CD制作の準備

その 制作モードの選択

ミュージックCDデザイナー3を使用して作成することができるCDの形式には、通常の音楽CDプレーヤなどで再生可能な「音楽CD」とパソコンなどで使用できる圧縮オーディオを記録した「ジュークボックスCD」の2種類があります。CDの作成は、「制作モード」でどちらのCDを作成するか選択することから始めます。



* 1

制作モードの
選択画面のスキップ

このチェックボックスにチェックを入れておくと、選択したモードで自動的に起動され、この制作モードの選択画面は表示されません。起動時に[Shift]キーを押し下げておくと、この画面が再び表示されるようになります。

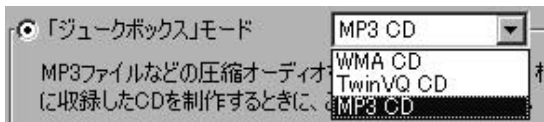
「基本」モード

このモードを選択した場合は、音楽CDプレーヤなどで再生可能な音楽CDの作成を行うことができます。

「ジュークボックス」モード

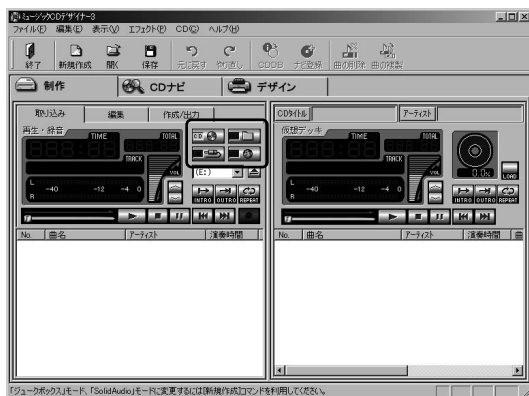
このモードを選択した場合は、圧縮オーディオを記録したジュークボックスCDの作成を行うことができます。また、記録しておく圧縮オーディオの形式を選択することができます。選択できる形式には次の3種類があります。

- ・ WMAファイルを記録した「WMA CD」
- ・ TwinVQファイルを記録した「TwinVQ CD」
- ・ MP3ファイルを記録した「MP3 CD」




その 録音機器の選択の仕方


選択した形式のCDは、「再生・録音デッキ」から「仮想デッキ」に対して録音されたトラック（楽曲）を対象に行われます。制作モード選択後は、再生・録音デッキで録音に使用したい「ソース」を次の4種類の中から選択します。




CD

 アイコンをクリックするとCD-ROMやCD-R/RWドライブを録音ソースとして使用します。


ファイル

 アイコンをクリックするとWAV、MP3、WMA、TwinVQ、MIDIなどのファイルを録音ソースとして使用します。

外部入力

 アイコンをクリックするとサウンドデバイスの外部入力端子に接続された機器を録音ソースとして使用します。例えば、ライン入力端子にカセットデッキやレコードプレーヤーを接続し、これを録音ソースとして使用する場合は、こちらを選択します。また、デジタル入力端子を使用する場合もこちらを選択します。

音楽配信サイト

 アイコンをクリックするとインターネット上に設置されている音楽配信サイトを録音ソースとして使用します。^{※1}

△ 注1

音楽配信サイトを選択した場合は、ダウンロードのみが行えます。このため、仮想デッキへの録音は、ダウンロード後、「ファイル」をソースとして選択してから行ってください。

Part2 各種ソースからの録音

* 1

🔊 読み込み速度の変更

環境設定で設定したCD-R/RWドライブ以外から音楽CDの録音を行う場合は、常に使用したドライブの最大オーディオ読み込みスピードで処理が行われます。ノイズや音飛びなどが発生する場合は、環境設定で設定したCD-R/RWドライブを使用のうえ、読み込みスピードを変更してください。



* 2

🔊 曲名などの表示

読み出しに使用したドライブがCD-TEXTの読み出しに対応し、かつCD-TEXT情報が記録された音楽CDを挿入した場合は、トラックリストに曲目、アーティスト名が表示されます。

その 音楽CDから録音する

音楽CDからの録音は、次の手順で行います。

[Step1]

音楽CDアイコン  をクリックし、入力ソースにCDを選択します。

[Step2]


「ドロップダウンリスト」を使用して録音に使用するドライブを選択します。*1

[Step3]



音楽CDを挿入します。*2 しばらくすると挿入した音楽CDのトラックリストが表示されます。

アルバム情報取得のポイント

アーティスト名、曲目などが表示されない場合は、CDDDBアイコン  をクリックすることでインターネット上に設置されたミュージックデータベースでアルバム情報を検索し、情報を取得することができます。

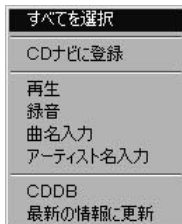
[Step4]



仮想CDデッキに録音したいトラック（楽曲）を選択します。[Shift] キーや [Ctrl] キーを押しながら選択を行うと、任意の曲を複数選択できます。すべてのトラックを選択する場合は、[Ctrl] キーを押しながら [A] キーを押すことで行えます。また、マウスのドラッグ操作でも、複数のトラックをまとめて選択することもできます。


詳しい操作方法は、166頁を参照ください。

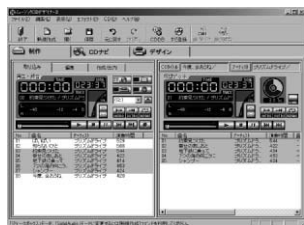
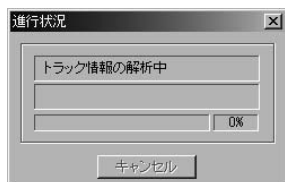
右クリック活用のポイント



すべてのトラック（楽曲）を選択する場合は、入力ソース情報ウインドウ内で右クリックして表示されるメニューから選択することもできます。


[Step5]

「録音」ボタンをクリックし、仮想デッキに録音します。録音中は、状況が棒グラフで表示され*⁵、録音が終了すると、仮想CDデッキに録音されたトラックが表示されます。*⁶



[Step6]



仮想デッキの「再生」ボタンをクリックし、録音されたトラック（楽曲）にノイズや音飛びがないかどうか確認します。もしノイズや音飛びが起きている場合は、読み込みスピードを低速なものに変更し、再度録音を行ってください。*⁷

複数の音楽CDから録音を行う際のポイント

複数の音楽CDから録音を行う場合は、「Step2」から「Step6」までの操作を繰り返して行います。

*⁵

👉 録音の中止

録音中に「キャンセル」をクリックすると録音がキャンセルされます。


*⁶

👉 曲名などの表示

再生・録音デッキのトラックリストに、曲目、アーティスト名が入力されているときは、トラックリストに曲目、アーティスト名が表示された状態で録音されます。

*⁷

👉 トラックの削除

録音されたトラック（楽曲）は、任意のトラックを選択した後、「Delete」キーまたは「曲の削除」アイコンをクリックすると削除が行えます。また、削除したいトラック上で右クリックして表示されるメニューからも行えます。

すべてを選択

再生

複製

削除

曲名入力

アーティスト名入力

曲間入力

Title入力

Artist入力

CDの制作
(実践編)

その アナログ/デジタル機器から録音する

カセットテープやレコードなどのアナログソースやDATやCS/BSチューナーなどのデジタル出力端子を搭載した機器から録音する場合は、サウンドデバイスを使用します。ここでは、アナログソースやデジタルソースから録音する場合の手順を説明しています。

サウンドデバイスの確認

録音作業を始める前に、次のような点に注意してサウンドデバイスが使用可能状態になっているか確認を行ってください。

サウンドデバイスの入力端子の確認

アナログソースとデジタルソースでは、機器の接続に使用するサウンドデバイスの入力端子が異なっています。必要な入力端子を搭載しているかどうかを確認してください。

・アナログソースから録音を行う場合

使用するサウンドデバイスが「LINE入力端子」または「マイク入力端子」を搭載しているかどうかを確認します。

・デジタルソースから録音を行う場合

使用するサウンドデバイスが、「デジタル入力端子」を搭載しているかどうかを確認します。

録音設定の確認



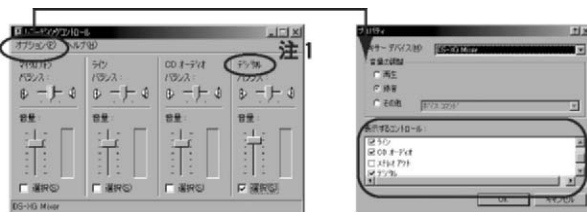
【コントロールパネル】-【サウンドとマルチメディア（Windows95/98では、マルチメディア）】と開き、【オーディオ】のタブをクリックし「録音」のウィンドウに使用しているサウンドデバイスが選択されているか確認します。

注1

「デジタル」は、デジタル入力端子を搭載したサウンドデバイスを使用している場合のみ表示されます。

またこの名称は、サウンドデバイスによって異なります。「S/PDIFイン」と表示されているものや、コントロールがまったく表示されないもの（USBサウンドデバイス）もあります。

また、【音量】をクリックし、「マイクロフォン」「ライン」「デジタル」^{注1}の各入力端子が表示されているかどうかを確認します。表示されていない場合は、【オプション】-【プロパティ】と開き、【録音】をチェックして、【表示するコントロール】で必要なものを選択します。



機器の接続

ここでは、実際の録音作業をはじめる前に必要となるケーブル類などについて説明しています。実際の接続方法については、機器のマニュアルなどで確認してください。

・アナログソースから録音する場合

L/RのRCAピンプラグ-3.5mmステレオミニジャックケーブル

このケーブルは、L/Rのラインアウト端子を持つ機器とサウンドデバイスのライン入力端子を使用して録音を行うときに使用します。

抵抗入りまたは抵抗つきのL/RのRCAピンプラグ-3.5mmステレオミニジャックケーブル

このケーブルは、L/Rのラインアウト端子を持つ機器とサウンドデバイスのマイク入力端子を使用して録音を行うときに使用します。^{※1}

3.5mmステレオミニジャック-3.5mmステレオミニジャック

このケーブルは、ミニコンボやラジカセなどの「ヘッドホン」端子やステレオミニジャックしか持たない機器とサウンドデバイスの「ライン入力端子」を使用して録音する場合に使用します。

・デジタルソースから録音する場合

光ケーブル（オプティカル）

光端子を搭載した機器とサウンドデバイスを使用して録音を行う場合に使用します。また、光ケーブルには、丸型と角型の2種類があります。使用するケーブルは、機器に合わせて準備してください。

同軸ケーブル（コアクシヤル）

S/PDIF端子を搭載した機器サウンドデバイスを使用して録音を行う場合に使用します。

メディアコンバータ

使用する機器とサウンドデバイスが光端子とS/PDIF端子の異なったデジタル入出力端子を搭載している場合に必要になります。

△ 注1


サウンドデバイスのマイク入力端子を使用する場合は、必ず「抵抗つき」または「抵抗入り」と書かれたものを使用してください。抵抗が無いものを使用し、マイク入力を使用すると入力レベルが大きすぎるために音が割れてしまいます。

録音する

アナログ/デジタルソースからの録音は次の手順で行います。

[Step1]



外部入力アイコン  をクリックし、入力ソースに「外部入力」を選択します。

[Step2]



「ドロップダウンリスト」を使用して録音に使用する外部入力端子を選択します。通常は[自動]で使用できますが、うまくいかない場合は、使用したい入力端子を指定してください。

[Step3]

録音の開始、終了、などの録音に関する設定を行います。

開始と終了は、

- (1) ユーザーが手動で明示的に録音の開始/終了の動作を行う「手動」
- (2) ソフトが自動的に録音の開始/終了の動作を行う「自動」*1
- (3) 録音を開始する時刻と録音終了までの時間を設定する「タイマー」

の3種類の中から任意に選択することができます。また、トラック分割にチェックを入れておくと、曲間の無音部分でトラック（楽曲）の分割を行い、チェックを外しておくと、録音が始まってから終了までを1つのトラック（楽曲）として録音します。*2



*1

推奨設定

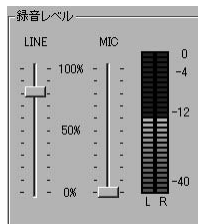
[自動]を選択しておく
と、再生している曲の無音
部分をソフトが感知して、
自動で録音の開始/終了を行
うので便利です。

*2

基準設定

トラック分割や録音の開
始/終了を自動で行う場合の
無音時の音の大きさの基準
の設定は、[ファイル]メニ
ューの中にある[環境設定]
を開き、[その他]のタブを
クリックして表示される
「LINE録音」から行えます。

[Step4]



[録音] ボタン をクリック後、ソースの再生を開始して、録音レベルの調整を行います。録音レベルの調整は、LINE入力端子またはデジタル入力端子を利用している場合は、LINEのシークバーで、マイク入力端子を利用している場合は、MICのシークバーで行えます。バーは上に上げると入力レベルが上がり、下げると入力レベルが下がります。^{*3}

[Step5]

[一時停止] ボタン をクリックするか [録音] ボタン をクリックして一時停止状態を解除し、録音を開始します。手動で録音する場合は、ミニコンボやラジカセなどでダビングを行うときと同じ要領で録音を行います。タイマーを設定している場合は、録音をスタートすれば指定時刻になると録音を開始します。^{注1}

また、録音中は、再生・録音デッキのインジケーターが録音時間を刻み、レベルメーターが録音レベルを表示します。

[Step6]

録音を終了します。録音の終了を自動に設定している場合は、ソースの再生を停止すると20秒後に自動的に録音が終了します。手動に設定している場合は、[停止] ボタン をクリックしてください。また、録音が終了すると、仮想デッキに録音されたトラックが表示されます。

[Step7]



仮想デッキの [再生] ボタン をクリックし、録音されたトラック（楽曲）の音が割れていないかなどの確認を行います。もし音が割れていたら、レベルの再調整を行い再度録音を行ってください。^{*4}

複数のアナログ/デジタルソースから録音を行う際のポイント

複数の音源から録音を行う場合は、「Step2」から「Step6」までの操作を繰り返し行います。

*3

録音レベルの調整

録音レベルは、あまり大きくしすぎると録音時に音が割れてしまいます。レベルメーターが時々赤色に点灯する程度に調整すると最適です。また、レコード全体やカセット全体を録音する場合は、最も大きなレベルで録音されている曲を基準にして調整を行います。

注1

アナログソースからの録音は、パソコンに大きな負荷がかかります。他のソフトを使用したりすると、音飛びやノイズが乗ってしまうことがあるので、なるべく、ソフトの併用は避けてください。

*4

トラックの削除

録音されたトラック（楽曲）は、[Delete] キーまたは [曲の削除] アイコン をクリックすると削除が行えます。また、削除したいトラック上で右クリックして表示されるメニューからも行えます。

すべてを選択

再生
複製
削除


曲名入力
アーティスト名入力
曲間入力
Title入力
Artist入力

その ファイルから録音する

WAVE、MP3、WMA、TwinVQ、MIDIなどのファイルからの録音は次のような手順で行います。

[Step1]



ファイルアイコンをクリックし、入力ソースに「ファイル」を選択します。

[Step2]



「ドロップダウンリスト」を使用して録音に使用するファイルの形式を選択します。^{注1}

[Step3]




入力ソース情報ウィンドウに表示されたファイルブラウザを使用して、仮想デッキに録音したいファイルを選択します。[Shift] キーや [Ctrl] キーを押しながら選択を行うと、任意の曲を複数選択でき、すべてのトラックを選択する場合は、[Ctrl] キーを押しながら [A] キーを押します。また、マウスのドラッグ操作でも、複数のトラックをまとめて選択することができます。

詳しい操作方法は、166頁を参照ください。

[Step4]



[録音] ボタンをクリックし、録音を開始します。

MP3/WMA/TwinVQなどの圧縮オーディオを選択した場合は、録音中に進捗状況が表示されます。また、MIDIファイルの場合は、その曲を再生しながら録音が行われます。^{注2}

録音されたトラック（楽曲）の順番の変更と複製・削除のポイント

録音されたトラック（楽曲）は、ドラッグアンドドロップでトラックの順番を変更することができます。また、[Insert] キーを押すと選択したトラックの複製を作成し、[Delete] キーを押すと選択したトラックの削除を行います。

注1

デフォルトでは「すべて」が選択されており、MP3などの特定の形式を選択した場合は、選択した形式以外のファイルは表示されなくなります。

注2


MIDIファイルの録音が行えない場合は、使用しているサウンドデバイスでMIDIファイルの再生が行えるようになっているかどうか確認してください。

その 音楽配信サイトから録音する

インターネット上に設置されている音楽配信サイトからの録音は、配信サイトから楽曲（通常は、なんらかの圧縮オーディオ形式）をダウンロードし、その後、入力ソースを「ファイル」に変更して、仮想デッキに録音します。実際の作業は次のような手順で行います。

[Step1]



WEBアイコン  をクリックし、入力ソースに「音楽配信サイト」を選択します。^{*1}

^{*1}

入力ソースに音楽配信サイトを選択した場合は、楽曲をダウンロード後、入力ソースを「ファイル」に変更したのち、録音する必要があることを知らせるメッセージが表示されます。



[Step2]



【URL】に接続したい音楽配信サイトを入力します。^{*2}

^{*2}

URLの選択

ミュージックCDデザイナー3では、あらかじめ「bayside」、「Arcstar MUSIC」、「musicfront」、「HMV」などのサイトが登録されており、プルダウンメニューから選択することができます。

CDの制作
(実践編)

[Step3]



【GO】をクリックし、選択した音楽配信サイトから楽曲をダウンロードします。また、複数の音楽配信サイトから楽曲を入手したい場合は、Step2、Step3の手順を繰り返します。^{注1}

注1

楽曲のダウンロードの方法等については、使用する音楽配信サイトのマニュアルなどをご参照ください。

[Step4]

入力ソースを「ファイル」に変更し、仮想デッキに録音を行います。ファイルからの録音については、68頁を参照してください。

Column ミュージックデータベースから曲目をダウンロードする

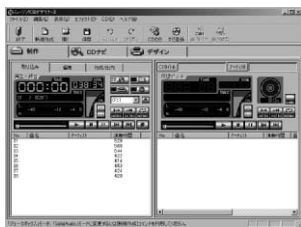
Column

情報取得の方法

音楽CDから仮想デッキに録音を行う場合は、インターネット上に設置されている「ミュージックデータベース」から、市販音楽CDのアルバム名、アーティスト名、曲目などの情報を取得することができます。取得した情報は、再生・録音デッキのトラック情報に自動的に入力されます。この情報は、CDナビに登録した場合や仮想デッキに録音した場合の情報としても使用されるので便利です。ミュージックデータベースは、次のようにして使用します。

なお、ミュージックデータベースの設定方法については、171頁を参照してください。

[Step1]



音楽CDからの録音を参考にして情報を取得したい音楽CDをCD-R/RWドライブまたはCD-ROMドライブに挿入します。

[Step2]



【CDDDB】アイコンをクリックし、検索を実行します。

[Step3]



検索結果が表示されたら、取得したい情報を選択し【OK】をクリックします。



一致する情報が発見できなかった場合は、「環境設定」で検索に使用するサーバーの設定を変更し再度、検索を実行してみてください。

[Step4]



情報が取得されると再生・録音デッキのトラック情報ウィンドに、「アーティスト名」、「曲目」などの情報が入力されます。

Part3 録音したトラックを編集する

制作モードの設定で、「基本」モードが選択されている場合は、仮想デッキに録音されたトラック（楽曲）に対して、ミュージックCDデザイナー3が搭載している編集機能を使って様々な効果を付加することができます。必要に応じて、編集作業を行ってください。^{注1}

ここでは、よく使う代表的な機能を使って、編集作業の流れを説明しています。編集作業の詳細な使い方は、第6章95頁からを参照してください。

その 頻繁に使用する編集機能

ミュージックCDデザイナー3には、標準で16種類の編集機能をサポートしています。なかでも、最も多く使用されるのが、次の2つの機能です。

・レベル調整機能

複数の音楽CDから録音を行った場合や異なったソースから録音を行った場合は、録音したトラック（楽曲）の音量が異なっています。それを調整し、均等な音量にしてくれるのがこのレベル調整機能です。1枚の音楽CDから録音を行った場合には、この機能を使用する必要はありませんが、複数の音楽CDから録音を行った場合には、この機能を使用すると聞きやすい音楽CDを作成することができます。

・ノイズ除去機能

カセットテープやレコードなどのアナログソースから録音を行った場合に、ホワイトノイズやヒスノイズなどのノイズを除去してくれるのがこの機能です。録音したトラック（楽曲）のノイズが気になる場合は、この機能を使用すると聞きやすい音楽CDを作成することができます。

△ 注1

編集機能は、「ジュークボックス」モードでは使用することはできません。

その 編集機能の使い方

[Step1]



【編集】タブをクリックします。

[Step2]



編集を加えたいトラック（楽曲）を選択します。レベル調整機能やノイズ除去機能を使用する場合は、すべてのトラックを選択してください。

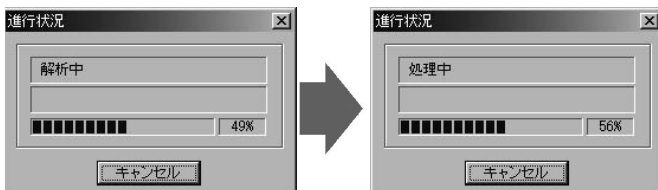
[Step3]



使用する編集機能をクリックします。ここでは、レベル調整機能を例にとって説明しておきます。

[Step4]

設定を行い、処理実行をクリックします。処理が始まります。



Part4 書き込みを行う

ミュージックCDデザイナー3は、CD作成モードとして、一般に市販されている音楽CDと同等のものを作成する「基本」モードとパソコンなどで使用できる圧縮オーディオを記録した「ジュークボックス」モードの2種類があります。ここでは、仮想デッキに録音したトラック（楽曲）をメディアに書き込む場合の手順について説明しています。

その 使用できるメディアの種類と手順

【使用できるメディア】

書き込みに使用することができるメディアは、CD-RメディアとCD-RWメディアの2種類で、それぞれ、次のような特徴があります。^{注1}

・CD-Rメディア

CD-Rメディアを使用した場合、書き込みは1回しか行えませんが、市販のCDと高い互換性を持つCDを作成することができます。例えば、「基本」モードで音楽CDを作成する場合は、市販の音楽CDプレーヤーやカーステレオなどでも再生可能な音楽CDを作成することができます。また、「ジュークボックス」モードで作成したCDは、パソコンに搭載されているCD-ROMドライブなどで読み出すことができます。

・CD-RWメディア

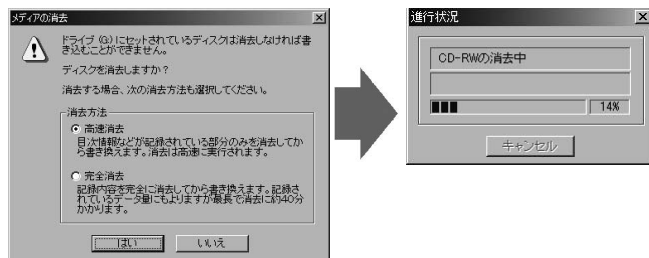
CD-RWメディアは、約1000回の書き換えを行うことができるという特徴を持つメディアです。本番前の一時的なCD作成や、書き換える可能性がある場合などに使用すると有効です。ただし、このメディアは、書き込み及び再生には、対応した製品が必要となるため、使用する場合は、手持ちの機器が対応しているかどうかを確認しておく必要があります。特に再生には注意してください。

また、CD-RWメディアに書き込みを行う場合は、書き込み前にメディアに情報が記録されているかどうかチェックされます。そして、「基本」モードでは、何かが書き込まれている場合は、その情報を消去してから書き込みが開始され、「ジュークボックス」モードでは、音楽CDとして書き込まれている場合と追記不可状態の場合に、情報を消去してから書き込みが行われます。^{注2}

△ 注1

TYPE80メディア(700MBメディア)は、74分(650MB)までしか書き込みを行えないCD-R/RWドライブがあります。74分を越えた書き込みを行いたい場合は、ドライブメーカーにお問い合わせください。

CDの制作
(実践編)



△ 注2

「ジュークボックス」モードでは、追記可能状態で作成されている場合は、データの消去が行えません。

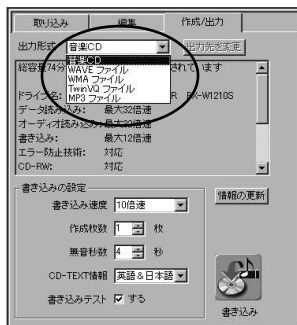
[手順]

ミュージックCDデザイナー3は、仮想デッキの動作モードに「基本」モードを選択している場合は、音楽CDが作成され、「ジュークボックス」モードを選択している場合は、選択した圧縮オーディオが書き込まれたCDを作成します。また、CDの作成を行う代わりに、仮想デッキに登録したトラック（楽曲）をファイルとしてハードディスクに保存することもできます。ここでは、実際の書き込みの手順について説明しています。

[Step1]

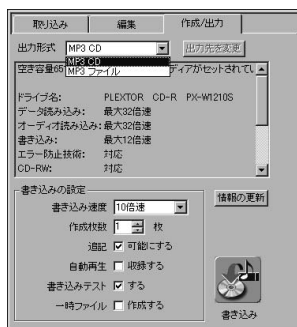
メディアをCD-R/RWドライブに挿入し、[作成/出力]タブをクリックします。

[Step2]



【出力形式】を選択します。「基本」モードを選択している場合は、「音楽CD」を選択するとCDの作成を行い、「ジュークボックス」モードでは、「MP3 CD」/「WMA CD」/「TwinVQ CD」を選択するとCDの作成を行います。ファイル形式を選択した場合は、ファイルとして保存することができます。

「基本」モードを選択した場合の画面

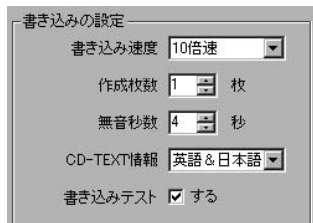


「ジュークボックス」モードで「MP3 CD」を選択した画面

[Step3]

[書き込み設定] を行います。

・「基本」モードの場合

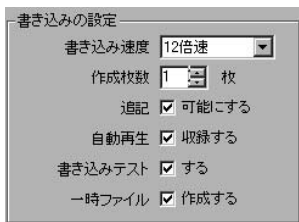


書き込み速度。 作成枚数、 無音秒数、
CD-TEXT情報^{注1}、 書き込みテスト、の
5種類の項目について設定を行います。
詳しくは76頁を参照してください。

△ 注1

CD-TEXTの書き込みに
対応したCD-R/RWドライ
ブを使用している場合のみ
選択できます。

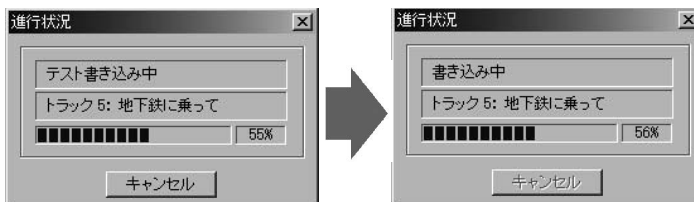
・「ジュークボックス」モードの場合



書き込み速度、 作成枚数、 追記、 自
動再生 (プレーヤソフトを書き込むかどうか)
書き込みテスト、 一時ファイル、の6種
別の項目について設定を行います。
詳しくは78頁を参照してください。

[Step4]

書き込みをクリックしCDの作成を開始します。



*1

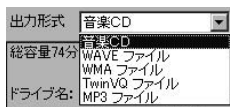
情報の更新ボタンの使い方

メディアの情報が入りまくる場合、[情報の更新] をクリックしてください。

*2

ハードディスクに保存

音楽CD以外を選択すると、選択したファイル形式でハードディスクに保存することができます。詳しくは、82頁を参照してください。



注1

この設定は、仮想デッキで [曲間秒数] を設定していない場合に有効です。

その 音楽CDを作成する

制作モードで「基本」モードを選択している場合は、音楽CDを作成することができます。ここでは、その手順を説明しています。

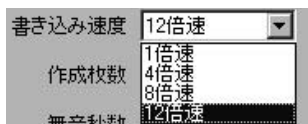
[Step1]

[作成/出力] タブをクリックしてからCD-R/RWドライブにメディアを挿入します。^{*1}

[Step2]

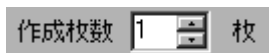
[出力形式] のプルダウンメニューから「音楽CD」を選択します。^{*2}

[Step3]



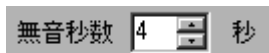
[書き込み速度] の設定を行います。書き込みスピードは、数字が大きいくほど短時間で書き込みを行うことができます。

[Step4]



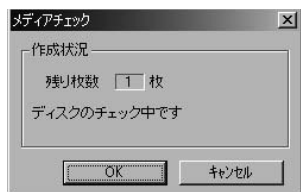
作成したいオリジナル音楽CDの [作成枚数] の設定を行います。

[Step5]



トラック（楽曲）の末尾に付加する [無音秒数] のデフォルト値を秒単位で設定します。^{※1}

無音秒数について



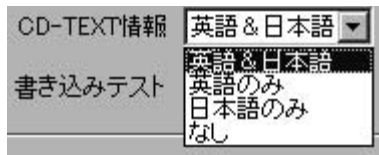
N	曲名	アーティスト	演奏時間	曲間秒数
01	はいはい	プリズムドライブ	5:29	2
02	知らないで	プリズムドライブ	5:08	5
03	約束をくれた	プリズムドライブ	5:44	2
04	はじめての恋	プリズムドライブ	4:22	0
05	夢を叶えて	プリズムドライブ	4:14	0
06	アツい海の向こうに	プリズムドライブ	4:53	2
07	ジャンプ	プリズムドライブ	4:24	10
08	今度、会おうね	プリズムドライブ	4:20	2

ミュージックCDデザイナー3は、「基本」モードで使用している場合、トラック（楽曲）の末尾に付加する「無音秒数」を任意に設定することができます。例えば、ライブ盤の音楽CDなどで拍手が鳴り続いたまま、次の曲に入っていくような音楽CDを作成する場合は、無音秒数の設定を変更する必要があります。「無音秒数」の設定は、2種類の方法があります。ただしこの設定は、「ジュークボックス」モードでは、設定しても無視されるので注意して下さい。

「曲間秒数」の設定 / 仮想デッキ内のある「曲間秒数」の設定は、無音秒数を1曲づつ任意に1秒単位で設定することができます。ここで設定した無音時間の長さは、最優先で使用されます。例えば、前の曲の拍手がなり響いたままフェードアウトしてゆき、そのまま次の曲が始まるようなCDを作成する場合は、拍手がなり響いたままフェードアウトするトラック（楽曲）の「曲間秒数」の値を「0秒」に設定します。

「無音秒数」の設定 / [作成/出力] タブに準備されている「無音秒数」の設定は、デフォルトで使用する無音時間の長さです。仮想デッキ内の曲間秒数の設定が行われていないトラックすべてに適用されます。デフォルトは4秒に設定されており、1秒単位で設定できます。

[Step6]



CD-TEXT 情報を書き込むかどうかの設定を行います。設定は、[英語 & 日本語] [英語のみ] [日本語のみ] [なし] の 4 種類から選択できます。^{注1}

△ 注1


CD-TEXTの設定は、CD-TEXTの書き込みに対応したCD-R/RWドライブを使用している場合のみ表示されます。

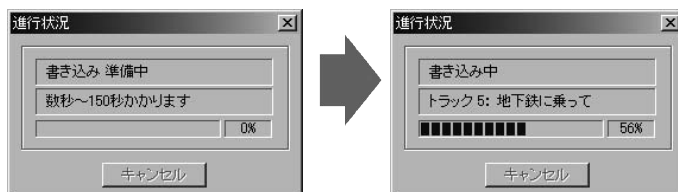
[Step7]

書き込みテストを行うかどうかの設定を行います。テスト書き込みを行った場合は、実際のCDの書き込みの2倍の時間が必要になります。

書き込みテスト ☒ する

[Step8]

書き込みアイコンをクリックし書き込みを行います。書き込み中は、詳細な進捗状況が表示されます。^{*3}



*3

書き込みの
キャンセル

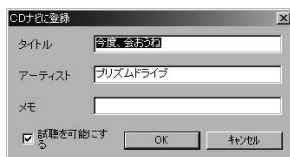
テスト書き込み中に [キャンセル] をクリックするとテスト書き込みを終了し、すぐに「書き込み」をスタートさせることができます。

複数枚作成のポイント



複数枚の作成を設定している場合は、書き込みが終了すると次のメディアの挿入を促すメッセージが表示されますので新しいメディアを入れてください。その後自動的にメディアが認識され、次の書き込みがスタートします。

[Step9]



書き込みが終了すると「CDナビ」への登録画面が表示されます。「タイトル」「アーティスト」名に変更等があれば入力します。また、試聴を可能にするかどうかの設定を行い [OK] をクリックします。[キャンセル] をクリックするとCDナビへの登録は行われません。

[Step10]

書き込み済みメディアが排出され書き込みが終了します。

*1

情報の更新ボタンの使い方

メディアの情報がうまく取得されない場合は、[情報の更新] をクリックしてください。

*2

ハードディスクへの保存

ファイル形式を選択すると、仮想デッキに録音された楽曲をハードディスクに保存することができます。詳しくは、82頁を参照してください。

注1

ジュークボックスプレーヤを収録すると、約10Mバイトの空き容量を消費します。ただし、すでにジュークボックスプレーヤが収録されているメディアに追記する場合は、2重に収録されることはなく、余分に容量を消費することはありません。

その ジュークボックスCDを作成する

制作モードで「ジュークボックス」モードを選択している場合は、ジュークボックスCDを作成することができます。ここでは、その手順を説明しています。

[Step1]

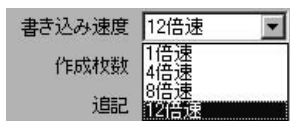
[作成/出力] タブをクリックしてから、CD-R/RW ドライブにメディアを挿入します。^{*1}

[Step2]



[出力形式] のプルダウンメニューから最初に選択した圧縮オーディオの形式のCDを選択します。例えば、MP3を選択した場合は、「MP3 CD」を選択します。^{*2}

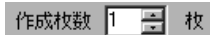
[Step3]



[書き込み速度] の設定を行います。書き込みスピードは、数字が大きいほど短時間で書き込みを行うことができます。

[Step4]

作成したいオリジナル音楽CDの [作成枚数] の設定を行います。



[Step5]

「追記」を可能にするかどうかの設定を行います。追記不可の設定を行うと、メディアに空き領域が残っていても再度書き込みを行うことはできません。通常は、追記可能な設定で使用する と 便利 です。

また、追記可能な設定では、メディアの空き容量がなくなるまで1枚のメディアに書き込みを行うことができます。例えば、MP3のジュークボックスCDを作成した後に、WMAやTwinVQなどのジュークボックスCDとして追記を行うことも可能です。その際、前回記録した情報が失われるということはありません。



[Step6]

ジュークボックスプレーヤを収録したジュークボックスCDを作成するかどうかの設定を行います。初めて記録する場合では、収録する設定を行っておくと便利 です。^{*1}



[Step7]

書き込みテストを行うかどうかの設定を行います。テスト書き込みを行った場合は、実際のCDの書き込みの約2倍の時間が必要になります。


書き込みテスト ☒ する

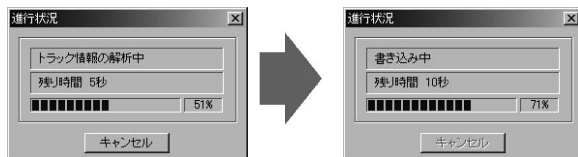
[Step8]

書き込みを行う場合に作業領域に「一時ファイル」を作成してからCDの書き込みを行うかどうかの設定を行います。^{*1}

一時ファイル ☒ 作成する

[Step9]


書き込みアイコンをクリックし書き込みを行います。書き込み中は、詳細な進捗状況が表示されます。^{*2}



[Step10]


書き込み済みメディアが排出され書き込みが終了します。

*1

 「一時ファイル」の設定

この設定を有効にすると、安定して書き込みを行えるという効果があります。

*2

 テスト書き込み中のキャンセル

テスト書き込み中に「キャンセル」をクリックするとテスト書き込みを終了し、すぐに「書き込み」をスタートさせることができます。

複数枚作成のポイント



複数枚の作成を設定している場合は、書き込みが終了すると次のメディアの挿入を促すメッセージが表示されますので新しいメディアを入れてください。その後自動的にメディアが認識され次の書き込みがスタートします。

一度書いたメディアに追記する



ジュークボックスCDは、書き込み時の設定で、追記可能を選択しておくことで使用しているメディアの空き容量がなくなるまで、再度記録を行うことができます。また、追記を行った場合も、前回記録した情報は、そのまま引き継がれるようになっており、使用する圧縮形式が異なる楽曲を記録していくこともできます。

1度書き込んだメディアへの追記は、「追記」を「可能」に設定して記録したメディアをCD-R/RWドライブに挿入するだけです。それ以外の手順は、すべて通常の作成と同様に行うことができます。

その ファイルに書き出す

ミュージックCDデザイナー3は、仮想デッキに録音した楽曲を指定したファイルの形式で書き出し、ハードディスクなどに保存しておくことができます。ここでは、ファイルとして保存する場合の手順を説明しています。

・保存できるファイル形式

ミュージックCDデザイナー3で保存できるファイル形式は、大きく分けて非圧縮のWAVEファイル形式と、MP3やWMA、TwinVQなどの圧縮オーディオの2種類の形式があります。

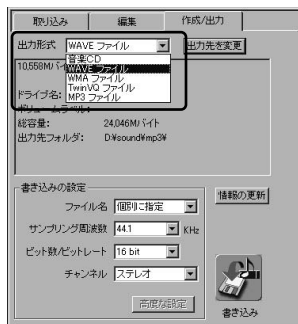
「基本」モードでは、WAVファイル、MP3、WMA、TwinVQのすべての形式のファイルを作成することができ、「ジュークボックス」モードでは、ジュークボックスで使用する形式の圧縮オーディオのみが選択できます。

・作成の手順

ファイルとしての書き出しの手順は、「基本」モードと「ジュークボックス」モードで異なっており、それぞれ、次のような手順で行います。

「基本」モード編

[Step1]



「作成/出力」タブをクリックし、[出力形式] にファイル形式（例えば、MP3 ファイル）を選択します。

★1



新規フォルダの作成

新規フォルダを作成し、そこに保存することもできます。

[Step2]



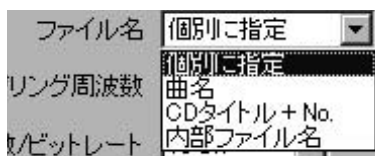
[出力先を変更] をクリックし、出力するファイルの保存先を設定します。

[Step3]

N	曲名	アーティスト	演奏時間	曲間秒
01	はいはい	プリズムドライブ	5:29	-
02	知らないでひと	プリズムドライブ	5:08	-
03	約束見つけた	プリズムドライブ	5:44	-
04	幸せのぬいおと	プリズムドライブ	4:22	-
05	地下鉄に乗って	プリズムドライブ	4:14	-
06	7つの海の回廊に	プリズムドライブ	4:53	-
07	シャブー	プリズムドライブ	4:24	-
08	今度、会おうね	プリズムドライブ	4:20	-

保存したい楽曲を選択します。

[Step4]



保存時に使用するファイル名の付け方を設定します。「個別に指定」を設定すると、楽曲を保存するたびに1曲ずつファイル名の設定を行います。また、「曲名」は、仮想デッキの曲名情報をフ

ァイル名として使用し、「CDタイトル + No.」は、CDタイトルに番号を付加してファイル名として、「内部ファイル名」は“MCD”の後ろに順番号を付加したファイル名で保存します。

[Step5]

【サンプリング周波数】【ビット数/ビットレート】【チャンネル】などの項目について設定を行います。



[Step6]

MP3/TwinVQの圧縮オーディオの形式を選択した場合は、エンコード形式に音質優先かどうかなどの設定を行います。



MP3ファイルを選択し、[高度な設定] ボタンをクリックした際の画面



TwinVQファイルを選択し、[高度な設定] ボタンをクリックした際の画面

[Step7]

【書き込み】をクリックし、ファイルとして保存します。

「ジュークボックス」モード編

[Step1]



【作成/出力】タブをクリックし、「出力形式」にファイル形式（例えば、MP3ファイル）を選択します。

[Step2]



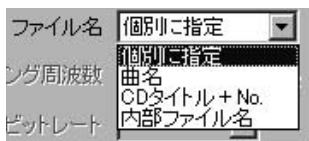
【出力先を変更】をクリックし、出力するファイルの保存先を設定します。

[Step3]

N	曲名	アーティスト	演奏時間	曲間秒
01	アンの魂の向ふ心2	プリズムドライブ	4:53	-
02	ばいばい2	プリズムドライブ	5:30	-
03	アンの魂の向ふ心2	プリズムドライブ	4:53	-
04	幸せの歌しおと2	プリズムドライブ	4:23	-
05	やばい、おれがハート2	プリズムドライブ	4:23	-
06	おれがハート2	プリズムドライブ	5:08	-
07	地下鉄に乗ってハート2	プリズムドライブ	4:14	-
08	約束見つけたハート2	プリズムドライブ	5:45	-

保存したい楽曲を選択します。

[Step4]



保存時に使用するファイル名の付け方を設定します。「個別に指定」を設定すると、楽曲を保存するたびに1曲ずつファイル名の設定を行います。また、「曲名」は、仮想デッキの曲名情報をファイル名として使用し、「CDタイトル+No」は、CDタイトルに番号を付加してファイル名として、「内部ファイル名」は、“MCD”の後ろに順番号を付加したファイル名で保存します。

[Step5]

【書き込み】をクリックし、ファイルとして保存します。

*1
👉 **新規フォルダの作成**
新規フォルダを作成し、そこに保存することもできます。

Column CD-TEXTの音楽CDの作成とトラック情報の編集

CD-TEXTの音楽CDについて

ミュージックCDデザイナー 3は、対応した音楽CDプレーヤなどでアーティスト名、アルバム名、曲目などを表示することができる文字情報を記録したCD-TEXTの音楽CDを作成することができます。^{*1} ここでは、文字情報を記録したCD-TEXTの音楽CDの作成の手順について説明しています。

CD-TEXTの音楽CDの作成について

・トラック情報の編集

ミュージックCDデザイナー 3は、仮想デッキの登録されている情報（トラック情報）を利用してCD-TEXTの音楽CDを作成します。文字情報として使用される項目は、次の項目があり、英語の場合で半角アルファベット最大160文字、日本語の場合で80文字を項目毎に入力することができます。^{*2}



アルバムのタイトルを入力する「CDタイトル」の項目。英語と日本語の両方を入力でき、両方の文字情報として利用されます。

アルバムのアーティスト名を入力する「アーティスト」の項目。英語と日本語の両方を入力でき、両方の文字情報として利用されます。

トラック情報ウィンドウ内の楽曲の名称「曲名」と演奏者「アーティスト」の項目。日本語の文字情報として利用されます。

トラック情報ウィンドウ内の楽曲の名称「Title」と演奏者「Artist」の項目。英語の文字情報として利用されます。

・書き込みモードについて

CD-TEXTの音楽CDを作成する場合は、仮想デッキに入力されている情報を使用し、次の4種類の書き込み方法が準備されています。^{*3}

- (1) 英語と日本語の両方の情報を書き込む「英語&日本語」
- (2) 英語の情報のみを書き込む「英語のみ」
- (3) 日本語の情報のみを書き込む「日本語のみ」
- (4) CD-TEXT情報を書き込まない「なし」

*1

ミュージックCDデザイナー 3では「英語」と「日本語」の2種類の言語に対応したCD-TEXTの音楽CDを作成できます。

*2

英語の情報はすべて「半角」で書き込まれ、日本語の情報はすべて「全角」で書き込まれます。

*3

CD-TEXTの音楽CDを作成する場合は、対応した言語すべての項目について情報を入力する必要があります。例えば、日本語と英語の両方の情報を書き込むためには、日本語/英語のアーティスト名、アルバム名、曲目、アーティスト（演奏者）のすべての項目を入力する必要があります。

トラック情報の編集の手順(入力・変更の手順)

Column

CD-TEXTの音楽CDの作成に使用される文字情報(トラック情報)の編集は、次の手順で行います。

* 1

ここで設定するのは、このアルバムのアーティスト名です。楽曲の演奏者は別途設定できます。

* 2

曲名・アーティスト名などの項目にポイントを置き、ダブルクリックすることでも入力・変更が可能な状態になります。

① ② (1) CDタイトルの設定
[CDタイトル]をクリックし、アルバムタイトルを入力します。



(2) CDのアーティスト名の設定

[アーティスト]をクリックし、CDのアーティスト名を入力します。*1



(3) 曲名及びアーティスト名の入力・変更

No	曲名	アーティスト	演奏時間	曲の枚数	Title	Artist
01	ほしをい	カーストドライブ	5:29	-	Quiet island	MAYA
02	すべてを運搬	ムラフ	5:08	-	Song for you	MAYA
03	約束	ムラフ	5:44	-	Sunset is as ascent	MAYA
04	知	ムラフ	4:22	-	Looking a neephole	MAYA
05	地	ムラフ	4:14	-	Yesterday Dream	MAYA
06	夜	ムラフ	4:53	-	Overhead Clean Crime	MAYA
07	今	ムラフ	4:20	-	H# MAYA	MAYA
08	今	ムラフ	4:20	-	H# MAYA	MAYA

曲名入力

アーティスト名入力

曲間入力

Title入力

Artist入力

音響効果

トラック制作

エフェクト

利用して代

設定したい楽曲（トラック）の日本語/英語の曲名やアーティスト名（演奏者）を入力します。入力後、設定したい楽曲を右クリックして表示されるメニューから選択することで行えます。[曲名入力]/[アーティスト名入力]を選択した場合は、「日本語」の曲名や

アーティスト名の設定が行え、[Title入力]/[Artist入力]を選択した場合は、「英語」の曲名やアーティスト名の設定が行えます。*2

No	曲名	アーティスト	演奏時間	曲開始時刻	Title	Artist
01	はいはい	ブルームドライブ	5:08	-	Quiet Island	MAYA
02	おはよう	ブルームドライブ	5:08	-	Some for you	MAYA
03	約束見た	ブルームドライブ	5:44	-	Sunset is an assent	MAYA
04	幸せの光	ブルームドライブ	4:22	-	Looking a peephole	MAYA
05	地下に夢	ブルームドライブ	4:14	-	Yesterday Dream	MAYA
06	7つの海の向こう	ブルームドライブ	4:53	-	Crime Clean Crime	MAYA
07	シンド	ブルームドライブ	5:38	-	Hi MAYA	MAYA
08	今、今	ブルームドライブ	4:20	-	Hi MAYA	MAYA

№	曲名	アーティスト	発売時間	曲数/枚数	Title	Artist
01	はいはい	クイズマジックアカデミー	00:00	-	Quiz island	MAYA
02	約々といと	クイズマジックアカデミー	00:00	-	Song for you	MAYA
03	約束をつた	クイズマジックアカデミー	00:00	544	Sunset is an assent	MAYA
04	夢さの取れよ	クイズマジックアカデミー	00:00	412	Looking a peephole	MAYA
05	地下に集って	クイズマジックアカデミー	00:00	424	Yesterday Dream	MAYA
06	友の海向へ	クイズマジックアカデミー	00:00	418	Green Clean Crime	MAYA
07	シャッ	クイズマジックアカデミー	00:00	420	-	MAYA
08	今更、おめう	クイズマジックアカデミー	00:00	423	Hi MAYA	MAYA

No	曲名	アーティスト	演奏時間	曲間移動	Title	Artist
01	ほろい	プリズムドライブ	4:08	-	Quiet island	MAYA
02	ほろい	プリズムドライブ	4:08	-	Quiet island	MAYA
03	約束を背けた	プリズムドライブ	5:44	-	Sunset is an assent	MAYA
04	幸せの歌	プリズムドライブ	4:22	-	Looking a people	MAYA
05	地下街に集って	プリズムドライブ	4:14	-	Yesterday Dream	MAYA
06	つゆの涙の向こうに	プリズムドライブ	4:53	-	Cream Clean Circle	MAYA
07	ハルカ	プリズムドライブ	4:20	-	HI MAYA	MAYA
08	今宵、ふたつ	プリズムドライブ	4:20	-	HI MAYA	MAYA

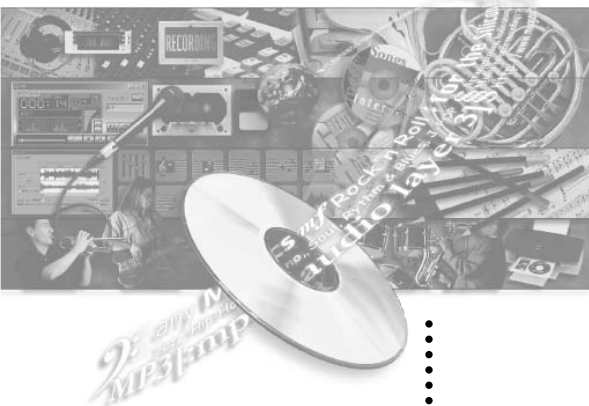
No	曲名	アーティスト	発売時間	曲調特徴	Title	Artist
01	ほろよい	グズムドライヴ	5:23		Quiet island	MAYA
02	おぼろげな心と	グズムドライヴ	5:09		Song for you	MAYA
03	約束をつたへ	グズムドライヴ	5:44		Sunset is an accent	MAYA
04	幸せの心とおと	グズムドライヴ	4:22		Looking a peephole	MAYA
05	地下鉄に乗って	グズムドライヴ	4:14		Yesterday Dream	MAYA
06	ふたりの向こうに	グズムドライヴ	4:53		Clean Clean Crime	MAYA
07	シャッポ	グズムドライヴ	4:20		Kiss	MAYA
08	今、会おうね	グズムドライヴ	4:23		HI MAYA	MAYA

第 5 章

SolidAudioプレーヤへの 転送とバックアップ

ここでは、インターネット音楽配信技術「SolidAudio」を採用した音楽配信サイトからダウンロードした楽曲をSolidAudioプレーヤへダウンロードする方法などを説明しています。

- Part 1 SolidAudio方式とミュージックCDデザイナー.....86
- Part 2 SolidAudio方式の楽曲をダウンロードする.....87
- Part 3 SolidAudioプレーヤへの楽曲の転送と
ファイル形式での保存88
- Part 4 SolidAudioプレーヤの楽曲をバックアップする...92



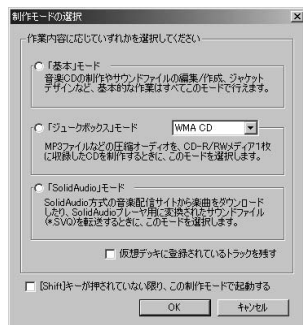
SolidAudio Player

Part1 SolidAudio方式とミュージックCDデザイナー 3

注1

SolidAudioを使用するためには、対応したSolidAudioプレーヤーが必要になります。

ミュージックCDデザイナー3は、NTT東日本/NTT/神戸製鋼の3社によって提唱されたインターネット音楽配信方式「SolidAudio」に対応しており、次のような機能をサポートしています。^{注1}



楽曲のダウンロード

インターネット上に設置された音楽配信サイトから、楽曲のダウンロードを行うことができます。

SolidAudioプレーヤーへの楽曲の転送

SolidAudio方式を採用したインターネット上の音楽配信サイトからダウンロードした楽曲や、あらかじめ準備しておいたSolidAudio方式の楽曲をSolidAudioプレーヤーへ転送することができます。また、SolidAudioプレーヤーへの転送は、すでに記録されている楽曲を残したまま、新しい楽曲を追加する「追記」とすでに記録されている楽曲を消去し、新たに楽曲を転送する「書き換え」の2種類の方法があります。

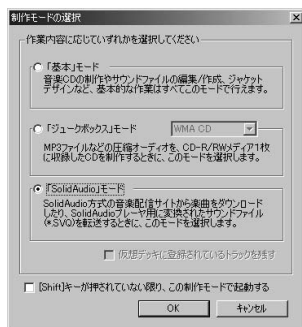
SolidAudioプレーヤーに収録された楽曲のバックアップ

SolidAudioプレーヤーに収録されている楽曲のバックアップを行うことができます。また、バックアップした楽曲は、必要に応じてSolidAudioプレーヤーに転送することもできます。

Part2 SolidAudio方式の楽曲をダウンロードする

SolidAudio方式の楽曲をインターネット上の音楽配信サイトからダウンロードするには次のような手順で行います。

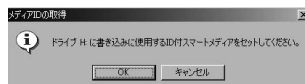
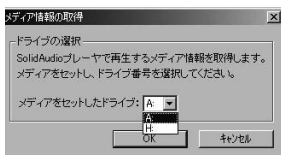
[Step1]



制作モードの選択から「SolidAudio」モードを選択します。

[Step2]

SolidAudioプレーヤで使用するメディアをリーダー・ライタにセットし、使用しているドライブレターをプルダウンメニューから選択します。^{注1}



注1

SolidAudioで使用するメディアのリーダー・ライタについては、プレーヤ付属のマニュアル等を参照してください。

[Step3]

[入力ソース] に [音楽配信サイト]  を選択します。

[Step4]



「URL」に接続したい音楽配信サイトを入力します。^{*1}

*1



音楽配信サイトの選択

あらかじめ登録されているサイトのうち、「BaySide」は、SolidAudio方式専用の音楽配信サイトです。

Solid Audioの
方式

[Step5]

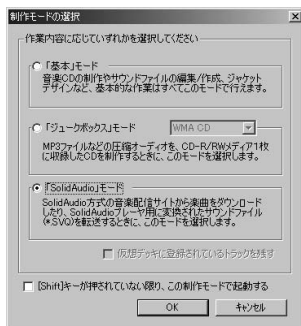
[GO] をクリックし、選択した音楽配信サイトから SolidAudio 方式の楽曲をダウンロードします。ダウンロードした楽曲は、仮想デッキに登録されます。また、複数の音楽配信サイトから楽曲を入手したい場合は、「Step3」「Step4」の手順を繰り返します。

Part3 SolidAudioプレーヤへの楽曲の転送とファイル形式での保存

インターネット上に設置されている音楽配信サイトからダウンロードしたSolidAudio方式の楽曲や、あらかじめ準備しておいた楽曲は、ミュージックCDデザイナー3を使用してSolidAudioプレーヤに転送することができます。また、ファイル形式で保存することもできます。転送やファイルの保存は、次の手順で行います。

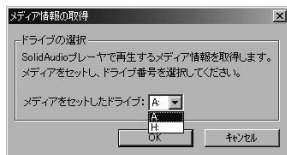
その あらかじめ準備しておいた楽曲を転送する

[Step1]



制作モードの選択から「SolidAudio」モードを選択します。

[Step2]



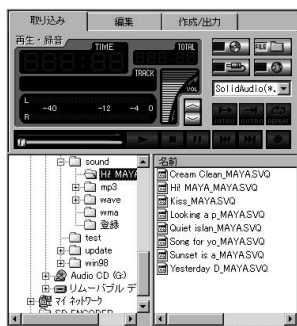
SolidAudioプレーヤで使用するメディアをリーダー・ライタにセットし、使用しているドライブをプルダウンメニューから選択します。注1

注1

SolidAudioで使用するメディアのリーダー・ライタについては、プレーヤ付属のマニュアル等を参照してください。


[Step3]

[入力ソース] に [ファイル] を選択し、SolidAudioプレーヤに転送したい楽曲を選択します。

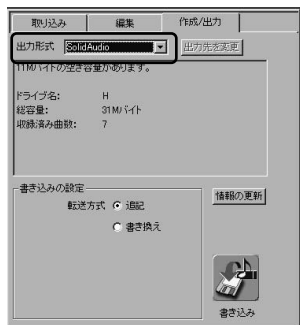


[Step4]



【録音】アイコンをクリックし、仮想デッキに楽曲を登録します。

[Step5]




【作成/出力】タブをクリックし、【出力形式】に「SolidAudio」を選択します。【出力形式】にファイル形式を選択した場合は、ファイル形式で保存することができます。詳しくは、82頁を参照してください。

[Step6]

転送方式の設定を行います。【追記】を選択した場合は、仮想デッキに登録された楽曲を追加します。【書き換え】を選択した場合は、すでに書き込まれている楽曲を消去し、仮想デッキに登録されている楽曲を転送します。

[Step7]

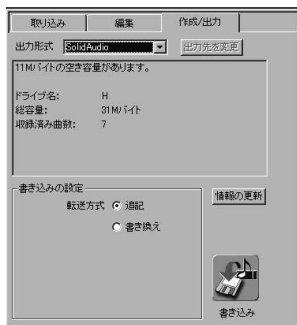


【書き込み】アイコンをクリックし、楽曲の転送を始めます。

その 音楽配信サイトからダウンロード後転送する

Part2の手順に従って音楽配信サイトからダウンロードした楽曲は、ダウンロード終了後、仮想デッキに登録されます。仮想デッキに登録された楽曲は、ファイルとして保存できるほか、SolidAudioプレーヤに転送することができます。SolidAudioプレーヤへの転送は、次のような手順で行います。

[Step1]




[作成/出力] タブをクリックし、[出力形式] に「SolidAudio」を選択します。[出力形式] にファイル形式を選択した場合は、ファイル形式で保存することができます。詳しくは、82頁を参照してください。

[Step2]

転送方式の設定を行います。[追記] を選択した場合は、仮想デッキに登録された楽曲を追加します。[書き換え] を選択した場合は、すでに書き込まれている楽曲を消去し、仮想デッキに登録されている楽曲を転送します。

[Step3]



[書き込み] アイコン  をクリックし、楽曲の転送を始めます。

その ファイルとして保存する

仮想デッキに登録された楽曲は、SolidAudioプレーヤへ転送する以外にもファイル形式で保存することもできます。ファイル形式で保存する場合は、次の手順で行います。

[Step1]



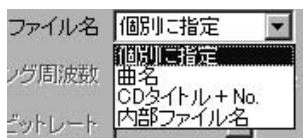
【作成/出力】タブをクリックし、プルダウンメニューから【出力形式】に「SVQファイル」を選択します。

[Step2]



【出力先を変更】をクリックし、保存先を選択します。

[Step3]



【ファイル名】の形式の設定を行います。設定は、個別に設定、曲名、CDタイトル + No、内部ファイル名の4種類の中から選択できます。^{*1}

*1




ファイル名の設定

ファイル名の形式を「個別に設定」に選択した場合は、1曲保存するごとにファイル名を設定することができます。

Solid Audioの
方式

[Step4]



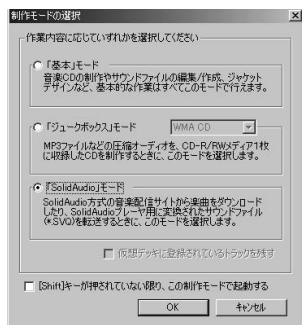
【書き込み】アイコンをクリックし、楽曲の保存を開始します。



Part4 SolidAudioプレーヤの楽曲をバックアップする

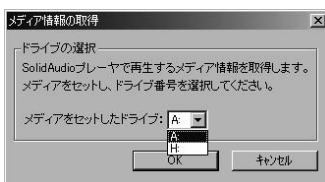
ミュージックCDデザイナー3は、SolidAudioプレーヤのメディアに書き込まれている楽曲のバックアップを行うことができます。楽曲のバックアップは次の手順で行います。

[Step1]



制作モードの選択から「SolidAudio」モードを選択します。

[Step2]



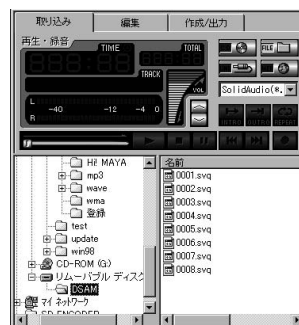
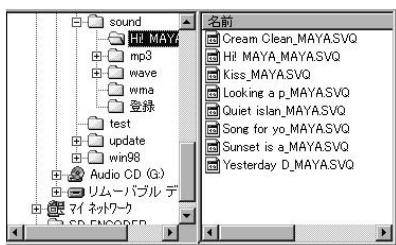
SolidAudioプレーヤで使用するメディアをリーダーにセットし、使用しているドライブレーをプルダウンメニューから選択します。^{注1}

注1

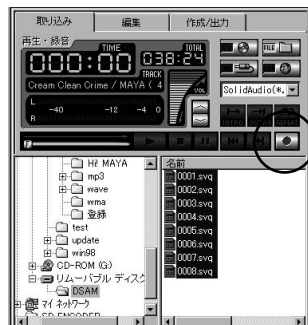
SolidAudioで使用するメディアのリーダーについては、プレーヤ付属のマニュアル等を参照してください。


[Step3]

[入力ソース] に [ファイル] を選択し、SolidAudioプレーヤで使用するメディアが書き込まれたドライブを選択します。

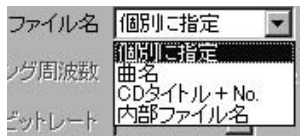


[Step4]



バックアップしたい楽曲を選択し、[録音] アイコンをクリックし楽曲を仮想デッキに登録します。

[Step5]



[作成/出力] タブをクリックし、プルダウンメニューから [出力形式] に「SVQファイル」を選択します。

[Step6]



[出力先を変更] をクリックし、保存先を選択します。

* 1
🔧 **ファイル名の設定**

ファイル名の形式を「個別に設定」に選択した場合は、1 曲保存することにファイル名を設定することができます。

[Step7]



【ファイル名】の形式の設定を行います。設定は、個別に設定、曲名、CDタイトル + No、内部ファイル名の 4 種類の中から選択できます。*1

[Step8]



【書き込み】アイコンをクリックし、楽曲の保存を開始します。

第6章

編集機能を使いこなす

ミュージックCDデザイナー3は、ユーザーが完成度の高いCDを作れるように、仮想デッキに録音した曲を思い通りに編集したり、さまざまな音響効果を施すための『編集機能』を備えています。

ここでは、ミュージックCDデザイナー3が標準で備えている16種類の編集機能についての使用法をご説明します。

概要 編集機能について	96
基本操作のチャート	98
編集コマンドの使い方 その <音響効果用コマンド>	99
編集コマンドの使い方 その <トラック操作用コマンド> ...	103
編集コマンドの使い方 その <エフェクトコマンド> ...	114



Edit

編集機能について

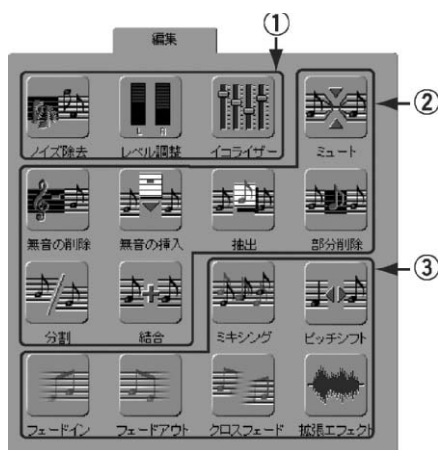
注1

メニューでは『エフェクト』と名付けられていますが、意味合いは同じです。

ミュージックCDデザイナー3は、仮想デッキに録音された曲（トラック）に対して様々な音響効果を施すことができる機能を備えています。これらは総称して『編集機能』と呼ばれます。^{注1}

編集機能を効果的に使うことで、カセットテープやレコードから録音した際のノイズを目立たなくし、曲ごとの音量差をなくして聞きやすくしたCDや、曲の一部分をカットしたり、繰り返したりといった特殊な編集を施したCD、さらには複数の曲をミキシング（混合）したCDといった、市販のCDと同等の音響効果を使ったCDを作ることができます。

ミュージックCDデザイナー3に標準で搭載されている編集機能としては、以下の16種類のコマンドがあります。



音響効果用コマンド



カセットテープのヒスノイズなどを除去する『ノイズ除去』コマンド



曲（トラック）の音量をさまざまに調節する『レベル調整』コマンド



特定の周波数の音を増減して音質を変化させる『イコライザー』コマンド

トラック操作用コマンド



曲の特定部分の音量を下げる『ミュート』コマンド



曲中の余計な無音部分を削除する『無音の削除』コマンド



必要箇所に無音部分を挿入する『無音の挿入』コマンド



曲の特定部分を切り出す『抽出』コマンド



曲の特定部分を削除する『部分削除』コマンド



1つの曲（トラック）を2つ以上に分ける『分割』コマンド



2つ以上の曲を1つにまとめる『結合』コマンド

エフェクトコマンド



2つの曲を混合する『ミキシング』コマンド



曲のテンポと音程を上下できる『ピッチシフト』コマンド



曲の先頭部分の音量を徐々に上げる『フェードイン』コマンド



曲の末尾部分の音量を徐々に下げる『フェードアウト』コマンド



2つの曲をフェードアウト/フェードインでつなぐ『クロスフェード』コマンド



MCCDエクステンションによって拡張された『拡張エフェクト』コマンド^{注1}

編集コマンドの実行方法

編集コマンドは、「制作」ウィンドウで「編集」タブを表示し、仮想デッキでコマンドを使いたいトラックを選択することで使用可能となります。

コマンドの選択は、

編集タブに表示されたボタンで行う方法

メニューバーの「エフェクト」メニューで行う方法

「制作」ウィンドウに「編集」タブを表示した状態で仮想デッキでトラックを選択し、マウスボタンを右クリックすることで表示される右クリックメニューで行う方法

の3種類があります。

このうち、右クリックメニューで表示される編集メニューは、『音響効果用コマンド』、『トラック操作用コマンド』、『エフェクトコマンド』の3つのグループに分かれています。

内訳としては、上記されているグループと同じです。つまり、『音響効果用コマンド』は『ノイズ除去』から『イコライザー』まで、『トラック操作用コマンド』は『ミュート』から『結合』コマンドまでが、『エフェクトコマンド』には『ミキシング』から『拡張エフェクト』までのコマンドが割り当てられています。

△ 注1

『拡張エフェクト』コマンドは、標準では右チャンネルと左チャンネルの音のバランスを調整する『L/R個別レベル調整機能』のみが搭載されています。

また、この機能は将来追加することが可能なように設計されています。

編集機能を使いこなす

基本操作のチャート

*1



複数のトラックの選択

複数のトラックをまとめて選択したいときは、[Shift] キーを押しながらクリックすることで行えます。たとえば全てのトラックを選択したい場合は、一番最初のトラックをクリックしてから、[Shift] キーを押しながら一番最後のトラックをクリックします。

また、1トラックずつ複数のトラックを選択したい場合は、[Ctrl] キーを押しながらクリックします。この場合は、たとえば1曲目と3曲目といったように、隣り合っていないトラックでもまとめて選択することができます。

注1

1つのトラックを選択した場合と複数のトラックを選択した場合では、使えるコマンドが異なります。それぞれのコマンドの説明で入っている **1曲** **2曲** **複数曲** のアイコンは、それぞれ1曲 / 2曲 / 複数曲を選択した状態で使えるコマンドであることを表しています。

なお『レベル調整』コマンドのみ、複数曲を選択すると機能が拡張されます。

Step1

トラック（曲）を選択します

仮想CDトラックに録音されたトラックの中から、編集したいトラックを選択します。^{*1}



Step2

編集コマンドを選択します

選択したトラックに対して使いたい、編集コマンドを選択します。^{注1}



Step3

各種設定を行います

設定ウィンドウが表示されますので、編集コマンドごとに必要となる、各種の設定を行います。使用する編集コマンドによっては、効果を確認するために試聴を行うことができます。



Step4

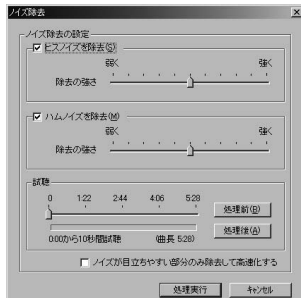
処理を実行します

設定ウィンドウの[処理実行] ボタンをクリックすれば、編集処理が実行されます。

編集コマンドの使い方 その <音響効果用コマンド>

『ノイズ除去』コマンド

1 曲 複数曲



このコマンドは、カセットテープの無音部で目立つ『シャー』という高い音（テープヒスノイズ）や、電波障害などによって発生する『ブーン』という低い唸るような音（ハムノイズ）を取り除くためのコマンドです。

この機能は、昔に録音されたカセットテープや一部のレコードから録音されたトラックに対して大きな効果があります。しかし、音楽CDなどのデジタル音源から録音されたトラックに関しては、小さな音を消してしまい、逆効果となることがあります。

そのため、連続的なノイズが目立たない音源には使用しないことをお勧めします。

△ 注1

複数のトラックを選んだ場合、最初のトラックのみを試聴することができます。複数の曲でそれぞれ試聴をしたい場合は、1つずつトラックを選んでください。

【手順】

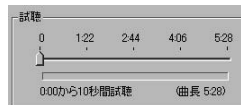
- (1) 仮想デッキのトラックリストから、コマンドを使いたいトラックを選択します。^{注1}

No	曲名	アーティスト	演奏時間	曲間秒数
01	はいはい	プリズムドラ	5:29	-
02	知らないひと	プリズムドラ	5:08	-
03	約束見つけた	プリズムドラ	5:44	-
04	幸せのあしお	プリズムドラ	4:22	-

- (2) 編集パネルから [ノイズ除去] ボタンをクリックします。
- (3) ハムノイズ、ヒスノイズを除去するかどうかをチェックボックスで設定します。除去する場合は、その効果の強さも設定できます。
- (4) [処理実行] ボタンをクリックすると、処理が開始されます。

ノイズ除去のポイント

このコマンドは、試聴する箇所を選んで10秒間の試聴が可能です。とくにノイズが気になる箇所（トラック開始からの時間で指定します）にスライダを移動させ、処理前と処理後の音を繰り返し試聴することでコマンドの効果が容易に確認できます。



ノイズが目立たなくなるぎりぎりの強さでノイズ除去を行うと、音のイメージを変えることなくノイズの除去が行えます。

高速ノイズ除去モード機能

「ノイズが目立ちやすい部分のみ除去して高速化する」オプションにチェックを入れてコマンドを実行すると、ノイズが目立つところにだけノイズ除去を行う『高速ノイズ除去モード』となります。

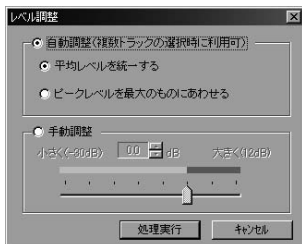
このモードではノイズ処理が高速になり、またノイズが目立たないところでは音の印象が変わることを避けることができます。そのため、一般的な場合は常に使用することをお勧めします。

☐ ノイズが目立ちやすい部分のみ除去して高速化する

編集機能を
使いこなす

『レベル調整』コマンド

1曲 複数曲



レベル調整コマンドは、複数の曲での最大録音レベル（音の大きさ）の違いを補正し、一定の録音レベルでCDをつくるための機能です。

一般的にクラシックやライブ演奏のCDなどは録音レベルが小さいことが多く、対して歌謡曲やロックのCD、シングルCDは録音レベルが大きいことが多いのです。こうした録音レベルの異なる曲を1枚のCDにまとめると、曲ごとに音が大きかったり小さかったりと、非常に聴きにくいCDになってしまいます。これを補正するのがこのコマンドです。

1枚のレコードやCDからのみ録音を行う場合以外は、通常はこのコマンドを使用することをお勧めします。

【手順】

- (1) 仮想デッキのトラックリストから、コマンドを使いたいトラックを選択します。

No.	曲名	アーティスト	演奏時間	曲間秒数
01	はい、はい	プリズムドラ...	5:29	-
02	知らない人と	プリズムドラ...	5:08	-
03	約束見つけた	プリズムドラ...	5:44	-
04	幸せのあしお...	プリズムドラ...	4:22	-

- (2) 編集パネルから「レベル調整」ボタンをクリックします。

- (3) 自動調整を行うか、手動調整を行うかを選択します。^{注1}

- (4) 手動調整を行う場合は、録音レベルをどれだけ補正するかを選択します。ここで指定する値はピークレベル(最大のレベル)となります。

スライダーを左に調整すると録音レベル(音の大きさ)が小さく、右に調整すると大きくなります。ただし初期設定である『0dB』は、デジタルソースで設定できる最大のレベルとなっています。

アナログソースから録音した曲や、極端に音量の小さいソースのために0dBを超える設定を可能としていますが、補正後の結果0dBを超えてしまった箇所は、必ず音が割れてしまいますので、注意が必要です。

- (5) 「処理実行」ボタンをクリックすると、処理が開始されます。

注1

(1)の手順で1つのトラックを選んだ場合は、自動調整を使うことはできません。その場合、表示されるウィンドウは以下ようになります。



聴感上の音圧を基準に平均化する自動レベル調整機能

「平均レベルを統一する」オプションを指定すると、聴感上の音圧（音の大きさ）を基準として曲ごとの平均のレベルを統一する補正をします。

このオプションを選ぶことで曲ごとの“人間が実際に聞いて感じる音の大きさ”を平均化することができます。静かな曲と音の大きい曲を合わせてCDにする場合などでも、再生時に曲ごとに音量調整をする必要がなくなります。

対して「ピークレベルを最大のものに合わせる」を指定した場合は、(1)の手順で選んだトラックごとの最大の音量を基準に録音レベルを補正します。

録音レベルの調整は最小限となりますので、ある程度ジャンルの似通った曲を集めている場合はこちらを指定するといい結果となります。

『イコライザー』コマンド 1曲

イコライザーコマンドは、特定の周波数（音の低さ/高さを数値で表したもの）の音を増減して、音質を変化させるための機能です。『グラフィックイコライザー』というオーディオ機器の動作を模したのとなっています。

「低音が足りないので強調させたい」「もっと人の声を強調したい」「高い音がシャカシャカしすぎているので弱めたい」といったことがよくありますが、このコマンドを使うことで、こうした曲を聴きやす

く補正することができます。

また、「ポータブルCDプレーヤー向けに低音と高音を強調して録音する」「カーステレオ向けに中域を若干弱めて録音する」といったように、再生する機器に合わせて補正するのも有効な使い方です。

【手順】

- (1) 仮想デッキのトラックリストから、コマンドを使いたいトラックを選択します。

No.	曲名	アーティスト	演奏時間	曲間秒数
01	はいはい	プリズムドラ	5:29	-
02	知らないひと	プリズムドラ	5:08	-
03	約束見つけた	プリズムドラ	5:44	-
04	幸せのあしお...	プリズムドラ	4:22	-

- (2) 編集パネルから【イコライザー】ボタンをクリックします。

- (3)



好みの音質に調整するか、以前保存したプリセットパターンを使用したい場合は「プリセット」欄のリストより選択します。

また、先にプリセットパターンを選択し、それを元にして調整することも可能です。

- (4) イコライザーの調整を保存したい場合は、プリセット欄にある【保存】ボタンをクリックします。「プリセット名の設定」ダイアログボックスが表示されるので、「名前」欄に保存したい名前を入力し、【OK】ボタンを押すと設定が保存されます。

編集機能を使いこなす

(5) [処理実行] ボタンをクリックすると、処理が開始されます。

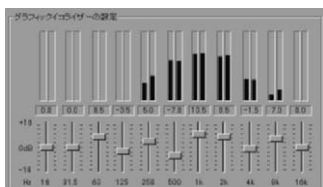
スライダー使用のポイント

左にあるスライダー（ツマミ）は低い周波数の音（低音）を、右にあるスライダーは高い周波数の音（高音）をコントロールできます。それぞれのスライダーの周波数は、下に書かれた周波数の数値に対して、その周辺の周波数のコントロールが可能です。

それぞれのスライダーを上げると、その周波数の音量が増加します。対してスライダーを下げると、その周波数の音量が減少します。同時にスライダーの下にあるボックスに、増加/減少量が数値で表示されます（単位はdB [デシベル] です）。

スライダーの上にあるスペクトラムアナライザー（周波数ごとの音量を分割表示するレベルメーター）のメーターは、それぞれのメーターの真下にあるスライダーの周波数に対応しています。

なお、メーターはスライダーごとに2本表示されます。左右のメーターは、それぞれ左右のチャンネルの音に対応しています。



スペクトラムアナライザーは試聴中の曲とスライダーの調整に合わせて動きますので、試聴しながらスライダーを操作することで、音質の変化を目で確認することができます。



すべてのスライダーを0dBに戻すには、プリセットパターンの「無題」を選択します。

イコライザーの効果は説明よりも実際に体験した方がわかりやすいため、まずは試聴をしながらいろいろな操作をしてみるのがいいでしょう。

編集コマンドの使い方 その <トラック操作用コマンド> —

『ミュート』コマンド 1曲



このコマンドは、指定した一定区間を無音状態（ミュート）にするためのコマンドです。

無音の削除コマンドとは異なり、指定部分を単純に削除するのではなく、無音状態の間も曲が進行している状態となるのが特徴です。ユーザーのアイデア次第で数々の応用が可能なコマンドです。

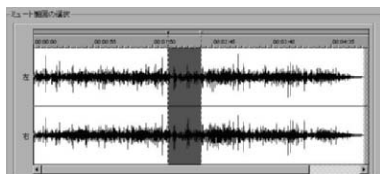
【手順】

- (1) 仮想CDデッキのトラックリストから、コマンドを使いたいトラックを選択します。

No.	曲名	アーティスト	演奏時間	曲間秒数
01	はいはい	プリズムドラ	5:29	-
02	知らないで	プリズムドラ	5:08	-
03	約束見つけた	プリズムドラ	5:44	-
04	幸せのあしお	プリズムドラ	4:22	-

- (2) 編集パネルから [ミュート] ボタンをクリックします。

- (3)



トラックの波形グラフが表示されるので、ミュートコマンドを使用する範囲を指定します。^{*1}

ミュートコマンドを使いたい場所（時間）の上にある時間表示部分（本ソフトでは『時間軸』と表記しています）をクリックするか、再生 [▶/II] をしながら [マーク] ボタン [マーク(M)] をクリックすることで、ミュートの開始時間と終了時間を決定することができます。^{注1}

*1

波形グラフの見方について

グラフの横軸は時間となっており、波形グラフの左端がトラックの開始時間を、右端がトラックの終了の時間を表しています。また縦軸は、音量を表しています。波形の振れが大きいほど音量が大きいことを表現しています。

編集機能を使いこなす

△ 注1

ミュートコマンドを実行するには、必ず開始時刻と終了時刻の2点を指定する必要があります。片方だけでは実行できません。

注2

[ミュート] ボタンを押した時点で、以前のポイントを解除することは不可能となります。このような場合は、[キャンセル] ボタンを押して最初からやり直して下さい。

*2

処理後の操作とミュートの追加

処理後の波形グラフが表示されている画面でも、試聴が可能です。また、再度別の箇所に対してミュートを行うことも可能です。複数の箇所に対してミュートコマンドを使用する場合、この時点ですべての箇所を指定するとスムーズに処理ができます。

注3

[処理実行] ボタンを押すまでは、選んだトラックのデータに対して処理は実行されません。そのため、[キャンセル] ボタンを押して処理を取り消すと、指定したすべてのミュート箇所がキャンセルされます。



ミュート指定のキャンセルと変更のポイント



ミュート範囲の指定をキャンセルしたい場合は[解除] ボタンをクリックします。ボタンを押した時点でキャンセルされるポイントは、時間軸部分に表示された逆三角形のつまみが緑色になっている箇所です。

ミュート範囲の指定を変更したい場合は、時間軸部分に表示された逆三角形のつまみが波線にポイントを重ねます。ポイントが変わるので、ドラッグして波線を移動させます。

[ズームアップ] ボタンを有効に使用するためのポイント

[ズームアップ] ボタン  をクリックすることにより、波形グラフが拡大表示されます。6段階まで拡大が可能です（拡大しすぎた場合は、[ズームダウン] ボタン  で縮小することが可能です）。


ズームアップを行うことで、波形を見やすくするだけではなく、時間の指定を詳細に行うことが可能です。最大に拡大した状態で作業すると、1秒に満たない短い区間でも指定することができます。



また、コマンドを実行した状態では標準的な波形が表示されていますが、「精密表示」のチェックボックスにチェックをすることにより、さらに緻密に音楽波形を測定した波形を表示させることができます。

(4) [ミュート] ボタンをクリックすると、処理が開始されます。^{注2}

(5) ミュート処理後の波形グラフが表示されます。この状態で、再び別の箇所にもミュート処理を行うことも可能です。^{*2}

(6) ミュート処理をしたいすべての部分に対して処理が終了したら、[処理実行]  ボタンをクリックして処理を実行します。これで処理は完了です。^{注3}

『無音の削除』コマンド

1 曲 複数曲



このコマンドは、トラックの前後に入っている無音部分を削除するためのコマンドです。

自動分割機能を利用してアナログ/デジタル機器から録音した場合には、ミュージックCDデザイナー3は無音部分を利用してトラックを分割します。そのため、トラックの後ろには無音部分が入ってしまいます。このコマンドを使用することで、無音部分を効果的に取り除くことができます。

[手順]

- (1) 仮想CDデッキのトラックリストから、コマンドを使いたいトラックを選択します。

No.	曲名	アーティスト	演奏時間	曲間秒数
01	はいはい	プリズムドラ	5:29	-
02	知らないで	プリズムドラ	5:08	-
03	約束見つけた	プリズムドラ	5:44	-
04	幸せのあしお	プリズムドラ	4:22	-

- (2) 編集パネルから [無音の削除] ボタンをクリックします。

- (3) 無音の判断基準となる時間を、0.1秒単位で指定します。

- (4) 無音部分を削除する位置を指定します。*1

- (5) 無音の判断基準とする音の強度 (音圧) を指定します。

*1

🔊 無音を削除する際に

無音の削除コマンドは、トラックの先頭と末尾、またはその両方に対して行われます。曲中の無音に対しては動作しません。曲中の無音を削除したい時は、後述する『部分削除』コマンドを使用するとよい結果が得られます。

一般的な使用法としては「両方」を選択して、先頭と末尾の両方から無音を削除するようにします。

音の強度 (音圧) を決定する際のポイント



無音の判断基準とする音の強度 (音圧) に関しては、一般的な曲の場合は標準設定で問題ありません。

ただし、クラシックなどの非常に静かな部分が曲の先頭や末尾にある場合、本来の無音部分に加えて、そうした音の小さい部分も無音部分と判断される場合があります。その場合はスライダーを左に動かして、「低感度」側の設定にしてお試しください。こうすることで、小さい音でも無音とみなされなくなります。

また、アナログソースから録音したトラックでノイズが含まれている場合や、曲を演奏していない状態でも周りの音が鳴っているソース (ライブ録音など) で曲以外の部分を削除したい場合は、スライダーを右に動かして「高感度」側の設定にしてお試しください。この場合は、より大きい音も無音とみなされるようになります。

こうしたソースの場合、どれくらいに設定すればよいかは録音するソースやサウンドデバイスの性能によって変わります。そのため無音部分の判定が複雑な場合は、試聴をしながら手動で削除を実行できる『部分削除』コマンドを使用されることをお勧めします。

- (6) [処理実行] ボタン  をクリックすると、処理が開始されます。

編集機能を使いこなす

『無音の挿入』コマンド 1 曲

このコマンドは、トラックの任意の箇所に無音区間を挿入するためのコマンドです。『ミュート』コマンドと異なり、無音区間を挿入した前後の曲は分割されることになります。そのため、無音を挿入した部分の直後は、無音の前に鳴っていた部分の続きが再生されることになります。

トラックの分割作業の精度を向上

するために、また曲間にメッセージの台詞を入れるなどといった用途に使うと効果的です。

[手順]

- (1) 仮想CDデッキのトラックリストから、コマンドを使いたいトラックを選択します。

No.	曲名	アーティスト	演奏時間	曲間秒数
01	はいはい	プリズムドラ...	5:29	-
02	知らないでい	プリズムドラ...	5:08	-
03	約束見つけた	プリズムドラ...	5:44	-
04	幸せのあしお	プリズムドラ...	4:22	-

- (2) 編集パネルから [無音の挿入] ボタンをクリックします。

- (3) トラックの波形グラフが表示されるので、無音部分を挿入したい位置を指定します。^{*1} 指定は、無音を挿入したい場所（時間）の上にある時間表示部分をクリックするか、再生 ▶/II をしながら [マーク] ボタン マーク(M) をクリックすることで行えます。

無音挿入のキャンセルと変更のポイント

指定をキャンセルしたい場合は、[解除] ボタン 解除(D) をクリックします。ボタンを押した時点でキャンセルされるポイントは、時間軸部分に表示された逆三角形のつまみが緑色になっている箇所です。

無音挿入の指定を変更したい場合は、時間軸部分に表示された逆三角形のつまみか波線にポイントを重ねます。ポイントが ▶/II になるので、ドラッグして波線を移動させます。

- (4) 挿入する長さ 5.0 秒 「挿入する長さ」欄に、0.1秒単位で無音を挿入する長さを指定します。

- (5) [処理実行] ボタン 処理実行 をクリックすると、処理が開始されます。これで処理は完了です。^{注1}

*1

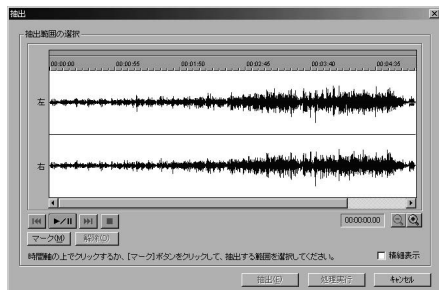
👉 波形グラフの見方について

グラフの横軸は時間となっており、波形グラフの左端がトラックの開始時間を、右端がトラックの終了の時間を表しています。また縦軸は、音量を表しています。波形の振れが大きいほど音量が大きいことを表現しています。

⚠ 注1

[処理実行] ボタンを押すまでは、選んだトラックのデータに対して処理は実行されません。[処理実行] ボタンを押すまでは、[キャンセル] ボタンを押して処理を取り消すことが可能です。

『抽出』コマンド 1曲



このコマンドは、トラックの任意の箇所之音を切り出して、新たなトラックを作る機能です。たとえば、サビの部分だけを抜き出したサビ集や気に入ったワンフレーズだけを取り出したいときに使うと便利なコマンドです。

抽出した部分は、新たなトラックとして登録されます。抽出後は、抽出した回数だけ新しいトラックが後ろに増加することになります。

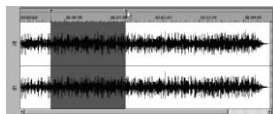
[手順]

- (1) 仮想CDデッキのトラックリストから、コマンドを使いたいトラックを選択します。

No	曲名	アーティスト	演奏時間	曲間秒数
01	はいはい	プリズムドラ	5:29	-
02	知らないでと	プリズムドラ	5:08	-
03	約束見つけた	プリズムドラ	5:44	-
04	幸せのあしお	プリズムドラ	4:22	-

- (2) 編集パネルから [抽出] ボタン をクリックします。

- (3) トラックの波形グラフが表示されるので、切り出したい範囲を指定します。^{*1}



抽出コマンドを使いたい場所(時間)の上にある時間軸をクリックするか、再生 をしながら [マーク] ボタン をクリックすることで、抽出の開始時間と終了時間を決定することができます。^{注1}

抽出範囲のキャンセルと変更のポイント

抽出範囲の指定をキャンセルしたい場合は、[解除] ボタン をクリックします。ボタンを押した時点でキャンセルされるポイントは、時間軸部分に表示された逆三角形のつまみが緑色になっている箇所です。

抽出範囲の指定を変更したい場合は、時間軸部分に表示された逆三角形のつまみが波線にポイントを重ねます。ポイントが に変わるので、ドラッグして波線を移動させます。

- (4) [抽出] ボタン をクリックすると、処理が開始されます。^{注2}

- (5) 波形グラフが表示されます。この状態で、再び別の箇所に抽出処理を行うことも可能です。^{*2}

*1

👉 波形グラフの見方について

グラフの横軸は時間となっており、波形グラフの左端がトラックの開始時間を、右端がトラックの終了の時間を表しています。また縦軸は、音量を表しています。波形の振れが大きいほど音量が大きいことを表現しています。

⚠ 注1

抽出コマンドを実行するには、必ず開始時刻と終了時刻の2点を指定する必要があります。片方だけでは実行できません。

⚠ 注2

[抽出] ボタンを押した時点で、以前のポイントを解除することは不可能となります。このような場合は[キャンセル] ボタンを押して最初からやり直して下さい。

*2

👉 処理後の表示と抽出の追加


抽出コマンドの場合、『ミューツ』コマンドなどとは異なり、処理の終わった時点でも波形グラフは処理前のものが表示されますが、抽出処理を行った部分は[キャンセル] ボタンをクリックしない限りは新しいトラックとして作成されます。

またこの時点で、再度別の箇所に対して抽出を行うことも可能です。複数の箇所に対して抽出コマンドを使用する場合、この時点ですべての箇所を指定するとスムーズに処理ができます。

編集機能を使いこなす

注3



[処理実行] ボタンを押すまでは、選んだトラックのデータに対して処理は実行されません。そのため、[キャンセル] ボタンを押して処理を取り消すと、指定したすべての抽出箇所がキャンセルされます。

(6) 抽出処理をしたいすべての部分に対して処理が終了したら、[処理実行] ボタン  をクリックして処理を実行します。これで処理は完了です。^{注3}

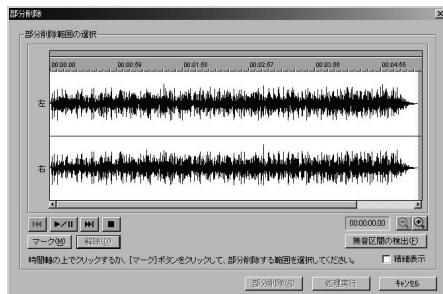
(7)

No	曲名	アーティスト	演奏時間	曲ID
01	はいはい	プリズムドラ	5:29	-
02	知らないけど	プリズムドラ	5:08	-
03	約束見つけた	プリズムドラ	5:44	-
04	幸せのあしあと	プリズムドラ	4:22	-
05	地下鉄に乗って	プリズムドラ	4:14	-
06	7つの海の向こうに	プリズムドラ	4:53	-
07	シャンプー	プリズムドラ	4:23	-
08	今度、会おうね	プリズムドラ	4:20	-
09	はいはいの抽出部分(1)		2:27	-
10	はいはいの抽出部分(2)		0:44	-

抽出した箇所が新しいトラックとして、仮想CDデッキの一番後ろに新しく登録されます。名前は『(元のトラック名) ~ の抽出部分 (1)』、『(元のトラック名) ~ の抽出部分 (2)』のように付けられます。

[ズームアップ] ボタン   の使用方法は、『ミュート』コマンド解説頁 (104頁) の「[ズームアップ] ボタンを有効に使用するためのポイント」で説明した内容と同じです。[ズームアップ] ボタンを使用される際はこちらを参照してください。

『部分削除』コマンド 1曲



このコマンドは、トラックの任意の箇所の音を削除する機能です。半自動での無音部分の検出を行うこともできますので、簡易的な無音削除機能として使用することもできます。

ノイズ除去では取り除きにくいショックノイズ（レコードプレーヤーの針がレコードの盤面に乗った瞬間に出るノイズなど）などを取り除いたり、曲中の必要のない部分を削除する用途などにも使えます。

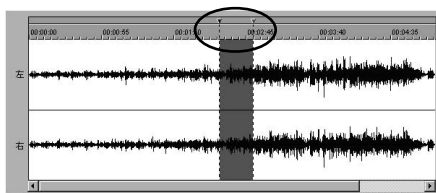
【手順】

- (1) 仮想CDデッキのトラックリストから、コマンドを使いたいトラックを選択します。

No.	曲名	アーティスト	演奏時間	曲間秒数
01	はいはい	プリズムドラ	5:29	-
02	知らないでと	プリズムドラ	5:08	-
03	約束つけた	プリズムドラ	5:44	-
04	幸せのあしお...	プリズムドラ	4:22	-

- (2) 編集パネルから [部分削除] ボタン **部分削除(R)** をクリックします。

- (3) トラックの波形グラフが表示されるので、削除したい範囲を指定します。^{*1}



部分削除コマンドを使いたい場所（時間）の上にある時間軸をクリックするか、再生 **▶/||** をしながら [マーク] ボタン **マーク(M)** をクリックすることで、部分削除の開始時間と終了時間を決定することができます。^{注1}

*1

波形グラフの見方について

グラフの横軸は時間となっており、波形グラフの左端がトラックの開始時間を、右端がトラックの終了の時間を表しています。また縦軸は、音量を表しています。波形の振れが大きいほど音量が大きいことを表現しています。

編集機能を使いこなす

部分削除指定のキャンセルと変更のポイント

部分削除範囲の指定をキャンセルしたい場合は、[解除] ボタン **解除(D)** をクリックします。ボタンを押した時点でキャンセルされるポイントは、時間軸部分に表示された逆三角形のつまみが緑色になっている箇所です。

部分削除の指定を変更したい場合は、時間軸部分に表示された逆三角形のつまみが波線にポイントを重ねます。ポイントが変わるので、ドラッグして波線を移動させます。

注1

部分削除コマンドを実行するには、必ず開始時刻と終了時刻の2点を指定する必要があります。片方だけでは実行できません。

注1

〔部分削除〕ボタンを押した時点で、以前のポイントを解除することは不可能となります。このような場合は、〔キャンセル〕ボタンを押して最初からやり直して下さい。

*2

処理後の表示と部分削除の追加

複数の箇所に対して部分削除コマンドを使用する場合、この時点ですべての箇所を指定するとスムーズに処理ができます。

注1

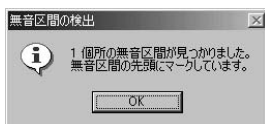
〔処理実行〕ボタンを押すまでは、選んだトラックのデータに対して処理は実行されません。そのため、〔キャンセル〕ボタンを押して処理を取り消すと、指定したすべての部分削除箇所がキャンセルされます。

無音区間の検出機能について



波形グラフ画面で〔無音区間の検出〕ボタン **無音区間の検出(F)** をクリックすると、「無音区間の検出」ダイアログが表示されます。ここでは、『無音の削除』コマンドと同じ手順（105頁参照）で、無音の判断基準となる時間と、音の強度（音圧）を指定します。

〔処理実行〕ボタン **処理実行** を押すと、最初に検出された無音部分の先頭が自動的にマーク（ポイント）されます。



ただし、そのほかの無音部分や無音部分の末尾はマークされませんので、手動でポイントする必要があります。

(4)〔部分削除〕ボタン **部分削除(R)** をクリックすると、処理が開始されます。^{注1}

(5) 指定した部分が削除された後の波形グラフが表示されます。この状態で、再び別の箇所に部分削除処理を行うことも可能です。^{*2}

(6) 部分削除処理をしたいすべての部分に対して処理が終了したら、〔処理実行〕ボタン **処理実行** をクリックして処理を実行します。これで処理は完了です。^{注2}

〔ズームアップ〕ボタン の使用法は、『ミュート』コマンド解説頁（104頁）の「〔ズームアップ〕ボタンを有効に使用するためのポイント」で説明した内容と同じです。〔ズームアップ〕ボタンを使用される際はこちらを参照してください。

それぞれの機能の違いについて

『ミュート』と『無音挿入』そして『部分削除』コマンドは機能が似通っていますが、それぞれにはいくつかの違いがあります。

『ミュート』は指定した区間は、無音となりますが、その間も曲は進んでいます。対して『無音挿入』は、前後の曲を削除することなく無音が挿入されます。

そして『部分削除』の場合は、削除した部分の音が消えるだけでなく、その前後の音が切れめなしに繋がります。つまり、無音部分はまったく作られません。

『分割』コマンド 1曲



このコマンドは、トラックを任意の箇所や曲中の無音部分で区切り、1つのトラックを2つ以上のトラックに分けるための機能です。

アナログソースから録音したソースが自動検出でトラック分割できなかった場合や、トラック分割を行わない設定で録音をした場合にそれを分割するといった用途や、一部の市販CDにあるような、曲のサビ部分を

別のトラックとして設定し、選曲を容易にするといった場合に使用します。

また、この分割後のトラックは、分割前のトラックとは別のトラックとして作成されます。そのためコマンド実行後は、分割した箇所の数+1の新たなトラックが追加されることになります。

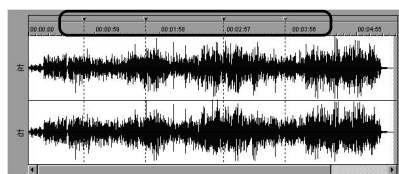
[手順]

- (1) 仮想CDデッキのトラックリストから、コマンドを使いたいトラックを選択します。

No.	曲名	アーティスト	演奏時間	曲間秒数
01	はいはい	プリズムドラ...	5:29	-
02	知らないひと	プリズムドラ...	5:08	-
03	約束見つけた	プリズムドラ...	5:44	-
04	幸せのあしお...	プリズムドラ...	4:22	-

- (2) 編集パネルから [分割] ボタンをクリックします。

- (3) トラックの波形グラフが表示されるので、分割したい箇所を指定します。*1



分割コマンドを使いたい場所(時間)の上にある時間軸をクリックするか、再生▶/IIをしながら[マーク]ボタン▶マーク(M)をクリックすることで、分割の開始時間を決定することができます。また、分

割箇所は、いくつでも指定することができます。

分割指定のキャンセルと変更のポイント

分割箇所の指定をキャンセルしたい場合は、[解除]ボタン▶解除(D)をクリックします。ボタンを押した時点でキャンセルされるポイントは、時間軸部分に表示された逆三角形のつまみが緑色になっている箇所です。

分割箇所の指定を変更したい場合は、時間軸部分に表示された逆三角形のつまみが波線にポイントを重ねます。ポイントが▶に変わるので、ドラッグして波線を移動させます。

*1

波形グラフの見方について

グラフの横軸は時間となっており、波形グラフの左端がトラックの開始時間を、右端がトラックの終了の時間を表しています。また縦軸は、音量を表しています。波形の振れが大きいほど音量が大きいことを表現しています。

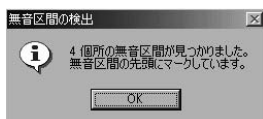
編集機能を使いこなす

無音区間の抽出機能について



波形グラフ画面で[無音区間の抽出]ボタン **無音区間の抽出(F)** をクリックすると、「無音区間の抽出」ダイアログが表示されます。ここでは、『無音の削除』コマンドと同じ手順(105頁参照)で、無音の判断基準となる時間と、音の強度(音圧)を指定します。

[処理実行]ボタン **処理実行** を押すと、無音部分の先頭が自動的にマーク(ポイント)されます。『部分削除』コマンドの場合とは異なり、複数の無音部分が存在する場合は、検出された無音部分の先頭箇所すべてがマークされます。



ただし、無音部分の末尾はマークされません。もし必要がある場合は、手動でポイントする必要があります。

注1

[処理実行]ボタンを押すまでは、選んだトラックのデータに対して処理は実行されません。そのため、[キャンセル]ボタンを押して処理を取り消すと、指定したすべての分割箇所がキャンセルされます。

注2

分割後のトラックの内容は、分割点に指定した時間の順に構成されます。波形グラフで指定した順番とは関係なく、つねに元のトラックの時間順に分割が行われますので、注意してください。

(4) 分割処理をしたいすべての部分に対して処理が終了したら、[処理実行]ボタンをクリックして処理を実行します。これで処理は完了です。^{注1}

(5)

曲名	トラック	演奏時間	曲
01	はいはい	0:20	-
02	知らないで	0:08	-
03	約束見つけた	0:44	-
04	幸せの歌	0:22	-
05	地下鉄に乗って	0:44	-
06	アツい海に向かって	0:43	-
07	シャング	0:23	-
08	シャング	0:23	-
09	はいはいの分割部分(1)	0:00	-
10	はいはいの分割部分(2)	0:06	-
11	はいはいの分割部分(3)	1:11	-
12	はいはいの分割部分(4)	0:06	-
13	はいはいの分割部分(5)	1:38	-

分割処理が行われたトラックは、仮想CDデッキの一番後ろに新しく登録されます。名前は『元のトラック名) ~の分割部分(1)』、『元のトラック名) ~の分割部分(2)』のように自動的に付けられます。^{注2}

[ズームアップ]ボタン の使用方法は、『ミュート』コマンド解説頁(104頁)の「[ズームアップ]ボタンを有効にするためのポイント」で説明した内容と同じです。[ズームアップ]ボタンを使用される際はこちらを参照してください。

『結合』コマンド 複数曲

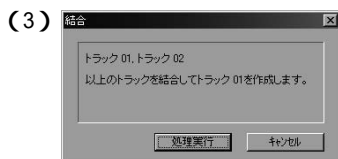
このコマンドは、分割コマンドとは反対に、2つ以上のトラックを1つにまとめるための機能です。ダンス用のノンストップミックスCDを作る場合など、複数の曲をまったく途切れ目なく再生したい場合に使用すると効果的な機能です。

【手順】

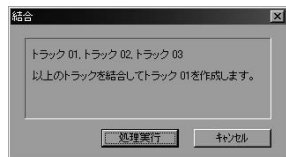
- (1) 仮想CDデッキのトラックリストから、コマンドを使いたいトラックを選択します。^{注1}

No	曲名	アーティスト	演奏時間	曲間秒数
01	はいはい	プリズムドラ	5:29	-
02	知らないひと	プリズムドラ	5:08	-
03	約束をうけた	プリズムドラ	5:44	-
04	幸せのあしお...	プリズムドラ	4:22	-
05	地下鉄に乗っ...	プリズムドラ	4:14	-
06	7つの海の向...	プリズムドラ	4:53	-
07	シャンブー	プリズムドラ	4:23	-
08	今度、会おうね	プリズムドラ	4:20	-

- (2) 編集パネルから [結合] ボタンをクリックします。



「結合」ダイアログが表示され、結合処理の内容が表示されます。^{注2}
たとえば、2曲と3曲を指定した場合は、それぞれこのようなダイアログとなります。



- (4) [処理実行] ボタン 処理実行 をクリックすると、処理が開始されます。

結合後の曲名について

結合後のトラック名は、指定したトラックの中でもっとも小さいトラック番号の曲名がそのまま引き継がれます。

たとえば、最初の画面のように3曲を結合する指定をした場合は、元の2トラック目と3トラック目の曲名は削除されますので、注意してください。

No	曲名	アーティスト	演奏時間	曲間秒数
01	はいはい	プリズムドラ	16:19	-
02	幸せのあしお...	プリズムドラ	4:22	-
03	地下鉄に乗っ...	プリズムドラ	4:14	-
04	7つの海の向...	プリズムドラ	4:53	-
05	シャンブー	プリズムドラ	4:23	-
06	今度、会おうね	プリズムドラ	4:20	-

△ 注1

このコマンドを使用する場合は、2つ以上のトラックを選択する必要があります。

△ 注1

結合処理では、結合後のトラックは指定したトラックの中でもっとも小さいトラック番号の曲にまとめられます。

分割とは異なり、前の曲にまとめられることに注意してください。

3曲以上を結合する場合は、強制的にトラック番号の小さい順に結合されます。結合する順番を変更したい場合は、あらかじめトラック番号を変更しておくなどの操作が必要になります。

編集機能を
使いこなす

編集コマンドの使い方 その <エフェクトコマンド>

『ミキシング』コマンド 2曲

このコマンドは、指定した2つの曲（トラック）の音を同時に再生したかのように混ぜ合わせ、1つのトラックにする機能です。

たとえば、音声のみのトラックに、あとからBGMを追加し、1つのトラックを作成したいといった場合に有効なコマンドです。

注1

ミキシングコマンドは、必ず「混合されるトラック（混合先）」と「混合するトラック（混合元）」の2曲を必要とします。3つ以上のトラックを選択した場合は、[ミキシング] ボタンがグレーアウト（クリックできない状態）になるので、注意してください。

*1

波形グラフの見方について

グラフの横軸は時間となっており、波形グラフの左端がトラックの開始時間を、右端がトラックの終了の時間を表しています。また縦軸は、音量を表しています。波形の振れが大きいほど音量が大きいことを表現しています。

*2

試聴について

ミキシングの調整時は、常に試聴が可能です。また「試聴時にミュート」のチェックボックスをオンにすると、混合するトラックが聞こえない状態で試聴が可能です。ミキシング前と後の曲の感じを掴むのに便利な機能です。

☐ 試聴時にミュート (M)

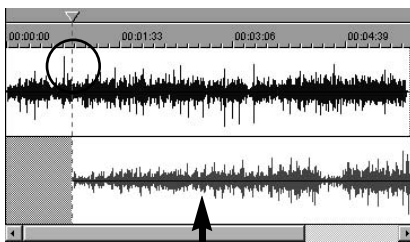
[手順]

- (1) 仮想CDデッキのトラックリストから、コマンドを使いたいトラックを2つ選択します。^{注1}

No.	曲名	アーティスト	演奏時間	曲間秒数
01	ばいばい	プリズムドラ...	5:29	-
02	知らない人	プリズムドラ...	5:08	-
03	約束見つけた	プリズムドラ...	5:44	-
04	幸せのあしお...	プリズムドラ...	4:22	-


- (2) 編集パネルから [ミキシング] ボタンをクリックします。

- (3) トラックの波形グラフが表示されるので、ミキシングを開始する位置を設定します。^{*1}



ドラッグ

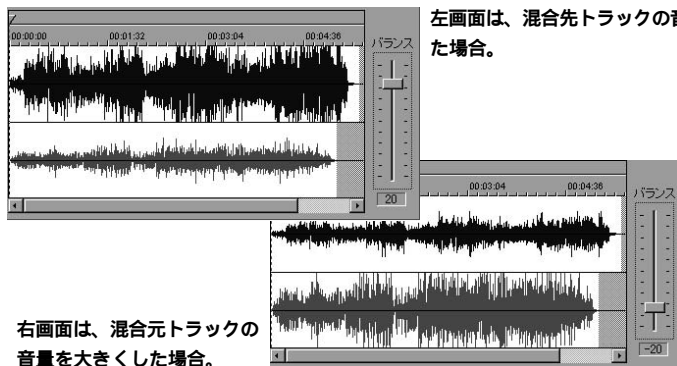
ミキシングの開始位置は、混合するトラックの先頭位置を移動することで行います。移動は、時間軸部分に表示されたポイントか、混合するトラックの波形グラフ（下側）をドラッグして移動することで操作可能です。

また、混合するトラックと混合されるトラックは、[トラック変更] ボタン  をクリックすることによって交換が可能です。^{*2}

- (4) 「バランス」欄のスライダーを調整し、2つのトラックの音量のバランスを指定します。


上（混合される側の波形グラフ）にスライドするほど混合先の音量が大きく、混合元の音量が小さくなります。下（混合する側の波形グラフ）にスライドすると逆になります。

スライダーを調整すると波形グラフの幅がリアルタイムに変更されるため、音量の目安は画面上でも確認できます。^{*3}



左画面は、混合先トラックの音量を大きくした場合。


右画面は、混合元トラックの音量を大きくした場合。

- (5) [処理実行] ボタン  をクリックすると、処理が開始されます。

(6)

No	曲名	アーティスト	演奏
01	はいはい	プリズムドラ...	5:26
02	知らないで	プリズムドラ...	5:06
03	約束見つけた	プリズムドラ...	5:44
04	幸せのあしあと	プリズムドラ...	4:22
05	地下鉄に乗って	プリズムドラ...	4:14
06	7つの海の向こうに	プリズムドラ...	4:58
07	ジャンプ	プリズムドラ...	4:28
08	今度、会おうね	プリズムドラ...	4:06
09	はいはいと知らないひとのミキシング	プリズムドラ...	5:26

ミキシング処理が行われたトラックは、仮想CDデッキの一番後ろに新しく登録されます。名前は『(元のトラック名 [トラック番号の小さい方]) と (元のトラック名 [トラック番号の大きい方]) のミキシング』のように自動的に付けられます。

[ズームアップ] ボタン  の使用方法は、『ミュート』コマンド解説頁（104頁）の「[ズームアップ] ボタンを有効に使用するためのポイント」で説明した内容と同じです。[ズームアップ] ボタンを使用される際はこちらを参照してください。

* 3

ミキシング開始位置とバランスの適当な設定が完了したら、必ず [再生] ボタンを押して試聴を行い、実際に再生される曲の確認を行っておくことをお勧めします。

編集機能を使いこなす

『ピッチシフト』コマンド 1曲

このコマンドは、指定したトラックの曲のテンポ（速度）を変更することで、曲の音程（周波数）を変更できる機能です。

カラオケ練習用CDなどを作成する場合や、耳コピーの練習用CDなどを作る際に便利なコマンドです。

ただし、音程変更はテンポを変更することで行っていますので、曲全体の長さも合わせて変更されます。

*1

👉 试听について

ピッチシフトウィンドウ上では、常に试听が可能です。とくに慣れないうちは、細かく试听をしながら倍率を変更するといいい結果が得られやすくなります。

また、楽器に慣れているユーザーの場合は、鍵盤ボタンを使って大まかな調整をした後に、「周波数倍率」欄の数値を上下して微調整を行う方法がお勧めです。

なお、鍵盤ボタンの周波数倍率の設定は、実際の鍵盤楽器に合わせられています。たとえば1音階上げると約12.5パーセント上昇し、7音階上げると100パーセント上昇します。



【手順】

- (1) 仮想CDデッキのトラックリストから、コマンドを使いたいトラックを選択します。

No.	曲名	アーティスト	演奏時間	曲間秒数
01	はいはい	プリズムドラ...	5:29	-
02	知らないやと	プリズムドラ...	5:08	-
03	約束見つけた	プリズムドラ...	5:44	-
04	幸せのあしお...	プリズムドラ...	4:22	-

- (2) 編集パネルから [ピッチシフト] ボタンをクリックします。

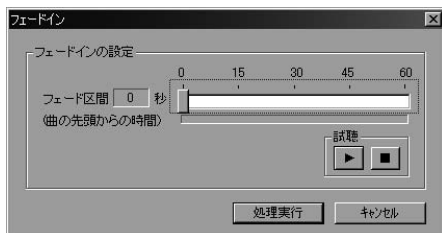
- (3) 「ピッチシフト」ウィンドウが表示されるので、周波数倍率を指定します。

倍率の指定は、「周波数倍率」欄に倍率を0.1パーセント単位で入力するか、鍵盤を模したボタンで行います。

周波数倍率欄に表示される数値が大きくなるほど音程（周波数）は高くなり、数値が小さくなると周波数は低くなります。また鍵盤ボタンの場合は、基準の音（中央の鍵盤）に対して右の鍵盤ほど音程が高く、左の鍵盤ほど低くなります。

なお、周波数倍率欄がデフォルトの「100.0%」のままでは、ピッチシフト処理は行われません。^{*1}

- (4) [処理実行] ボタン 処理実行 をクリックすると、処理が開始されます。

『フェードイン』コマンド 1曲

このコマンドは、曲の再生を行うときに、曲の先頭では無音の状態にしておき、音量を次第に上げていきつつ（これをフェードインといいます）曲を開始する処理を施す機能です。

例えば、曲と曲の切り替わりの場面などで、前の曲の再生が終わってから次の曲の音量がだんだん大きく

なりながら再生が始まる効果を得たい時に使用します。

FM 放送などでは曲間を繋ぐ方法として一般的ですので、応用範囲が広い効果です。

【手順】

- (1) 仮想CDデッキのトラックリストから、コマンドを使いたいトラックを選択します。

No.	曲名	アーティスト	演奏時間	曲間秒数
01	はいはい	プリズムドラ	5:29	
02	知らないでと	プリズムドラ	5:08	
03	約束見つけた	プリズムドラ	5:44	
04	幸せのあしお...	プリズムドラ	4:22	

- (2) 編集パネルから [フェードイン] ボタンをクリックします。

- (3) 「フェードイン」ウィンドウが表示されるので、曲の先頭でフェードインが完了するまでの時間を0.01秒単位で指定します。最大60秒までの時間が設定可能です。^{*1}

微妙なフェードイン設定のポイント

フェードインが完了するまでの時間の微調整をマウスで行うと、微妙な操作が必要になります。そのためスライダーを選択した後、左右のカーソルキーを使用して調整することをお勧めします。左右のカーソルキーを1回押すごとに、0.01秒ごと時間を増減できます。

また、ホイール付きマウスを使用している場合は、マウスホイールを使用しても微調整が可能です（ただしこの場合、マウスに付属するユーティリティの設定によって詳細な動作は変化する場合があります）。



- (4) [処理実行] ボタン 処理実行 をクリックすると、処理が開始されます。

^{*1}

設定について

フェードインの動作は、曲が開始される瞬間は無音で、設定した完了時間に元トラックの音量の100パーセントとなるような動作となります。つまり、フェードインが完了する時間を設定すると、音量がどの程度ずつ大きくなるかも設定されることとなります。

そのため、あまりに長い時間を設定すると長時間にわたって少しずつ音量が大きくなってしまい、曲調を損ねてしまう場合があります。設定を行う場合は、必ず [再生] ボタンを押して試聴を行うことをお勧めします。

編集機能を使いこなす

『フェードアウト』コマンド 1 曲

このコマンドは、曲の再生を行うときに、曲の最後で音量を次第に下げつつ（これをフェードアウトといいます）曲を終了する処理を施す機能です。

例えば、ライブ録音のソースなどで、次第に拍手が小さくなりながら曲を終了させるような処理を施したいときに使用します。また、編集の都合上、曲を途中で終わらせなければならない時などにも使用できます。

こちらもフェードインと同じく曲間を繋ぐ方法としてよく使われますので、応用範囲が広い効果です。

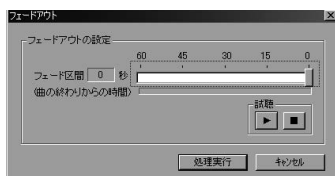
[手順]

- (1) 仮想CDデッキのトラックリストから、コマンドを使いたいトラックを選択します。

No.	曲名	アーティスト	演奏時間	曲間秒数
01	はいはい	プリズムドラ...	5:29	-
02	知らないで	プリズムドラ...	5:08	-
03	約束見つけた	プリズムドラ...	5:44	-
04	幸せのあしお...	プリズムドラ...	4:22	-

- (2) 編集パネルから [フェードアウト] ボタンをクリックします。

- (3)



「フェードアウト」ウィンドウが表示されるので、曲の末尾でフェードアウトを開始する時間を0.01秒単位で指定します。最大60秒までの時間が設定可能です。^{*1}

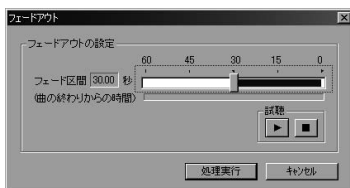
*1

設定について

フェードアウトの動作は、曲の最後で設定した開始時間の間、次第に音量を小さくする処理を行います。『フェードイン』コマンドと同じく、フェードアウトの開始時間を設定すると、音量がどの程度ずつ小さくなるかも設定されることとなります。

そのため設定を行う場合は、ちょうどよい処理となっているかどうか、必ず[再生]ボタンを押して試聴を行うことをお勧めします。

微妙なフェードアウト設定のポイント



フェードアウトを開始する時間の微調整をマウスで行うと、微妙な操作が必要になります。そのためスライダーを選択した後、左右のカーソルキーを使用して調整することをお勧めします。左右のカーソルキーを1回押すごとに、0.01秒ごと時間を増減できます。

また、ホイール付きマウスを使用している場合は、マウスホイールを使用しても微調整が可能です（ただしこの場合、マウスに付属するユーティリティの設定によって詳細な動作は変化する場合があります）。

- (4) [処理実行] ボタン 処理実行 をクリックすると、処理が開始されます。

『クロスフェード』コマンド 2曲

このコマンドは、2つの曲をつなぎ合わせる時に、先の曲をフェードアウトさせながら後の曲をフェードインさせ、ちょうど音量の大きさがクロスするような処理（これをクロスフェードといいます）を行います。

実際に聞くと前の曲が終わりきらないうちに次第に音量が下がっていき、次の曲が被さるようにして音量が

上がっていきますので、比較的自然な繋ぎ目となります。

FM放送やノンストップリミックス盤などで使われることの多い処理です。

【手順】

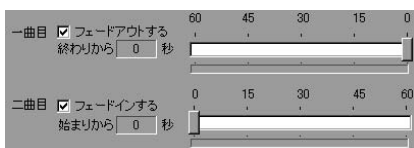
- (1) 仮想CDデッキのトラックリストから、コマンドを使いたいトラックを2曲選択します。^{注1}

No.	曲名	アーティスト	演奏時間	曲間秒数
01	ばいばい	プリズムドラ	5:29	-
02	知らないで	プリズムドラ	5:08	-
03	約束見つけた	プリズムドラ	5:44	-
04	幸せのあしお	プリズムドラ	4:22	-

- (2) 編集パネルから [クロスフェード] ボタンをクリックします。

- (3) 「クロスフェード」ウィンドウが表示されます。1曲目の末尾および2曲目の先頭でクロスフェードを実行する時間を0.01秒単位で指定します。最大60秒まで区間が設定可能です。

1曲目のフェードイン時間のスライダーと2曲目のフェードアウト時間のスライダーは連動しており、自動的に同じ時間となるように調整されます。^{注2}



また、1曲目をフェードアウトするかどうか、2曲目をフェードインするかどうかもチェックボックスで決定できます。両方ともフェード処理を行わないことも可能で、その場合は指定した時間の間ミキシング処理が行われます。

△ 注1

このコマンドは、2つのトラックのみを選択した状態でしか使用できません。3つ以上のトラックを選択した場合は、[クロスフェード] ボタンがグレイアウト（クリックできない状態）になるので、注意してください。

また、トラック番号の隣り合った2曲ではなく、離れた2曲を選択することもできます。その場合、他の一方の曲がコピーされてクロスフェード処理がなされます。上手に使うことで、ある1曲をモチーフにして、他のすべての曲にリフレインのような効果を与えるなど、高度な効果を演出することが可能です。

△ 注2

クロスフェード処理の『1曲目』と『2曲目』は、トラック番号の少ない方が1曲目、多い方が2曲目として自動的に決定されます。

変更する必要がある場合は、前もってトラックを並べ替えるなどの作業が必要です。

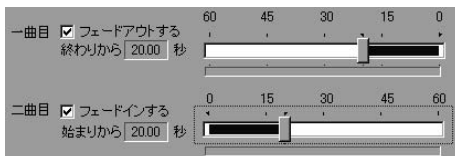
また、設定を行う場合は、フェードインやアウト同様、ちょうどよい処理となっているかどうか、必ず [再生] ボタンを押して試聴を行うことをお勧めします。

編集機能を
使いこなす

注3

『クロスフェード』コマンドは、エフェクトコマンドの中でも特に複雑な処理になりますので、『処理中』と表示されたダイアログボックスの表示されている時間がほかのコマンドと比較しても長くなります。

微妙なクロスフェード設定のポイント



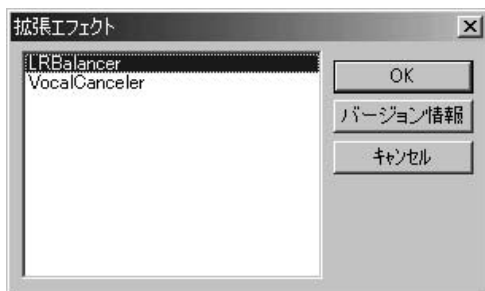
クロスフェードの実行時間の微調整をマウスで行うと、微妙な操作が必要になります。そのためスライダーを選択した後、左右のカーソルキーを使用して調整することをお勧めします。左右のカーソルキーを1回押すごとに、0.01秒ごと時間を増減できます。

また、ホイール付きマウスを使用している場合は、マウスホイールを使用しても微調整が可能です（ただしこの場合、マウスに付属するユーティリティの設定によって詳細な動作は変化場合があります）。

（4）[処理実行] ボタン 処理実行 をクリックすると、処理が開始されます。^{注3}

No.	曲名	アーティスト	演奏時間	曲間秒数
01	はいはい	プリズムドラ...	5:21	0
02	知らないひと	プリズムドラ...	5:00	-
03	約束見つけた	プリズムドラ...	5:44	-
04	幸せのあしお...	プリズムドラ...	4:22	-
05	地下鉄に乗っ...	プリズムドラ...	4:14	-
06	アツの海の向...	プリズムドラ...	4:53	-
07	ジャンプー	プリズムドラ...	4:23	-
08	今度、会おうね	プリズムドラ...	4:20	-

クロスフェードの1曲目となったトラックには、「無音秒数」欄に自動的に「0」が表示されます。これはクロスフェードの効果を綺麗に発揮させるため、次の曲との曲間を開けないための処理です。

『拡張エフェクト』コマンド 1 曲 複数曲 注1

MCDDエクステンションによって拡張された『拡張エフェクト』コマンドを使用するためのコマンドです。

ここでは、標準搭載されているMCDDエクステンション『L/R個別レベル調整機能』について解説します。

L/R個別レベル調整機能は、ソースの右チャンネルと左チャンネルのバランスを変えるための機能です。

録音時の事情で左右チャンネルのバランスが悪くなってしまったソースを補正するために主に使われますが、あらかじめ右チャンネルのみの曲と左チャンネルのみの曲を作っておき、『ミキシング』コマンドで同時に再生して特殊な効果を出すといった用途など、高度な編集にも使える機能です。

[手順]

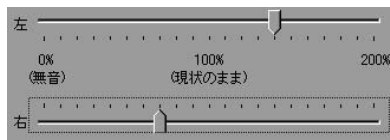
- (1) 仮想CDデッキのトラックリストから、コマンドを使いたいトラックを選択します。

No.	曲名	アーティスト	演奏時間	曲間秒数
01	はいはい	プリズムドラ...	5:29	-
02	知らないひと	プリズムドラ...	5:08	-
03	約束見つけた	プリズムドラ...	5:44	-
04	幸せのあしお...	プリズムドラ...	4:22	-

- (2) 編集パネルから [拡張エフェクト] ボタンをクリックします。^{*1}

- (3) 「拡張エフェクト」ウィンドウが表示されます。一覧の中から「LRBalancer」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。^{*2}

- (4) 「L/R個別レベル調整」ウィンドウが表示されます。左チャンネルの音量を上のスライダーで、右チャンネルの音量を下のスライダーで調整します。



中央の100パーセントではまったく調整をせず、それぞれのスライダーを左に移動させると音量が小さく、右に移動させると音量が大きくなります。^{*3}

△ 注1

標準搭載の『L/R個別レベル調整機能』の場合です。MCDDエクステンションの種類によって、どれだけのトラックに対応可能かは変化します。

*1

👉 選択画面について

MCDDエクステンションは、ボタンを押した後の一覧メニューから選択できるようになっていますので、コマンドを使いたいトラックを選び、編集パネルのボタンを押すまでの操作は、他のMCDDエクステンションでも同じです。

*2

👉 バージョン情報の表示について

[バージョン情報] ボタンをクリックすると、一覧の中から選択したMCDDエクステンションのバージョン情報が表示されます。

*3

👉 試聴について

L/R個別レベル調整コマンドでは試聴ができませんが、調整後の結果は別のトラックとして保存されます。調整後の結果に満足がいけない場合は、調整前のトラックに対してもう一度コマンドを実行してみてください。

編集機能を使いこなす

(5) [処理実行] ボタンをクリックすると、処理が開始されます。

(6) レベル調整の処理が終了した曲が新しいトラックとして、仮想CDデッキの一番後ろに新しく登録されます。名前は『LRBalancerの出力(1)』、『LRBalancerの出力(2)』のように付けられます。

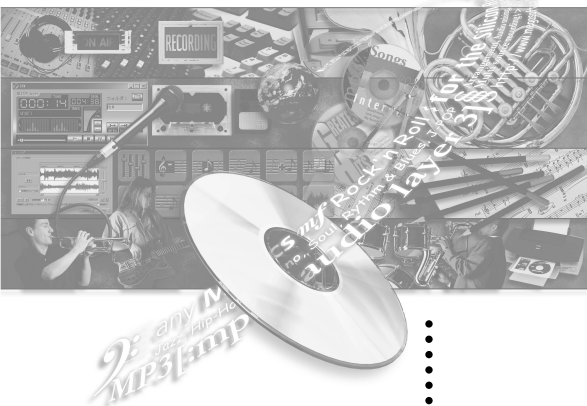
No.	曲名	アーティスト	演奏時間	曲間
01	ばいばい	プリズムドラ...	5:29	-
02	知らない人と	プリズムドラ...	5:08	-
03	約束見つけた	プリズムドラ...	5:44	-
04	幸せのあしあと	プリズムドラ...	4:22	-
05	地下鉄に乗って	プリズムドラ...	4:14	-
06	7つの海の向こうに	プリズムドラ...	4:53	-
07	シャンプー	プリズムドラ...	4:23	-
08	今度、会おうね	プリズムドラ...	4:28	-
09	LRBalancerの出力(1)		5:29	-
10	LRBalancerの出力(2)		5:08	-

第7章

CDナビ機能を使いになる

ミュージックCDデザイナー3は、CDナビと呼ばれる機能を搭載しています。この機能はユーザーの持つ音楽CDや、ミュージックCDデザイナー3で作成したCDの情報を、カタログ化して管理できる“音楽CDのデータベース”です。ここでは、その機能と利用法をご紹介します。

- Part1 新しい音楽CDを手動で登録する.....124
- Part2 音楽CDのトラック情報を登録(変更)する...126
- Part3 登録済みのCD情報を検索する.....128
- Part4 登録情報の削除131
- Part5 登録済みのCD情報をデザイン画面で使用する...131
- Part6 CDナビに登録されたCDを試聴する132



CD Navi

CDナビについて

CDナビ機能は、ユーザーが所有している音楽CDやミュージックCDデザイナー3を使用して作成した音楽CDのアルバム名、アーティスト(演奏者)名、曲目などの情報を登録しておくことにより、簡単な操作でそれらの情報を検索したり、CDが手元になくても曲のイントロを試聴できる機能を持った、一種のデータベース機能です。

また、CDナビに登録されている情報は「CDデザイン」機能でも使用できるため、デザイン作業も簡略化できます。

CDナビ機能は、「制作」ウィンドウを使用して登録作業を行います。また、CDの検索、登録情報の変更、削除などは「CDナビ」ウィンドウを使用します。

Part1 新しい音楽CDを手動で登録する

★1

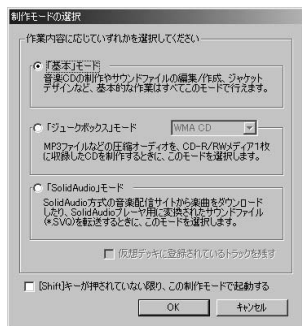
登録のキャンセル

ただしユーザーがCDナビへの登録をキャンセルした場合は、改めて登録を行う必要があります。これに関しては131頁をご参照ください。

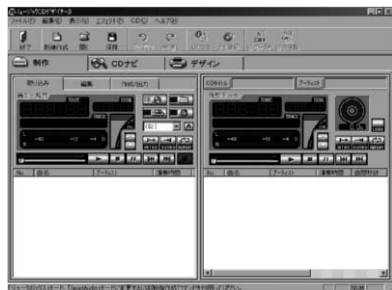
ミュージックCDデザイナー3を使用して音楽CDを作成する場合、作成作業を行った時点でその情報が自動的にCDナビに保存されますので、改めて登録作業を行う必要はありません。^{★1}

ただし、ユーザーが所有している音楽CDをCDナビに登録する場合は、新たに登録作業が必要になります。

【手順】



(1) ミュージックCDデザイナー3を起動します。「制作モードの選択」ウィンドウが表示されるので「基本」モード欄をクリックし、[OK] ボタンをクリックしてください。「制作」ウィンドウが開いた状態の画面が表示されます。



(2) 音楽CDを挿入するCD-ROMドライブ(またはCD-R/RWドライブ)を指定し、情報を登録したい音楽CDを指定したドライブに挿入します。

No.	曲名	アーティスト	演奏時間
01	ほしほし	プリズムドライブ	6:29
02	知らない人	プリズムドライブ	5:08
03	約束をくれた	プリズムドライブ	5:44
04	幸せの歌	プリズムドライブ	4:22
05	地下鉄に乗って	プリズムドライブ	4:14
06	アツい道の向こうに	プリズムドライブ	4:53
07	シンデレラ	プリズムドライブ	4:28
08	今度、会おうね	プリズムドライブ	4:20

(3) 入力ソース情報ウィンドウに、挿入したCDの情報が表示されます。^{*2}



(4) メニューバーの[CD]・[CDナビに登録]メニューをクリックします。または、ツールバーの「ナビ登録」ボタンをクリックします。



(5) 「CDナビに登録」ウィンドウが表示されるので、アルバムの情報を入力します。「タイトル」「アーティスト」「メモ」のアルバム情報を入力し、[OK]ボタンをクリックします。^{*3}

また、「试听を可能にする」欄のラジオボタンをチェックすることで、试听するかどうかなを選択できます。^{*4}



(6) 「试听を可能にする」をチェックしていた場合、自動的にトラック情報が解析され、试听データが自動的に読み込まれます。次に、试听データの圧縮が行われます。



(7) CDナビの音楽CD一覧の中に、登録したCDが表示されます。これで作業は完了です。

^{*2}

👉 曲目等の表示

CD-TEXTの読み出しに対応しているCD-ROMドライブを使用している場合は、CD-TEXTで作成された音楽CDを挿入すると、入力ソース情報ウィンドウにはCD-TEXT情報として登録された曲目とアーティスト名が自動的に表示されます。

また「環境設定」の「CDDB」欄を「自動的に接続する」と設定し、さらに音楽CDのデータがCDDBに収録されている場合は、CDDBより検索されたデータが自動的に表示されます。

^{*3}

👉 情報の変更

「タイトル」欄と「アーティスト」欄には仮想デッキの「CDタイトル」と「アーティスト」の情報が自動的に表示されます。

^{*4}

👉 试听について

「试听を可能にする」をチェックした場合、CDナビ上で検索した楽曲のイントロを、CDがなくても聴くことができる「试听機能」を使うことができます。

试听機能に関しては、詳しくは132頁をご参照ください。

CDナビ
機能を使い
こなす

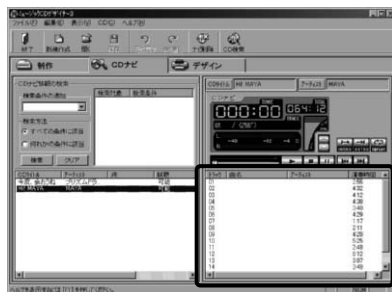
Part2 音楽CDのトラック情報を登録(変更)する

手動でCDナビへ登録した音楽CDの場合、まだCDタイトルなどの表面的な情報が書き込まれているだけです。この場合CDタイトルでの検索は可能ですが、曲名などを入力することで、それらによる検索も利用可能になります。

ミュージックCDデザイナー3で作成した音楽CD、CD-TEXTに対応した音楽CD、CDデータベースサイトから情報を登録したCDの場合は、曲名などの情報も登録されます。しかし、それらの情報に対して変更の必要が生じた場合、同じ手順で登録済み情報の変更が行なえます。

[手順]

(1) [CDナビ] タブをクリックします。ミュージックCDデザイナーの画面が「CDナビ」ウィンドウに変わります。



(2) 音楽CD一覧のリストから、曲名などを編集したい音楽CDを選択します。

*1

曲名の変更

曲名を登録(変更)したいトラックを選択した状態で右クリックメニューを表示させる手順でも、これらの情報の変更が可能です。



トラック	曲名	アーティスト	演奏時間
01	Quiet Island		2:55
02			4:32
03			4:12
04			4:38
05			3:40
06			4:29
07			1:17
08			2:11
09			4:28
10			5:25
11			2:48
12			6:12
13			3:07
14			3:48

(3) 右側のCDナビデッキに現在登録されている曲名などの情報が表示されるので、曲名を登録(変更)したいトラックの曲名をダブルクリックし、曲名を入力します。*1

トラック	曲名	アーティスト	演奏時間
01	Quiet Island	MAYA	2:55
02			4:32
03			4:12
04			4:38
05			3:40
06			4:29
07			1:17
08			2:11
09			4:28
10			5:25
11			2:48
12			6:12
13			3:07
14			3:48

(4) 同じ手順で、アーティストも入力します。

CDタイトル	アーティスト	メモ	状態
今度、会おうね	プリズムドラ...		可能
H2 MAYA	MAYA	MAYA First ...	可能

(5) 以上の作業を、各トラックごとに必要に応じて行います。

CD情報の変更に関しても、基本的にトラック情報の変更と同様の手順となります。変更したい音楽CDを選択したうえで、対象の「CDタイトル」、「アーティスト」あるいは「メモ」にポインタを合わせ、ダブルクリックすることで変更が可能になります。^{*2}

CDタイトル	アーティスト	メモ	状態
今度、会おうね	プリズムドラ...		可能
H2 MAYA	MAYA	1st ALBUM	可能
		MAYA First ALB	

また、「メモ」欄のみは一度入力した文字列はドロップダウンリストとして登録されるので、そこからの入力も可能です。

*2



情報の変更

音楽CD情報一覧から変更したいCD情報を選択し、右クリックメニューを表示させる手順でも、これらの変更が可能です。

今度、会おうね	プリズムドラ...	可能
削除	MAYA First ...	可能
タイトル入力		
アーティスト名入力		
メモ入力		

CDナビ
機能を使い
こなす

Part3 登録済みのCD情報を検索する

音楽CDの情報を多数登録していくと、次第に目的のCD情報を探すのに手間がかかるようになってきます。そのためミュージックCDデザイナー3では、多彩な項目で検索が可能なCD情報検索機能をサポートしています。

CDナビの検索機能は、「CDタイトル」「登録日」「CD-TEXTに対応した音楽CDが否か」「曲名」「アーティスト名」「メモの内容」といった項目で検索が可能です。またさらに、これらの項目を複数組み合わせることもできます。こうした検索条件を組み合わせることで、「というアーティストのという曲が収録された音楽CD」といった実用的な条件で検索することが可能です。

[Step1]



「検索条件の追加」リストから、検索対象となる項目を選択します。

[Step2]

検索条件を入力します。

「検索条件の追加」リストから検索する項目を選ぶと、それぞれの項目に対応した条件設定ウィンドウが開きます。

・CDタイトル検索

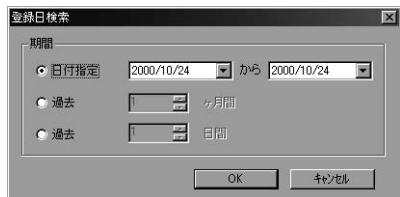


入力した文字列で音楽CDのタイトルを検索します。「部分一致」にチェックを入れた場合は、入力した内容がタイトルの一部と一致するだけで検索結果として表示されます。対して「完全一致」にチェックを入れた場合、入力した内容とタイトルが完全に一

致しなければ検索結果として表示されません。^{*1}

そのため、検索したいタイトルが完全に判明している場合以外は、「部分一致」を指定して検索することをお勧めします。

・登録日検索



CDナビに音楽CDを登録した日時で検索を実行します。検索方法としては、具体的な日付を指定して検索する方法、過去の月数で検索する方法、過去の日数で検索する方法の3種類が用意されています。

^{*1}
大文字と小文字の
区別

英大文字と英小文字は区別されません。たとえば“TEXT”と“text”は、どちらも同じ文字列として見なされます。

・CD-TEXT対応検索



登録した音楽CDがCD-TEXTに対応しているか否かで検索を行います。

△ 注

CDナビに音楽CDを登録したときに用いたCD-ROMドライブがCD-TEXTに対応していない場合には、すべて未対応とみなされて登録されていますので、注意が必要です。

・曲名検索/アーティスト検索



音楽CDに登録されている曲名/アーティスト名からCDを検索します。「CDタイトル検索」の場合と同様に、それぞれ「部分一致」か「完全一致」かを選択することができます。^{*2}



*2

👉 大文字と小文字の区別

「CDタイトル検索」の場合と同様に、これらの検索項目でも、英大文字と英小文字は区別されません。

・メモ検索



CDナビに音楽CD情報を登録した際に書き込んだ、「メモ」欄の内容で検索します。こちらも「部分一致」か「完全一致」かを選択することができます。



また、📄 をクリックすると、CDナビの「メモ」欄に登録した文字列をドロップダウンリストより選択することができます。一般的な場合は、こちらを併用して検索を実行することをお勧めします。



入力が完了すると、検索条件の一覧のウィンドウに設定した検索対象と検索条件が表示されます。^{*3}

*3

👉 検索条件の指定

検索条件は、複数を組み合わせて指定することができます。

CDナビ
機能を使い
こなす

★ 4

🔍 検索条件の削除

入力済みの検索条件を削除するには、検索条件の一覧の中から目的の検索条件を選択し、メニューバーの[編集] - [削除]コマンドを実行するか、または右クリックメニューから[削除]を選択します。

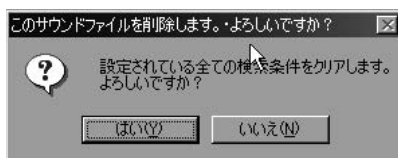


[Step3]

検索方法を指定します。^{*4}

「すべての条件に該当」にチェックを入れた場合、「検索対象」と「検索条件」の欄に表示されているすべての条件に該当した検索結果のみが表示されるようになります。

対して「何れかの条件に該当」にチェックを入れた場合は、「検索対象」と「検索条件」の欄に表示された条件のうち、いずれか一つでも満たしていれば検索結果として表示されるようになります。



すべての検索条件を削除するときは、[クリア]ボタンをクリックするか、検索条件の一覧で表示される右クリックメニューから[クリア]を選択します。コマンドを実行すると検索条件のクリアに関するダイアログボックスが表示されるので、[はい]ボタンをクリックします。

すべての検索条件を削除するときは、[クリア]ボタンをクリックするか、検索条件の一覧で表示される右クリックメニューから[クリア]を選択します。コマンドを実行すると検索条件

[Step4]



[検索] ボタンをクリックします。

⚠ 注1

検索結果は音楽CD一覧にのみ表示されます。「曲名」や「アーティスト名」を条件に指定して検索した場合でも、音楽CD一覧リストを選択しない限り、曲名リストは表示されません。ただし、検索条件としては反映されています。

[Step5]



音楽CDの一覧リストに、検索条件に該当した音楽CD情報が表示されます。^{注1}


音楽CD一覧情報の閲覧ポイント

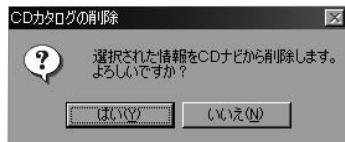
検索を実行した場合、音楽CD一覧には、検索結果の表示リストが表示されています(つまり、検索条件に合った音楽CD情報以外は表示されない状態になっています)。

デフォルト状態のようにCDナビに登録されているすべての音楽CDの情報を閲覧したい場合は、[クリア]ボタンをクリックするか、検索条件の一覧で表示される右クリックメニューから[クリア]を選択します。

ただし、これまでに入力した検索条件はすべて削除されますので、注意してください。

Part4 登録情報の削除

登録情報の削除は、音楽CD一覧リストで目的の音楽CDをクリックし、メニューバーの[編集]・[削除]コマンドを実行することで行なえます。またこのほかにも、ツールバーの[ナビ削除]ボタンをクリックする方法、音楽CDリスト上で右クリックメニューを表示して[削除]コマンドを選択する方法があります。



コマンドを実行すると「CDカタログの削除」ダイアログが表示されるので、[はい]ボタンをクリックすると削除が完了します。^{*1}

★1

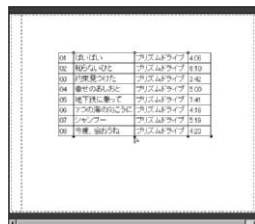
登録情報の削除は、音楽CDの単位でしか行えません。たとえば1つのトラック情報のみを削除する場合などは、手動で削除する必要があります。

Part5 登録済みのCD情報をデザイン画面で使用する

CDナビに登録したCDの情報は、CDトラック情報としてデザイン画面で流用することができます。CDナビの情報を流用することで、簡単にトラックのリストを制作でき、さらに繰りミスや曲順の間違いなどを減らすことができます。

この機能に関する詳細は、146頁の『CDトラック情報を貼り込む』をご参照ください。

CD情報のデザイン画面への貼り込みのポイント



「曲名」や「アーティスト名」など、貼り込みたい情報を選択して表示させることができます。

また、この状態からCDナビの情報を更新した場合は、デザイン画面へ戻り、貼り込んだ情報の領域をダブルクリックすると、即座に情報が更新されます。

なお、このようにCDナビのデータを貼り込むには、あらかじめCDナビウィンドウでCDを選択しておく必要があります。

CDナビ
機能を使い
こなす

Part6 CDナビに登録されたCDを試聴する

試聴機能は、CDナビの目玉機能のひとつです。検索したCDのデータに対して、CDがなくとも曲のイントロの試聴を可能にする機能です。

試聴機能とは

CDナビにデータを登録することで、手元に音楽CDがなくてもイントロを聴くことを可能にする機能です。

CDナビにデータを登録する際に、音楽CDのタイトルや曲名といったデータに加え、WMA (Windows Media Audio) 形式などの音楽圧縮技術を使った「試聴用サウンドデータ」をデータベースに保存することで実現しています。

試聴用サウンドデータは、ファイルの大きさを重視してイントロの10秒 (デフォルト設定の場合) のみで、さらに圧縮されるため、コンパクトなものとなります。^{*1}

試聴の設定を確認する

試聴用のファイルに関する設定は、メニューバーの [ファイル]・[環境設定] メニューを選択すると表示される「環境設定」ウィンドウで行います。

これらの設定はデフォルトで多くのユーザーに最適な状態となっていますが、試聴用ファイルの秒数設定などは、ユーザーの使用方法で適切な値が大きく変わります。一度は確認をされることをお勧めします。

[手順]



(1) 「環境設定」ウィンドウの上部にある [CDナビ] タブをクリックします。



(2) 「試聴用サウンドデータ」欄に、必要な情報を入力します。

「試聴時間」欄では、試聴用サウンドデータの長さを指定します。最長30秒まで延長が可能です。

*1
👉 試聴秒数

試聴用のファイルの秒数は、環境設定画面で変更することが可能です。



「ファイル形式」欄では、試聴用サウンドデータの圧縮フォーマットをドロップダウンリストより選択します。とくに問題を感じるようなことがなければ、ファイルサイズとエンコード時間のバランスから「WMA形式」を使用されることをお勧めします。

「フォーマット」欄は、「ファイル形式」リストで選択した圧縮フォーマットの音質に関する要素を設定します。^{*2}

最初のリストでは、サンプリング周波数を設定します。標準の「44.1kHz」を使用されることをお勧めします。数値を小さくするとファイル容量は小さくなりますが、高い周波数の音の再現性が劣化します。

次のリストでは、ファイル容量をKbps（キロビット毎秒）単位で設定します。数値を大きくするとファイル容量も大きくなりますが、音質は向上します。小さくするとその逆となります。

最後のリストでは、ステレオかモノラルかを設定します。ステレオである必要がない場合は、モノラルに設定することでファイル容量を小さくすることができます。

〔高度な設定〕ボタンは、「ファイル形式」欄で「TwinVQ形式」「MP3形式」を選択した場合にのみ操作が可能となっています。

それぞれ、TwinVQとMP3で設定できる速度と音質の要素についての調整が可能です。



TwinVQの場合の高度な設定



MP3の場合の高度な設定

これらの設定についての詳細は、ヘルプをご参照ください。^{*3}

* 2

🔊 デフォルト値

デフォルト設定されている値は、それぞれの圧縮フォーマットでCD品質の音楽を再生する際に推奨されている設定です。そのため、「音質を犠牲にしてもファイルのサイズを小さくしたい」といった意図がない限りは、デフォルト設定での使用をお勧めします。

* 3

参照方法は、メニューバーの〔ヘルプ〕-〔トピックの検索〕-〔キーワード〕を選択し、「高度な設定」を入力します。

CDナビ
機能を使い
こなす

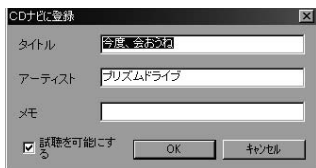
* 1

CDナビの登録に関する詳しい操作手順については、124頁を参照ください。

試聴用サウンドデータを作成する

試聴用サウンドデータは、音楽CDをCDナビに登録することで作成されます。

CDナビへの登録作業で表示される「CDナビに登録」ダイアログで「試聴を可能にする」にチェックを入れることで、自動的に試聴用サウンドデータが作成されます。*1



「試聴を可能にする」にチェックを入れず、試聴用サウンドデータを作成しなかった音楽CDに対して試聴用サウンドデータを新しく作成する場合は、改めてCDナビに登録する手順を実行してください。CDナビに入力した他のデータは引き継がれますので、データを再入力する必要はありません。

CDナビに登録された試聴用サウンドデータを試聴する

試聴を行う場合は、CDナビ画面より操作します。

【手順】

(1) 「CDナビ」タブをクリックします。ミュージックCDデザイナー3の表示がCDナビウィンドウに変わります。



(2) 音楽CD一覧リストから、試聴が可能な音楽CDを選択します。右の「CDナビデッキ」のトラッカー一覧に、選択したCDのトラック情報が表示されます。*2



(3) 試聴したいトラックをトラッカー一覧より選択し、CDナビデッキの[再生]ボタンをクリックするか、トラッカー一覧で右ボタンメニュー[試聴]コマンドを選択します。



(4) 試聴用サウンドデータが再生されます。

検索と試聴機能併用のポイント

CDナビの検索機能で検索結果として表示されたCD情報の場合も、同じ手順で試聴が可能です。

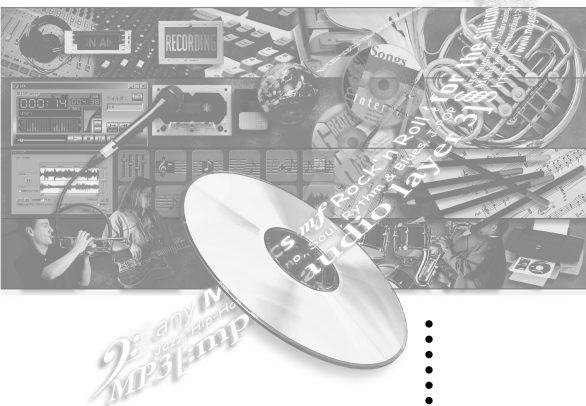
検索機能と試聴機能を組み合わせて使用することで、音楽CDの管理が容易となります。

第8章

CDをデザインする

ミュージックCDデザイナー3では、CDの編集・作成作業のほかに、パッケージやレーベルのデザインや印刷を行うことができます。市販のCDケースやメディアにオリジナルなデザインを施し、見栄えのよい個性的な外観に仕上げてください。

概要	デザインできるもの	136
概要	描画ツールバーについて	138
概要	実際のデザインの流れ	140
Part1	シートの形状を選択する	142
Part2	背景の設定	144
Part3	文字の入力・読み込み(トラック情報) 書式を設定する	146
Part4	線を引く・図形を描く	152
Part5	画像を取り込む	155
Part6	オブジェクト配置・重なり修正	158
Part7	印刷する	160
Part8	知っている便利な機能とテクニック	162



Design

デザインできるもの

*1 👉 選択について



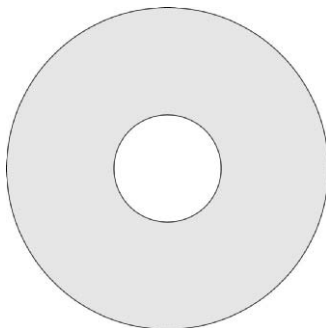
デザインするラベルシートの種類は、[デザイン] - [背景] タブから簡単に選択することができます。

⚠ 注1

CD-Rのラベルシールは、貼り付け後に温度差・湿度差などによって不具合が生じることがあります。特に、カーオーディオなどスロットインタイプのCDプレーヤでのご利用はお避けください。

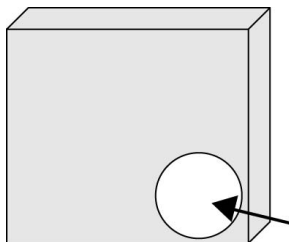
ミュージックCDデザイナー3では、CDレーベル、ラベル、CDブックレット、CDインレイをデザインして、市販のCDラベル用シール用紙に印刷することができます。^{*1}

CDレーベル



ラベル面、つまりCDの記録面の裏側です。^{注1}

ラベル

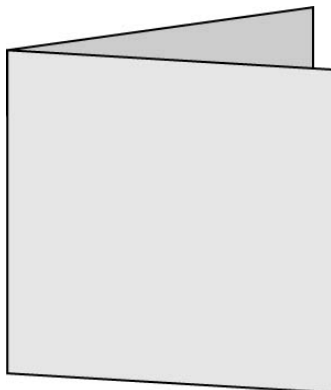


CDケース表面に貼るラベルです。



ラベルは、四角形、角を丸くした四角形、円形の3種類のテンプレートから選択できます。

CDブックレット



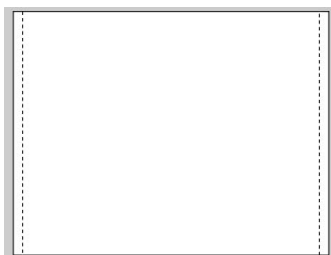
CDケースの、透明なフタの内側に差し込む小冊子（カード）です。

タイプ

- ☒ 片面 ☐ 四面
☐ 両面横 ☐ 両面縦

CDブックレットはペラ（1枚入、2ッ折（2枚入）、4ッ折（4枚入）の3種類のテンプレートが用意されており、2ッ折（2枚入）を選択した場合は縦・横2パターンの作成が可能です。

CDインレイ



レコードジャケットの裏表紙に相当するものです。

CDケースの、内側のCDホルダーと外側透明ケースの間に格納されます。

タイプ

- ☒ 横 ☐ 縦

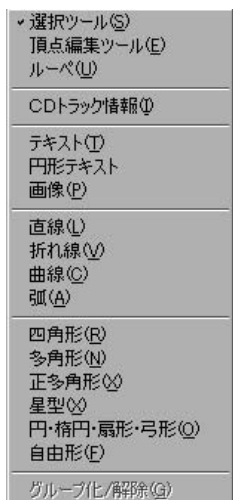
CDインレイは縦・横2パターンが選択できます。

描画ツールバーについて

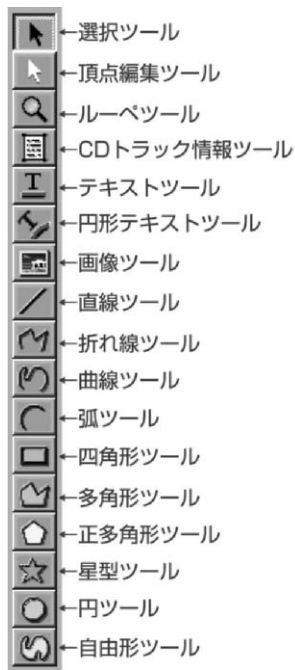
* 1

各ツールの選択について

各ツールの選択は、[ツール (T)] のプルダウンメニューから行えます。



文字（テキスト）画像、線、図形などのオブジェクトを作成する場合は、描画ツールバーを利用します。描画ツールバーの各アイコンをクリックして選択することによって、その機能を利用することができます。*1 選択するとそのアイコンはバックが薄い網点に変わり、作業可能な状態になります。各アイコンの機能は、以下の通りです。



選択ツール / オブジェクトの選択に用います。希望のオブジェクトをクリックし選択すると、オブジェクトの四隅に正方形の小さなポイントが現れます。

頂点編集ツール / オブジェクトを変形したり、移動したりするために用います。オブジェクトを構成する頂点に表示されている四角形のハンドルをドラッグして、オブジェクトを変形させます。

ループツール / デザイン画面の拡大・縮小に用います。任意の場所で左クリックすると拡大し、右クリックすると縮小します。ドラッグ操作で表示場所を移動することができます。


CDトラック情報ツール / CDのトラック情報（曲名やアーティスト情報など）を貼りつけるために用います。ドラッグすると「CDナビ」のデータが自動的に貼りこまれます。


テキストツール / 文字を入力するために用います。文字を入力する開始位置をクリックするとダイアログボックスが表示されるので、そこに文字を入力します。


円形テキストツール / 円弧に沿って文字を入力します。クリック後、円形文字を入力します。


画像ツール / 画像を貼りつけるために用います。ドラッグ操作で貼りつけたい範囲を指定するとダイアログボックスが表示されるので、そこで画像を選択します。


直線ツール / 直線を描くために用います。描画する直線の開始点をクリックし、そのまま終点までドラッグします。[Shift] キーとの併用で45度単位の直線を描画できます。


 **折れ線ツール** / 折れ線を描くために用います。描画する折れ線の開始点をクリックし、各頂点を順にクリックします。終点をクリックし、右クリックで終了します。


 **曲線ツール** / 任意の曲線（ベジェ曲線）を描画するために用います。開始点をクリックし、希望する接点の位置で再びクリックすると同時にドラッグします。ハンドルと呼ばれる複数の線が現れ、それを操作して曲線を描画します。右クリックで終了します。


 **弧ツール** / 一部を切り取った円弧、楕円弧を描くために用います。任意の点をクリックし、そのままドラッグします。[Shift] キーを押しながらドラッグすると正円弧を描画できます。


 **四角形ツール** / 正方形、長方形、R形長方形を描くために用います。描画する矩形（四角形）の開始点をクリックし、そのまま対角線上にドラッグします。[shift] キーとの併用で正方形を描画できます。

 **多角形ツール** / 多角形を描くために用います。描画する多角形の開始点をクリックし、各頂点を順にクリックします。終点をクリックし、右クリックで終了します。

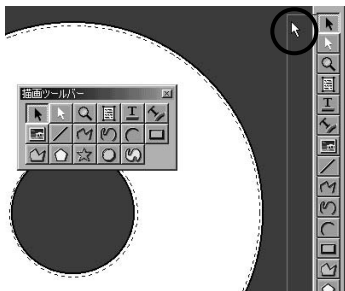
 **正多角形ツール** / 正多角形を描くために用います。[書式] タブで頂点数の指定を行った後、描画するオブジェクトの中心点をクリックし、そのままドラッグします。

 **星型ツール** / 星型を描くために用います。[書式] タブで頂点数の指定を行った後、描画するオブジェクトの中心点をクリックし、そのままドラッグします。描画後に中点のハンドルをドラッグすることで、形を変更することができます。

 **円ツール** / 円、楕円、扇形、弓形を描くために用います。[書式] タブで指定を行った後、描画するオブジェクトの左上の点をクリックし、そのままドラッグします。

 **自由形ツール** / ベジェ曲線の閉じた形を描くために用います。操作は基本的に曲線ツールの場合と同様です。各接点で順にドラッグ＆ドロップを繰り返すことで、その方向線の間に自由形を描画します。右クリックで終了します。


描画ツールバーの表示について



描画ツールバーは、ドラッグすることでデザインウィンドウの上下左右好きな位置に配置したり、描画ツールバーだけをパネルとして独立して表示させることができます。*1

* 1

表示 / 非表示について

描画ツールバーが不要に感じた場合は、 ボタンをクリックすることで、消すことができます。また、描画ツールバーの表示 / 非表示は、[表示] - [描画ツールバー] を選択し、チェックを入れたり外したりすることで可能となります。

CDを
デザイン
する

実際のデザインの流れ

Step1

シートを選択

↓

背景の設定

Step2

文字の入力

線・図形の描画

画像の取り込み

Step3

オブジェクト配置の修正

Step4



印刷

シートの形状を選択

ミュージックCDデザイナー3でCDをデザインするには、最初にシートの形状を選択して、何をデザインするかを選びます。シートの形状は、画面左の操作画面にある「背景」タブを選び、「種類」のプルダウンメニューから選択します。


ラベル1~3、CDラベル、CDインレイ、CDブックレットの6種類を選択することができます。（詳しくは、142頁を参照してください。）

背景の設定

ミュージックCDデザイナー3では、各シートの背景として「指定色」（指定色で塗りつぶす）「グラデーション」（開始色から終了色までのグラデーションで塗りつぶす）「画像」（画像を貼り付ける）を指定することができます。（詳しくは、144頁を参照してください。）


文字の入力




文字の入力は、描画ツールバーのテキストツール  を選択し、シート上をクリックします。[テキストの入力] ダイアログボックスが表示されますので、文字を入力します。ダイアログボックスでは、テキストファイルを読み込むこともできます。（詳しくは、146頁を参照してください。）

線、図形の描画


線を引くには描画ツールバーの線ツール（4種類）、図形を描くには描画ツールバーの図形ツール（6種類）をそれぞれ選択して行います。[書式] タブから、線や図形の種類や塗りつぶしの設定も可能です。

線を引くためのツール 

（詳しくは、152頁を参照してください。）

図形を描くためのツール 

画像の取り込み

画像を取り込むには、 を選択し、シート上をクリックします。ファイルの選択画面が表示されるので、取り込みたいファイルを選択します。TWAIN機器からの取り込みもこの選択画面から行います。画像を格納しているフォルダを開いた状態にし、そこからシートを表示している画面へドラッグ&ドロップすることでも画像を取り込むことができます。（詳しくは、155頁を参照してください。）

オブジェクト配置の修正

描画ツールバーで入力するCDトラック情報、画像、文字、線、図形は、全てオブジェクトとして扱われます。それらのオブジェクトの重なりや位置の調整は、[配置] タブから調整することができます。（詳しくは、158頁を参照してください。）

印刷

デザインが完了したら、市販のCDラベル用シール紙などに印刷を行います。ミュージックCDデザイナー3では、標準で多くの市販のCDラベル用シール紙に対応しています。（詳しくは、160頁を参照してください。）



シートの形状は、「種類」のプルダウンメニューから選択します。



背景には、指定色、グラデーション、画像が指定できます。



[書式] タブをクリックし、書体や文字サイズ、テキスト配置、テキスト方向といった書式を設定することができます。

（詳しくは、149頁を参照してください。）



オブジェクトの位置などの修正は、[配置] タブから行います。

Part1 シートの形状を選択する

*1

データの読み込み

過去に作成したCDDファイルから現在「種類」で選択しているシートのデータのみを読み込むには、[ファイル] - [インポート]またはツールバーの[インポート]アイコンをクリックします。



シートの形状は、画面左の操作画面にある[背景]タブを選び、「種類」のプルダウンメニューから選択します。

シートは、ラベル1~3、CDレーベル、CDインレイ、CDブックレットの6種類を選択することができますが、これらはCDDファイル(CDデザイン情報のみのファイル)として、1つのファイルに保存しておくことが可能です。*1

「種類」プルダウンメニュー



プルダウンメニューからシートの種類を選択します。選択に応じて、各シートの画面がデザインウィンドウに表示されます(右ページ参照)

サイズ



ラベル1~3を選択した場合のみ、「幅」「高さ」を好みに応じて設定することができます。

「塗り足し」は、印刷時にシートにはみ出す部分の大きさを設定します。定型のラベル用紙に印刷する場合は、1~2mm程度を設定すると印刷時のわずかなズレを吸収できます。

タイプ

ラベル1~3、CDインレイ、CDブックレットは、シートのタイプを細かく設定することが可能です。各設定の結果は、右ページを参照してください。



ラベル1~3のタイプ設定



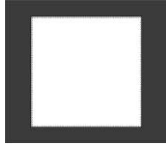
CDインレイのタイプ設定



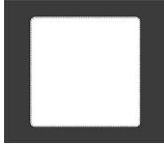
CDブックレットのタイプ設定

ラベル

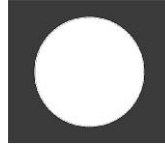
ラベル1~3はそれぞれ「角」「角丸」「丸」のタイプを設定することができるので、1つのCDDファイルに異なる3種類のラベルを保存することができます。



「角」を選択

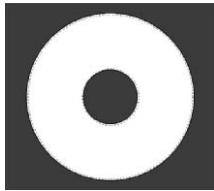


「角丸」を選択



「丸」を選択

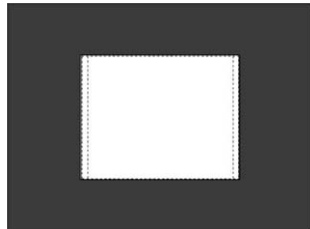
CDレーベル



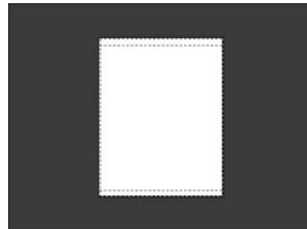
CDの記録面の裏側に貼りつけるシートです。

CDインレイ

「横」配置または「縦」配置の2パターンから選択することができます。



「横」を選択



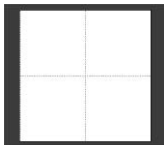
「縦」を選択

CDブックレット

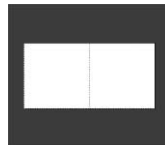
CDブックレットは、「片面」(ペラ)、「四面」(4つ折)、「両面横」(2つ折の横配置)、「両面縦」(2つ折の縦配置)の4種類から選択することができます。



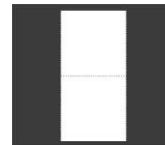
「片面」を選択



「四面」を選択



「両面横」を選択



「両面縦」を選択

シートの選択と制作手順について

どのような形状のシートを選択しても、「文字を入れる」「画像を貼り付ける」などのオブジェクトの制作手順は変わりません。

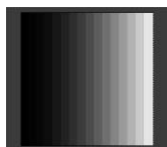
Part2 背景の設定

*1
👉 グラデーションの
方向

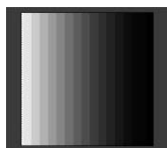
上 下



下 上



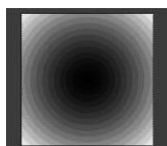
左 右



右 左

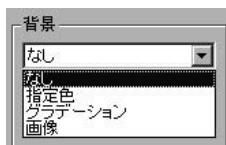


外 中



中 外

シートの背景の設定は、左の操作画面にある[背景]タブにある「背景」で行います。プルダウンメニューでは、「指定色」(指定色で塗りつぶす)、「グラデーション」(開始色から終了色までのグラデーションで塗りつぶす)、「画像」(画像を貼り付ける)を指定することが可能です。

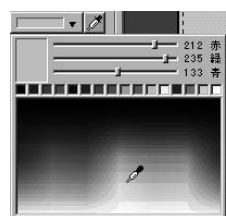


プルダウンメニューで背景を選びます

指定色



「指定色」を選択した場合は、カラーパレットとスポイトツールが表示されます。

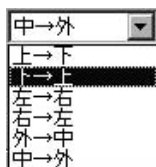


カラーパレットの表示は クリックすることで行えます。赤(R) 緑(G) 青(B)のスライダーを動かして色を作り出したり、パレット内から好きな色を選ぶことができます。スポイトツールは、ウィンドウ内ですでに使われている色の箇所をクリックすることで、同じ色を指定することができます。

グラデーション



「グラデーション」を選択した場合は、グラデーションの方向、開始色、終了色を指定することができます。



グラデーションの方向*1 は、プルダウンメニューで「上 下」「下 上」「左 右」「右 左」「外 中」「中 外」の6種類の中から選ぶことができます。開始色、終了色の指定方法は、上記で説明した「指定色」のときと同じです。

画像



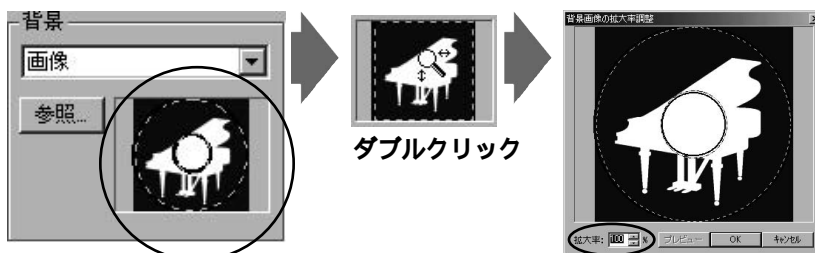
「画像」を選択した場合は、色の代わりに画像をシートに貼り付けることが可能です。[参照] ボタンをクリックして、貼り付ける画像ファイルを選択します。



[参照] ボタンをクリックすると、[ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。ここでは、PCXファイル (PCX)、JPEGファイル (JPG)、TARGAファイル (TGA)、BMPファイル (BMP)、TIFFファイル (TIF)、Photo CD (PCD)、Presto!オブジェクトファイル (POF)、Windowsメタファイル (WMF)、PNGファイル (PNG)、FlashPixファイル (FPX)、PICTファイル (PCT) を読み込むことが可能です。

[TWAIN] ボタンをクリックすることで、TWAIN対応のデジタルカメラやスキャナから直接画像を読み込むことが可能です。^{注1}
(詳しくは156頁を参照してください。)

画像表示エリアにマウスポインタを重ねるとポインタの形が虫眼鏡に変わり、マウスの左ボタンで貼り付けた画像の拡大、右ボタンで縮小することができます。また、ダブルクリックすると、「背景画像の拡大率調整」画面が表示されます。



拡大率を指定すると[プレビュー] ボタンがアクティブな状態となり、拡大した状態をチェックすることが可能となります。指定した拡大率でよければ[OK] ボタンをクリックします。

△ 注1

あらかじめTWAINドライバをインストールしておく必要があります。

Part3 文字の入力・読み込み(トラック情報)・書式を設定する

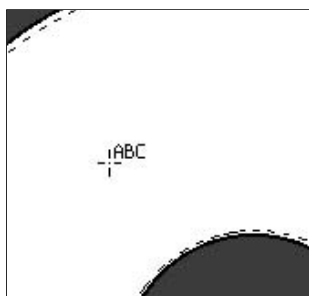
ミュージックCDデザイナー3で文字を入力する際は、描画ツールバーからテキストツールまたは円形テキストツールを選択します。円形テキストツールを使用すると、CDレーベルの円周に沿ってテキストを入力することができます。そのほか、曲名などを書いたテキストファイルを読み込むことも可能です。

文字の入力

[Step1]

描画ツールバーからテキストツールを選択します。

[Step2]



デザインウィンドウ内で、文字を入力する開始位置をクリックします。


[Step3]



[テキストの編集] ダイアログボックスに文字を入力して、[OK] ボタンをクリックします。

[Step4]



選択ツールで入力したテキストを選択すると、好きな位置に動かすことができます。

【テキストの編集】ダイアログボックスのボタン機能について



【テキストの編集】ダイアログボックスにあるボタンの動きは、以下の通りです。

CDタイトル：[CDナビ]で選択されているCDタイトルを挿入します

個人名：Windowsに登録してあるユーザー名を挿入します

組織名：Windowsに登録してある組織名を挿入します

日付：現在の日付を挿入します*1

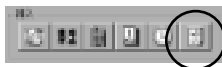
時刻：現在の時刻を挿入します*1

テキストファイル：テキストファイルの内容を挿入します

テキストファイルの読み込み

「文字の入力」の【Step1】と【Step2】の操作を行った後、以下の操作を行います。

【Step1】



【テキストの編集】ダイアログボックスの「挿入」にある【テキストファイル】ボタンをクリックします。


【Step2】



【ファイルを開く】ダイアログボックスで、テキストファイルを選択して【開く】ボタンをクリックします。

【Step3】

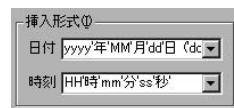


テキストが貼り込まれます。選択ツールで入力したテキストを選択すると、好きな位置に動かすことができます。

*1




日付 / 時刻の表示形式



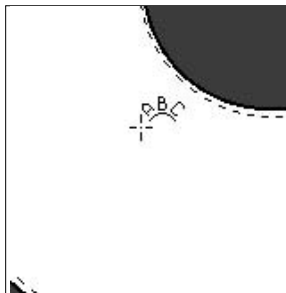
【ファイル】 - 【環境設定】を選択し、【デザイン】タブをクリックします。【挿入形式】の欄に「日付」と「時刻」の表示形式を選択するプルダウンメニューがあります。こちらで選択した形式が、「テキストの編集」ダイアログボックスで表示されます。

円形テキストの入力

[Step1]

描画ツールバーから円形テキストツールツール  を選択します。


[Step2]



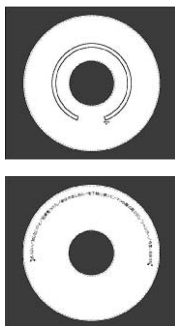
デザインウィンドウ内で、文字を入力する開始位置をクリックします。


[Step3]




「テキストの編集」ダイアログボックスに文字を入力して、[OK] ボタンをクリックします。「挿入」にある「テキストファイル」ボタン  で、テキストファイルを読み込むことも可能です。

[Step4]





円形テキストの直径や傾きを調節する場合は、描画ツールバーから選択ツール  を選択すると、自由にドラッグすることができます。^{*1}

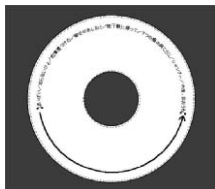
なお、円形テキストは通常CDレーベルの中心に合わせて配置されるので、中心がズレることはありません。

中心の位置を変更したいときは、[Shift] キーを押しながら選択ツール  でドラッグして下さい。

*1

 円周に沿った移動だけを行いたい場合

中心点との距離を変更したくない場合は、頂点編集ツール  を選択し、ドラッグすると円周に沿った移動だけが可能になります。



入力済みの文字に変更を加えたい場合

入力済みの文字に変更を加えたい場合は、画面上の文字をダブルクリックすると「テキストの編集」ダイアログボックスが開き、そこで変更することができます。

書式を設定する



入力した文字の書式を設定するには、左の操作画面の[書式]タブで行います。ここでは、フォント(書体)サイズ、スタイル、テキスト配置、テキスト方向などを設定することができます。

・フォント



1つの文字オブジェクトに対して、日本語表示用フォントと英語表示用フォントを個別に設定することができます。フォントを設定するには、デザインウィンドウ内に置かれた文字を選択ツールで選択後、プルダウンメニューでフォントを選びます。

・サイズ



文字の大きさを、プルダウンメニューで設定します。プルダウンメニューをクリックして反転表示にさせた後、キーボードから数値を入力すると、プルダウンメニューにない数値も設定することができます。

・カラー

[背景]タブでの操作と同様、カラーパレットとスポイトツールで文字の色を設定することができます。

・スタイル



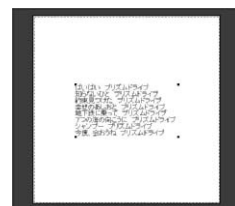
「スタイル」のプルダウンメニューで、文字の太さや傾きを[標準][太字][斜体][太字・斜体]の4種類に設定することができます。

・テキスト配置



「テキスト配置」のラジオボタンで、文字の配置を[左揃え][中央][中央揃え][右][右揃え]の3種類に設定することができます。*

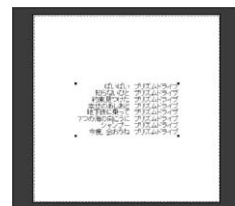
*1 テキスト配置について



左揃え



中央揃え



右揃え

CDを
デザイン
する

*1

テキスト方向の設定

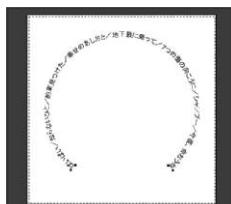
プルダウンメニューとラジオボタンでテキスト方向を設定できます。



*2

円形テキスト方向の設定

円形テキストのテキスト方向設定は、右回りと左回りが設定できます。



右回り



左回り

*3

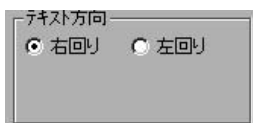
データの更新

CDナビで更新したデータは、貼り込んだデータ上にマウスポインタを置いてダブルクリックするだけで即座に反映されます。

テキスト方向



「角度」のプルダウンメニュー（標準、90°、180°、270°）と「横書き」「縦書き」のラジオボタンの組み合わせで、さまざまなテキスト方向を設定することができます。^{*1}




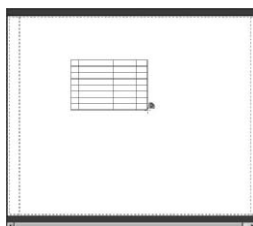
また、円形テキストの場合は、「右回り」と「左回り」のテキスト方向を設定できます。^{*2}

CDトラック情報の貼り込み

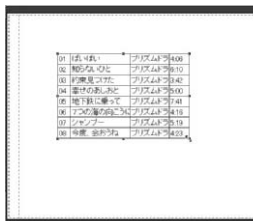
CDトラック情報とは、「CDナビに登録されているトラック情報」と「仮想デッキに登録されているトラック情報」のことで、CDトラック情報ツールを利用することによって、デザインウインドウにトラック情報を表示させることができます。


CDナビのデータを貼り込むには、あらかじめ「CDナビ」ウインドウで目的のCDを検索して、仮想デッキにトラック情報を表示します。

「デザイン」ウインドウに戻り、描画ツールバーからCDトラック情報ツールを選択し、貼り込みたい場所でクリック&ドラッグすると、CDナビで選択しているデータが自動的に貼り込まれます。^{*3} CDナビにトラック情報が登録されていない場合や「CDナビ」ウインドウにおいて、上記の操作を行わない場合は、仮想デッキに登録されている情報が自動的に貼り込まれます。



CDトラック情報ツールを選択し、貼り込みたい場所でクリック&ドラッグします



高さや幅を調節するには、選択ツールでトラック情報のオブジェクトを選択。表示されるコントロールポイントをドラッグします

01	表紙
02	CDトラック情報
03	CDトラック情報
04	CDトラック情報
05	CDトラック情報
06	CDトラック情報
07	CDトラック情報
08	CDトラック情報

トラック番号や演奏時間などの表示割合を調整するには、**頂点編集ツール** でトラック情報のオブジェクトを選択。表示されるコントロールポイントをドラッグします。

背景 **書式** **配置** |

線種

0.1 mm

フォント

日: MS Pゴシック

英: MS Pゴシック

120 P

標準

表示トラック

☐ 全トラック

☒ 指定

1 ~ 8 トラック

表示項目

☒ トラック番号 ☒ 演奏時間

☒ 曲名 ☒ アーティスト

線 種：CDトラック情報は、初期設定では0.1mmの線で囲まれた表として表示されます。線種を「なし」に設定すると、文字だけを表示することができます。

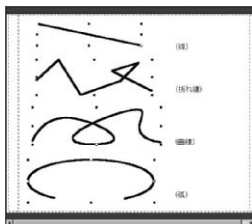
フ ォ ン ト：CDトラック情報の場合も、文字の入力と同様に、フォントの種類、サイズ、スタイル、カラーの設定が行えます。


表示トラック：「指定」ラジオボタンで、表示トラックの範囲を設定します。

表 示 項 目：トラック番号、曲名、演奏時間、アーティストの各項目について、表示 / 非表示を設定します。

Part4 線を引く・図形を描く

線を引く



ミュージックCDデザイナー3では、直線、折れ線、曲線、弧の4種類の線を引くことができます。線を引くには、最初に描画ツールバーで引きたい線の種類を選びます。作成した線に修正を施したい場合は、頂点編集ツールを利用します。

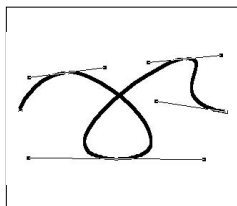
* 1

垂直線や水平線を引く

直線を引く場合、[Shift] キーを押しながらドラッグすると、45度単位の角度にスナップされ、垂直線や水平線を引くことができます。

* 2

曲線の修正



曲線は、頂点編集ツールで選択すると、接点と制御点（ハンドル）が表示されます。接点と制御点をドラッグすると、曲線のカーブを自由に変えることができます。


* 3

弧の修正




弧の長さを変更するには、頂点編集ツールを使うほかに、[書式] タブに表示される「弧」の欄で始点と終点の角度を入力して行うことも可能です。


• 直線を引く

直線ツールを選択します。引き始めたいところ（開始点）でクリックして、そのまま線を引きたいところ（終点）までドラッグします。マウスボタンを離すと線を引くことができます。*1


• 折れ線を引く

折れ線ツールを選択します。開始点をクリックして、各頂点を順にクリックします。終点となる頂点をクリックしたら、右クリックで確定します。

• 曲線を引く

曲線ツールを選択します。開始点をクリックした後、接点の位置でクリックすると同時にドラッグして制御点（ハンドル）を作成します。各接点で順にクリック＆ドラッグを繰り返し、終点をクリックしたら右クリックで確定します。*2

• 弧を描く

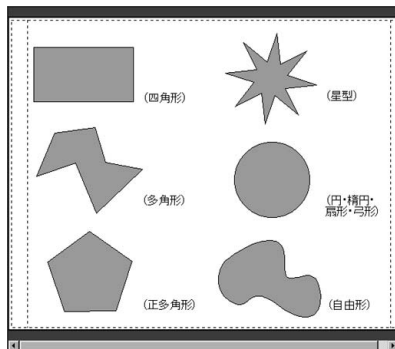
弧ツールを選択します。始点をクリックした後、終点までドラッグします。[Shift] キーを押しながらドラッグすると、正円弧を描くことができます。*3


[書式] タブから設定を行う際のポイント [各線共通]




線の種類、太さ、カラーは、[書式] タブにある「線種」で設定します。また、「線端」のプルダウンメニューで、線端の形状を変更することもできます。

図形を描く



描画ツールバーから図形ツールを選択すると、いろいろな図形を描くことができます。図形ツールは6種類用意されていますが、[書式]タブで設定を行うことにより、さまざまな図形を描くことができます。作成した図形に修正を施したい場合は、頂点編集ツールを利用します。


• 四角形を描く

四角形ツールを選択します。描画する矩形の左上隅をクリックして、そのまま対角線上を右下にドラッグします。[Shift]キーを押しながらドラッグすると、正方形を描くことができます。



四角形ツールを選択すると、[書式]タブに「角の丸み」が追加され、「円弧」「楕円弧」をチェックすると角丸の四角形を描くことができます。縦・横の丸みの比率も設定が可能です。

• 多角形を描く

多角形ツールを選択します。始点を左クリックして、各頂点を順にクリックします。終点となる頂点をクリックしたら、右クリックで確定します。


• 正多角形を描く

正多角形ツールを選択します。描画するオブジェクトの中心点をクリックして、そのままドラッグします。



描く前、または描いた後に、[書式]タブに表示される「頂点」で正多角形の頂点の数を設定することができます。


• 星型を描く

星型ツールを選択します。描画するオブジェクトの中心点をクリックして、そのままドラッグします。正多角形同様、描く前、または描いた後に、[書式]タブに表示される「頂点」で星型の頂点の数を設定することができます。*1


* 1

星型を描いた後、頂点編集ツールで頂点をドラッグすると拡大/縮小が行えます。また、切れ込み部分のコントロールポイントをドラッグすると、切れ込みの深さと向きを調整することが可能です。このとき、[Shift]キーを併用すると、左右対称の星型を描くことができます。


• 円を描く

円ツールを選択します。任意の位置でクリックして、そのまま右下へドラッグします。マウスボタンを離すと円が作成されます。[Shift] キーを押しながらドラッグすると、正円を描くことができます。



扇形や弓形を描く場合は、[書式] タブに表示される「楕円」のラジオボタンを選択します。扇形や弓形の開始と終了の角度を設定します。そのほか、頂点編集ツールで線端をドラッグしても行えます。

• 自由形を描く

自由形ツールを選択します。開始点をクリックした後、接点の位置でクリックすると同時にドラッグして制御点（ハンドル）を作成します。各接点で順にクリック & ドラッグを繰り返し、終点をクリックしたら右クリックで確定します。描画後の変形は、曲線の場合と同じです。

【 書式 】 タブから設定を行う際のポイント 【 各図形共通 】



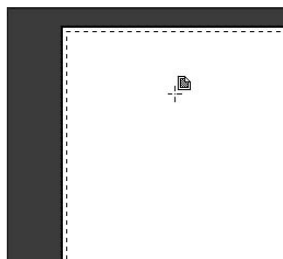
枠線の種類、太さ、カラーは、[書式] タブにある「線種」で設定します。また、「塗りつぶし」のプルダウンメニューで、枠線内の色を設定することもできます。


Part5 画像を取り込む

画像をオブジェクトとして取り込むには以下の手順で行います。

画像ファイルを貼り込む

[Step1]




描画ツールバーにある画像ツールをクリックした後、デザインウィンドウ内で、画像を貼り付ける場所にあたる左上隅をクリックします。

[Step2]



〔ファイルを開く〕ダイアログボックスが表示されるので、貼り付けたい画像ファイルを選択します。^{*1} 画像を選択すると、「ファイル名」の欄にファイル名が表示され、プレビューウィンドウに選択した画像が表示されます。^{*2}

^{*1}

 選択できる画像

対応している画像フォーマットは、PCXファイル(PCX)、JPEGファイル(JPG)、TARGファイル(TGA)、BMPファイル(BMP)、TIFFファイル(TIF)、PhotoCD(PCD)、Prestoオブジェクトファイル(POF)、Windowsメタファイル(WMF)、PNGファイル(PNG)、FlashPixファイル(FPX)、PICTファイル(PCT)です。

^{*2}

 プレビュー表示

〔プレビュー表示〕のチェックボックスをチェックすることで、表示 / 非表示を切り替えることができます。

☐ プレビュー表示

[Step3]



ダイアログボックスで選択した画像でよろしければ、〔開く〕ボタンをクリックします。デザインウィンドウ内にオブジェクトとして表示されます。

ドラッグ&ドロップによる取り込みのポイント



エクスプローラなどで画像のあるフォルダを開き、画像ファイルをデザインウィンドウに直接ドラッグ&ドロップしても取り込むことができます。

CDを
デザイン
する

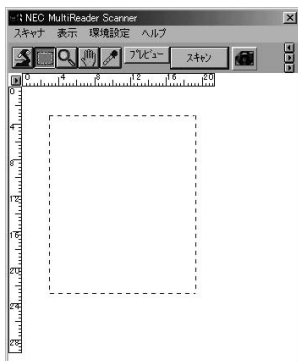
注1

あらかじめTWAINドライバをインストールしておく必要があります。

デジカメ・スキャナ機器から取り込む

TWAIN対応のデジタルカメラやスキャナをお持ちの場合、[ファイルを開く]ダイアログボックスにある[TWAIN]ボタンを利用することによって、デジタルカメラやスキャナから直接画像を読み込むことができます。^{注1}


[TWAIN]ボタンをクリックすると、TWAIN機器の選択画面が表示されます。使用するTWAIN機器を指定し、その後表示される読み込み画面から、取り込みを開始します。



取り込まれた画像は、即座にデザインウィンドウに反映されて、表示されます。

表示される画面は、使用するTWAIN対応機器によって異なります。

画像を拡大・縮小する

選択ツールでデザインウィンドウ内の画像を選択すると、画像の上下左右と四隅にコントロールポイントが表示され、上下左右のコントロールポイントをドラッグすると縦変形・横変形が可能です。四隅のコントロールポイントをドラッグすると、正比率で拡大・縮小が可能です。^{*1}



*1

自由変形について

[Shift]キーを押しながら四隅のコントロールポイントをドラッグすると、自由に拡大・縮小の変形を行うことができます。

画像の向きを変える



デザインウィンドウ内にオブジェクトとして配置した画像は、向きを90度単位で変更することができます。画像の向きを変えるには、選択ツールで画像を選択した後、[書式]タブにある「角度」のプルダウンメニューで指定します。



「角度」を90度に指定



「角度」を180度に指定



「角度」を270度に指定

画像の一部を透明にする



[書式]タブにある「透明色」のプルダウンメニューで、ラベルシートに貼り付けた画像の周囲や特定の色を透明化することができます。これによって、元の角版画像を切り抜いたようにデザインすることができます。詳しくは163頁の「知っている则便利な機能とテクニック」をご覧ください。

Part6 オブジェクト配置・重なりの修正



テキスト、線、図形、画像といったオブジェクトの位置を揃える、重なりを調整するといった作業は、左の操作画面の[配置]タブで行います。さらに、オブジェクトは0.1mm単位で位置や大きさの修正が行えるので、見栄えのいいCDをデザインすることができます。

オブジェクト配置の変更



中央に移動 (横)

選択したオブジェクトがラベルシートの中央になるように、横方向に移動します。



中央に移動 (縦)

選択したオブジェクトがラベルシートの中央になるように、縦方向に移動します。



数値変更^{*1}

選択したオブジェクトの位置や大きさを、数値を入力して変更することができます。



X軸・Y軸の座標起点は、ラベルシートの左端と上端がそれぞれ0となります



前面へ移動

選択したオブジェクトを前面に移動します。



ドロップシャドウ

選択したオブジェクトに、影を落としたような効果を加えます。^{注1}



影の方向や向きを設定することができます。



背面へ移動

選択したオブジェクトを背面に移動します。

★1
数値変更

[配置]タブのサムネイルに表示されるオブジェクトをダブルクリックすると、ダイアログボックスが開き位置や大きさを数値で変更することができます。

⚠ 注1

ドロップシャドウを行うと、元のオブジェクトと影となるオブジェクトはグループ化されます。操作を取り消すには、[編集] - [元に戻す] コマンド (またはツールバーの [元に戻す] ボタン) を実行するか、[ツール] - [グループ化/解除] (またはツールバーの [グループ化/解除] ボタン) でグループ化を解除した後、影のオブジェクトを削除します。

📄 左端揃え

選択した複数のオブジェクトが、それらの最左端に揃うように横方向に移動します。

📄 中心揃え（横）

選択した複数のオブジェクトが、それらの中央に揃うように横方向に移動します。

📄 左端揃え

選択した複数のオブジェクトが、それらの最右端に揃うように横方向に移動します。

📄 上端揃え

選択した複数のオブジェクトが、それらの最上端に揃うように縦方向に移動します。

📄 中心揃え（縦）

選択した複数のオブジェクトが、それらの中央に揃うように縦方向に移動します。

📄 下端揃え

選択した複数のオブジェクトが、それらの最下端に揃うように縦方向に移動します。

オブジェクトの重なりを修正する

デザイン作業を行っている最中に、あるオブジェクトがほかのオブジェクトに覆い被さってしまい、下のオブジェクトが見えなくなる場合があります。このような場合、[配置] タブのサムネイルで上に重なっているオブジェクトを下のほうに移動すると、下のオブジェクトが見えるようになります。



(1) [配置] タブのサムネイルでは、作成したオブジェクトは新しい順に上に表示されます。ここで、下に移動させたいオブジェクトを選択します。



(2) オブジェクトをクリック＆ドラッグすると、挿入できる場所が灰色のバーで表示されます。



(3) マウスボタンを離すと、オブジェクトの重なりが変更されます。

*2

[配置] タブのサムネイルに表示されるオブジェクトの数値は、左上隅の座標（単位：mm）を表しています。*1

CDを
デザイン
する

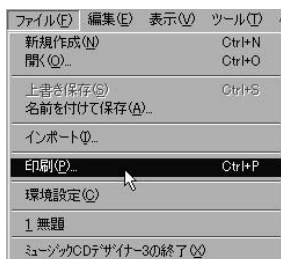
Part7 印刷する


注1

市販のCDラベル用シール紙への対応は、随時行われています。最新のサポート情報は、弊社ホームページ (<http://www.megasoft.co.jp/mcdd/>) をご覧ください。

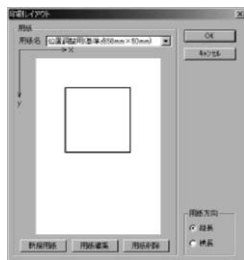
ミュージックCDデザイナー3では、印刷したいシートタイプをラベルシートのどの部分にアタッチする(割り付ける)かを設定することで、各社ごとにレイアウトの異なるさまざまなCDラベル用紙に簡単に印刷することができます。^{注1} 印刷の手順は、以下の通りです。

[Step1]



[ファイル] - [印刷] コマンドを実行、またはツールバーの [印刷] アイコン  をクリックします。

[Step2]



[印刷レイアウト] ダイアログボックスが表示されます。[用紙名] のプルダウンメニューから、使用するラベル用紙を選択します。



[Step3]

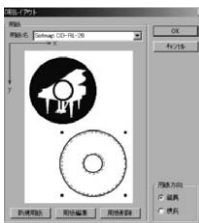


作成したデザインが、選択した用紙に貼り込まれた状態で表示されます。

注2


ミュージックCDデザイナー3では、アタッチされた部分のみが実際の印刷を行います。例えば、CDラベルが上下に2つ配置された用紙で上の部分だけにアタッチを行うと、その部分のみが印刷されます。両方に印刷したいときは、上下の両方にアタッチを行ってください。

[Step4]



印刷したいシートをアタッチ(割り付け)して、調整することができます。たとえば印刷したくないラベルがあれば、「用紙」内の縮小イメージをクリックすると、そのイメージは削除され印刷されません。逆にイメージを削除した後にやはり印刷したいという場合は、選択したシート上でクリックするとイメージが表示されます。^{注2}

[Step5]

ラベル用紙をプリンタにセットした後プリンタの電源を入れ、[印刷レイアウト] ダイアログボックスの[OK]ボタン  をクリックします。

[Step6]



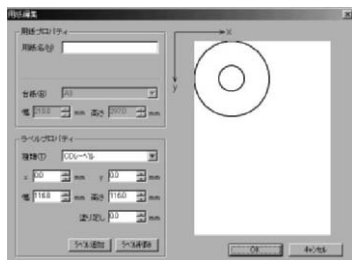
プリンタのプロパティが表示されるので、選択されているプリンタが正しいことを確認します。[OK] ボタンをクリックすると、印刷が開始されます。

独自のシール紙情報を作成する際のポイント

お手持ちのシール紙が「用紙名」のプルダウンメニューの中に入らない場合は、自分でシール紙情報を作成して登録することができます。

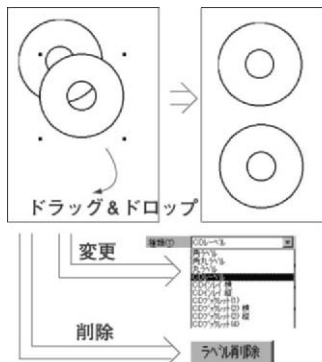
シール紙情報の作成は、



- (1) [新規用紙] ボタンで、全く新しくシール紙情報を作成する
 - (2) [用紙編集] ボタンで、現在選択している用紙の情報を編集する*1
- の、2種類の方法があります。



(1)(2)とも用紙編集画面を使用して、自分のシール紙情報を登録します。

ラベルの位置、幅/高さは、画面上のラベルをクリックすると、「ラベルプロパティ」にそれぞれの数値が表示されるので、そこで確認することができます。数値を変更したい場合は、「x」「y」「幅」「高さ」の欄に数値を入力します。




[ラベル追加] ボタン  をクリックするとラベルが追加されます。ラベルをクリックし、選択した状態からは、ドラッグ&ドロップによる移動、削除([ラベル削除] ボタン  をクリック)「種類」の変更が行えます。

作業が完了したら、用紙名の欄に適当な名前を入力し[OK]ボタンをクリックします。

*1



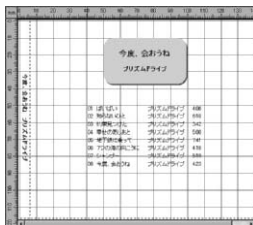
**一覧の用紙を
テンプレートとして
利用する**

対応していないシール紙を購入した場合は、一番近いレイアウトの用紙名を選択し、それをテンプレートとして、(2)の方法でシール紙情報を作成するとよいでしょう。その際、[用紙編集] ボタン  をクリックすると、以下のようなダイアログが表示されるので、[はい] ボタンをクリックします。



Part8 知っているると便利な機能とテクニック

グリッドとルーラー



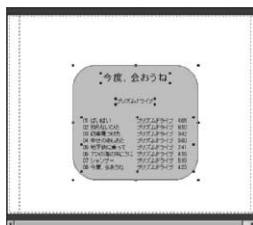
複数のオブジェクトを正確に並べたいとき便利なのが「グリッド（升目表示）」機能です。[表示] - [グリッド] またはツールバーの [グリッド] アイコンでグリッド機能を有効にすると、デザインウィンドウにグリッドが表示されます。[Shift] キーを押しながらオブジェクトをドラッグすると、オブジェクトをグリッドに吸着させることができます。*1

また、オブジェクトを正確な場所に配置するときや、実際のオブジェクトのサイズを確認するときは「ルーラー（定規表示）」を利用します。ルーラーは、[表示] - [ルーラー] をチェックすることで表示/非表示が行えます。

オブジェクトのグループ化

複数のオブジェクトの位置関係を損なわずに移動させたいときは、「グループ化」機能を使用します。グループ化を行うには、クリック&ドラッグで複数のオブジェクトを選択した後、[ツール] - [グループ化/解除] またはツールバーにある [グループ] アイコンをクリックします。

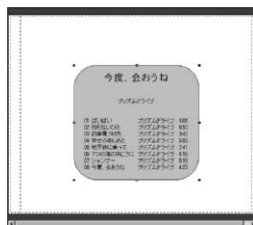
グループ化されたオブジェクトを選択した後、同じ操作を行うとグループ化が解除されます。



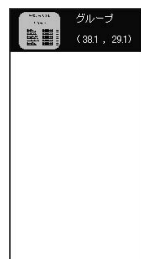
クリック&ドラッグで複数のオブジェクトを選択します。*2



[配置] タブのサムネイルでも、複数のオブジェクトが選択状態になります。



グループ化されたオブジェクトは、1つのオブジェクトとして扱うことができます。



[配置] タブのサムネイルでは、「グループ」というオブジェクト名で表示されます。

*1

👉 グリッドの間隔設定

グリッドの間隔は、[ファイル] - [環境設定] でダイアログボックスを開き、[デザイン] タブにある「グリッドの間隔」で設定することができます。

*2

👉 すべてを選択する

すべてのオブジェクトを選択したい場合は、次頁で解説している右クリックメニューから [すべて選択] を選ぶことでも行えます。また、複数のオブジェクトの選択方法としては、[Shift] キーや [Ctrl] キーを押しながらクリックすることでも行えます。

右クリックメニューを活用する

元に戻す(U)	Ctrl+Z
やり直し(Y)	Ctrl+Y
切り取り(C)	Ctrl+X
コピー(O)	Ctrl+C
貼り付け(P)	Ctrl+V
プロパティの貼り付け(A)	
削除(D)	Del
横反転複写(M)	
縦反転複写(E)	
すべて選択(L)	Ctrl+A
表示倍率	
内容の編集(E)	

デザインウィンドウ内でマウスを右クリックするとメニューが表示され、[元に戻す] オブジェクトの[コピー] - [貼り付け] 表示倍率の変更などの作業を手早く行うことができます。

また、図形オブジェクトの場合は、[コピー] - [プロパティの貼り付け] で、線種や塗りつぶしといったプロパティだけを別のオブジェクトに適用することが可能です。

そのほか、[横反転複写] で水平方向、[縦反転複写] で垂直方向にそれぞれ反転してオブジェクトを複製することができます。

これらの設定は、メニューバーの[編集]からも行うことができます。

画像の周囲や特定の色を透明化する

デザインウィンドウで目的のイラストを選択した後、[書式] タブにある[透明色]のプルダウンメニューで、「全体」または「周囲」を選びます。

「全体」はその画像全体、「周囲」は画像の周囲を対象にします。透明化したい色は、カラーパレットまたはスポイトツールで指定を行い、範囲スライダで指定した色を基準に透明化する範囲を指定します。



(1) [透明色] のプルダウンメニューで「全体」または「周囲」を選択します。



(2) 範囲スライダで透明化する色の範囲を指定します。



(3) 画像の内部を透明化して、下の背景画像を表示したところ。

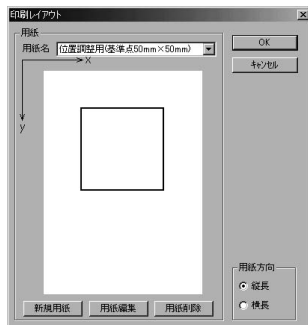
印刷のズレを修正する

印刷したい場所と実際に印刷される場所がズレる場合は、[ファイル] - [環境設定] でダイアログボックスを表示させ、[デザイン設定] タブにある「印刷オフセット値」を変更します。印刷オフセット値とは、印刷で生じるズレの分だけ画像を最初にズラして印刷することでズレをなくす機能です。

この機能を活用するには、最初にズレを測定してから数値を設定します。



(1) 最初に、印刷オフセット値を縦横0に設定。さらに「印刷オプション」の「罫線の印刷を行う」をチェックして[OK]ボタンをクリック。[ファイル] - [印刷]を選択します。



(2) [印刷レイアウト] ダイアログボックスが表示されます。[用紙名]の欄には、「位置調整用(基準点50mm x 50mm)」を指定し、[OK]ボタンをクリックします。



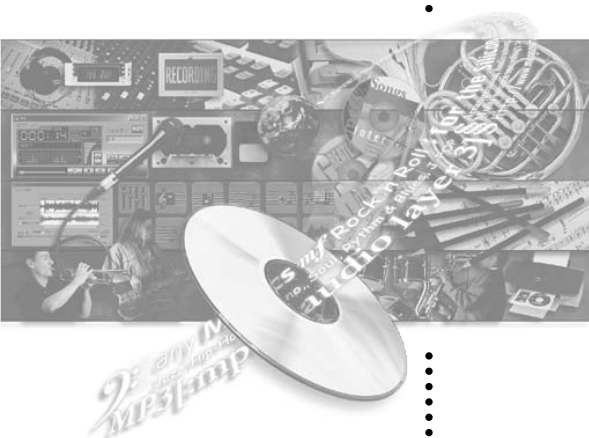
(3) 用紙が印刷されたら、用紙に印刷された罫線の上端から用紙の上端までの距離と、罫線の左端から用紙の左端までの距離を測ります。計測したら再び[デザイン設定]ダイアログボックスに戻って、タイプの印刷オフセット値に、(50mm - 測った数値)で得られる数値を設定します。

最終章 リファレンス

ここでは、ミュージックCDデザイナー3を使用するうえで知っておくと
便利なことなどについて説明しています。

Part1	ファイルやトラックの選択方法について	166
Part2	トラックの複製と削除	167
Part3	表示色や背景などのカスタマイズを行う	168
Part4	ミュージックデータベースの設定について	171
Part5	エラーの対処法と用語について	171

トラブルの生じた場合	調査依頼書	175
ユーザー登録変更届け		176



Reference

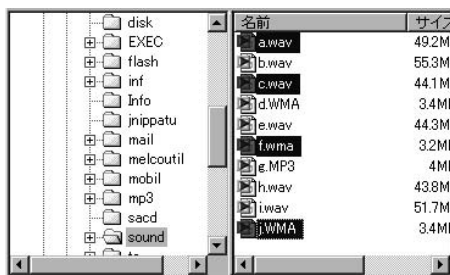
Part1 ファイルやトラックの選択方法について

再生・録音デッキや仮想デッキで表示されるトラック情報ウィンドウや、入力ソースとして[ファイル]を選択した場合に表示されるファイラー画面などでは、マウスでファイルやトラック(楽曲)を1つ1つ選択する以外にも、キーボードとマウスを組み合わせると複数のトラックやファイルをまとめて選択することができます。ここでは、その方法について説明しています。

複数のファイルをまとめて選択する

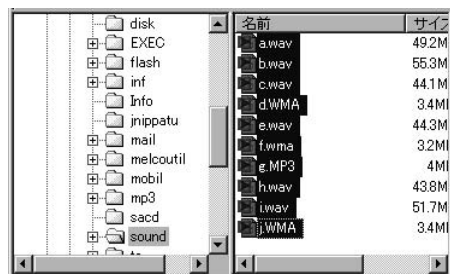
複数のファイルをまとめて選択するためには、次のような方法があります。

・Ctrlキーを使用する



[Ctrl]キーを押しながら、ファイルやトラックの選択を行うと、マウスでクリックしたファイルがすべて選択されます。例えば、ファイル名[a]～[j]までの10個のファイルがあり、[Ctrl]キーを押しながら[a][c][f][j]の4つのファイルをクリックすると、クリックした4個のファイルをまとめて選択することができます。

・Shiftキーを使用する



[Shift]キーを押しながら、ファイルやトラックの選択を行うと、最初と最後にクリックしたファイルやトラックの間に配置されているものまで含めて、まとめて選択を行うことができます。例えば、[a]～[j]の10個のファイルが、上から順に並んでいる場合、最初に[a]をマウスでクリックし、その後[Shift]キーを

押しながら、[j]をクリックすると[a]と[j]の2つのファイルだけでなく、その間のファイルもまとめて選択することができます。*1

・マウスで選択する



ファイラー画面では、マウスの左クリックを押しながら、登録したいファイルの範囲を選択することで、複数のファイルをまとめて選択できます。

*1 一括選択

ファイラー画面や選択したいトラック情報ウィンドウ内で[Ctrl] + [A]キーを押すことで、選択されているフォルダ内すべてのファイルやトラックを選択することができます。

Part2 トラックの複製と削除

仮想デッキ内に録音（登録）された楽曲は、必要に応じて複製・削除を行うことができます。複製・削除は次のように行います。

複製

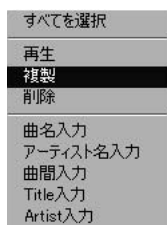
仮想デッキに録音（登録）された楽曲の複製は、次の手順で行います。


[Step1]

N.	曲名	アーティスト	演奏時間	曲番号
01	ばいばい	プリズムドライブ	5:20	-
02	知らないひと	プリズムドライブ	5:08	-
03	約束をつけた	プリズムドライブ	5:44	-
04	幸せの歌	プリズムドライブ	4:22	-
05	地下鉄に乗って	プリズムドライブ	4:14	-
06	アツの海の向こうに	プリズムドライブ	4:53	-
07	シャンブー	プリズムドライブ	4:24	-
08	今度、会おうね	プリズムドライブ	4:20	-

複製したい楽曲を選択します。

[Step2]



[曲の複製] アイコン  をクリックするか、仮想デッキ内で右クリックして表示されるメニューから [複製] を選択します。



N.	曲名	アーティスト	演奏時間	曲番号
01	ばいばい	プリズムドライブ	5:20	-
02	知らないひと	プリズムドライブ	5:08	-
03	約束をつけた	プリズムドライブ	5:44	-
04	幸せの歌	プリズムドライブ	4:22	-
05	地下鉄に乗って	プリズムドライブ	4:14	-
06	アツの海の向こうに	プリズムドライブ	4:53	-
07	シャンブー	プリズムドライブ	4:24	-
08	今度、会おうね	プリズムドライブ	4:20	-
09	複製した楽曲	プリズムドライブ	4:20	-
10	地下鉄に乗っての複製	プリズムドライブ	4:14	-
11	シャンブーの複製	プリズムドライブ	4:24	-
12	今度、会おうねの複製	プリズムドライブ	4:20	-

削除

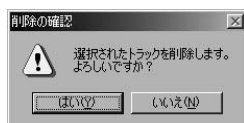
仮想デッキ内に録音（登録）された楽曲の削除は、次の手順で行います。


[Step1]

N.	曲名	アーティスト	演奏時間	曲番号
01	ばいばい	プリズムドライブ	5:20	-
02	知らないひと	プリズムドライブ	5:08	-
03	約束をつけた	プリズムドライブ	5:44	-
04	幸せの歌	プリズムドライブ	4:22	-
05	地下鉄に乗って	プリズムドライブ	4:14	-
06	アツの海の向こうに	プリズムドライブ	4:53	-
07	シャンブー	プリズムドライブ	4:24	-
08	今度、会おうね	プリズムドライブ	4:20	-

削除したい楽曲を選択します。

[Step2]



[曲の削除] アイコン  をクリックするか、仮想デッキ内で右クリックして表示されるメニューから [削除] を選択します。

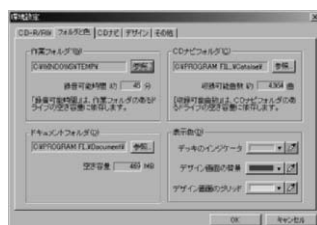
Part3 表示色や表示などのカスタマイズを行う

ミュージックCDデザイナー3は、表示色や背景などを任意にカスタマイズして使用することができます。カスタマイズできる項目は、再生・録音デッキや仮想デッキの「表示色」や背景に使用する「テクスチャ」とデザイン画面の「表示色」です。また、デッキパネルには、「レベルメーター」が標準で表示されていますが、「スペクトラムアナライザー」に変更することもできます。

デッキパネルとデザイン画面の表示色を変更する

再生・録音デッキと仮想デッキの表示色及び、デザイン画面の表示色の変更は、[ファイル]メニューの中にある[環境設定]内の[フォルダと色]のタブで行います。変更は次の手順で行います。

[Step1]

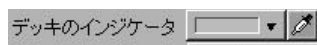


[ファイル] - [環境設定] - [フォルダと色]のタブを開きます。

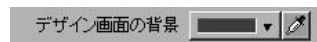
[Step2]



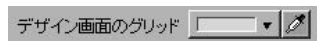
[表示色]の設定を行います。



[デッキのインジケータ]では、再生・録音デッキと仮想デッキのインジケータの色を変更することができます。



[デザイン画面の背景]では、デザイン画面の背景の色を変更することができます。



[デザイン画面のグリッド]では、デザイン画面でグリッド線を表示させた場合の線の色を変更することができます。

デッキパネルの背景を変更する

再生・録音デッキと仮想デッキの背景は、グラフィックソフトなどを利用して作成された画像に変更することができます。使用できる画像ファイルの形式は、BMP（拡張子「*.BMP」）、JPEG（拡張子「*.JPG」）の2種類で、解像度「368ドット×154ドット」のファイルです。変更は、[ファイル]メニューの中にある[環境設定]内の[その他]のタブで行え、次の手順で行います。

[Step1]



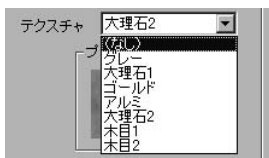
グラフィックソフトなどを利用して好みの画像ファイルを作成し、ミュージックCDデザイナー3をインストールしたフォルダ内にある「TexturePanel」フォルダに保存します。

[Step2]



ミュージックCDデザイナー3を起動し、[ファイル] - [環境設定] - [その他]のタブと開きます。

[Step3]



[テクスチャ] のプルダウンメニューから、保存しておいたファイルを設定します。また、[プレビュー]で、選択した画像のプレビューを確認することができます。



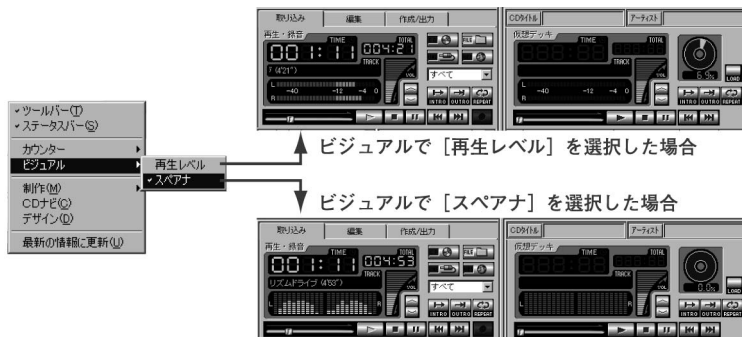
注1

スペアナの表示は、使用しているパソコンのCPUスペックによっては、選択できない場合があります。もし、他のソフトを起動されていたり、そのソフトを終了して再起動してみてください。



デッキパネルの表示を変更する ～スペアナとレベルメーター～

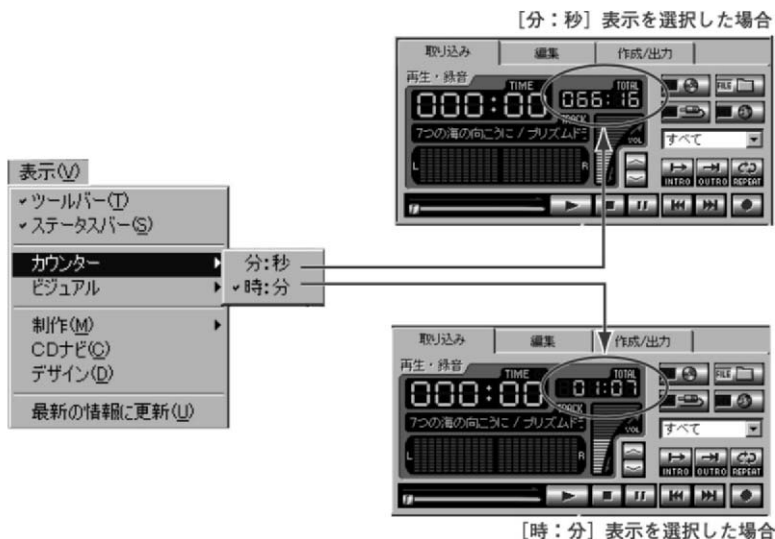
再生・録音デッキと仮想デッキには、標準では再生レベルを表示するレベルメーターが設定されていますが、これをスペクトラムアナライザ（スペアナ）に変更することができます。^{注1} 設定の変更は、「表示」->[ビジュアル]で[スペアナ]又は[再生レベル]を選択することで行えます。



デッキパネルのトータル時間のカウンター表示を変更する

再生・録音デッキと仮想デッキに表示されているトータル時間のカウンター表示は、トータル時間を[分：秒]表示と[時：分]表示の2種類が選択できます。[分：秒]表示を選択した場合は、トータル時間を最大999分59秒まで表示でき、[時：分]表示では、99時間59分まで表示できます。

トータル時間のカウンター表示の変更は、[表示] - [カウンター]で行えます。



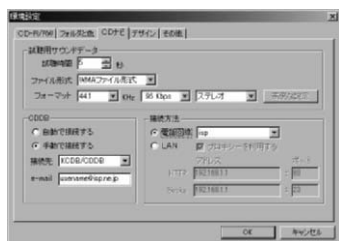
Part4 ミュージックデータベースの設定について

ミュージックCDデザイナー3は、インターネット上に設置された CDDb、KCDB、CDDb2、MIDbの4種類のミュージックデータベースに対応しており、市販CDのアルバム情報と収録されている楽曲情報の検索を行うことができます。ミュージックデータベースを使用するためには、インターネット接続環境が必要になるだけでなく、検索を行うための初期設定を行っておく必要があります。

その CDDb/CDDb2/KCDB/MIDbの設定

CDDb/KCDB/MIDbの設定は、[ファイル]メニューの中にある[環境設定]内の[CDナビ]のタブで行えます。設定は、次のようにして行います。

[Step1]



[ファイル] - [環境設定] - [CDナビ]のタブと開きます。

[Step2]

[CDDb]の設定を行います。

・接続方法の設定

[自動で接続する]を選択した場合は、音楽CDを挿入したときに自動的に検索を行います。[手動で接続する]を選択した場合は、音楽CDを挿入後、ツールバーに配置されている「CDDb」アイコンをクリックした場合のみに検索を行います。^{注1}



(1) 標準で検索に使用するミュージックデータベースの設定を[接続先]プルダウンメニューから選択します。設定は、KCDB/CDDb、KCDBのみ、CDDb2、の3種類の中から選択できます。

(2) KCDB/CDDb/MIDbなどのミュージックデータベースで検索を行う場合に必要となる[e-mail]アドレスの設定を行います。^{注2}

△ 注1

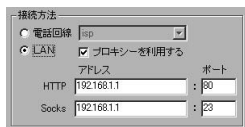
ISDNダイヤルアップルータを自動接続で使用している場合は、[自動で検索する]を設定すると、音楽CDを挿入すると検索のために自動的にプロバイダに接続することになるので設定には、注意してください。

△ 注2

e-mailアドレスの設定は、ミュージックデータベースの検索に必ず必要となります。

* 1

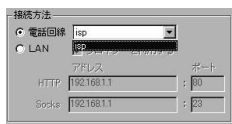
プロキシサーバに関する設定は、必要となる情報（HTTPやSocksのIPアドレス及びポート番号）をネットワーク管理者などに尋ね設定を行ってください。



[Step3]

【接続方法】の設定を【電話回線】又は【LAN】のいずれかについて行います。

・電話回線



電話回線は、自宅などからアナログモデムやTAなどを使用してインターネットに接続している場合にチェックします。また、これを選択した場合は、接続に使用するプロバイダをプルダウンメニューから選択して設定します。

・LAN

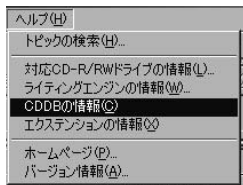
ISDNダイヤルアップルータやそれに準じた機器、会社などのLAN環境など、電話回線以外の方法でインターネットに接続している場合にチェックします。

また、会社などで「プロキシサーバ」を介して接続を行っている場合は、【プロキシを利用する】にチェックを入れ、【HTTP】や【Socks】のIPアドレス及びポート番号についての設定も行います。*1

その CDDDB2のユーザー登録を行う

ここでは、CDDDB2のユーザー登録を行う手順を説明しています。

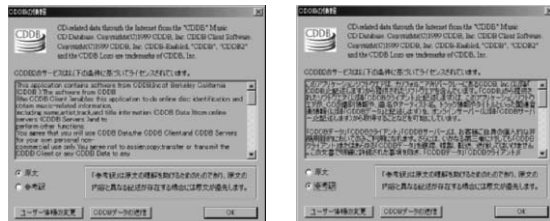
[Step1]



【ヘルプ】 - 【CDDDBの情報】を選択し、CDDDB2のユーザー登録ウィザードを起動します。

[Step2]

CDDDB/CDDDB2の使用許諾条項が表示されますので、お読みになりよろしければ、【ユーザー情報の変更】をクリックします。



【CDDDBデータの送信】ボタンをクリックすると、CDDDBメディア情報を送信することができます。本サイトは、第三者による情報提供によって成り立っており、

り、情報提供の意志があれば送信することができます。

[Step3]

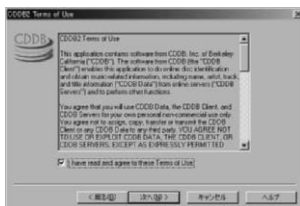
【This is a new CDDDB Registration】をチェックし、新規ユーザー登録を行います。*3

* 3

👉 登録変更

【I already have a CDDDB Nickname】をチェックした場合は、ユーザー登録情報の変更を行えます。





[Step4]

CDDB2の使用許諾条項が表示されますので、その使用許諾条項を読み、同意した旨のチェックボックスにチェックを入れ、[次へ] をクリックします。



[Step5]

下記の2つの空欄を記入しておけば、パスワードを忘れた場合、CDDBよりその情報が送信されます。メールアドレスの情報は、悪用することはない旨が記述されています。



[Step6]

CDDBからの情報(販売に関わる情報)を随時受ける場合は、そのまま[次へ] をクリックします。受け付けない場合は、チェックボックスにチェックを入れ、[次へ] をクリックします。



[Step7]

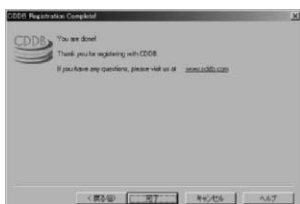
次のような画面が表示されるので、[次へ] をクリックします。

チェックボックスをチェックすると、第三者が供給する情報を随時受け取ることができます。問題がなければ[次へ] をクリックします。



[Step8]

住んでいる国情報や性別、年齢等を入力し[次へ] をクリックします。



[Step9]

登録は終了しました。[完了] をクリックしてください。

* 設定に関する詳細情報は、メニューバーから[ヘルプ] - [トピックの検索] を選択し、「キーワード」タブをクリック、キーワード検索で「CDDB2の登録手順」を入力することでご覧いただけます。

Part4 エラーの対処法と用語について

*1

📖 ホームページでの公開

ユーザーズ倶楽部内では、最新のサポート情報を掲載しています。

URL

<http://www.megasoft.co.jp/mcdd/index.html>

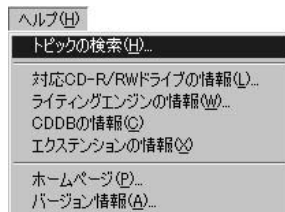
ミュージックCDデザイナー3では、トラブルが生じた場合の対処法や用語集などを「ヘルプ」に記載しています。また、ユーザーから寄せられたトラブルシューティングの事例などは、弊社ホームページ上*1でも随時公開しています。トラブルが生じた場合は、ぜひ参考にしてください。

ヘルプに記載されているトラブルシューティングや用語集を参照したい場合は、次のようにして行います。

[Step 1]

ミュージックCDデザイナー3を起動します。

[Step 2]



[ヘルプ] [トピックの検索]を開きます。

[Step 3]

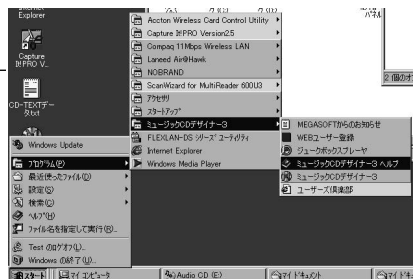


トラブルシューティングを参照したい場合は、「困ったときのQ&A」をクリックします。また、用語集を参照したい場合は、「用語集」をクリックします。



ヘルプの参照について

ヘルプの参照は、[スタート] - [プログラム] - [ミュージックCDデザイナー3] と開き、[ミュージックCDデザイナー3 ヘルプ] を選択することでも行えます。



トラブルの生じた場合

調査依頼書

(FAX : 06-6386-8894)

フリガナ		製品名	ミュージックCDデザイナー 3
氏名		シリアルNO.	9120
住所	〒	バージョン情報	Ver.
E-mailアドレス			
電話番号	— —	FAX番号	
昼間の連絡先	— —	<p>「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」コマンドをクリックして下さい。表示されるダイアログボックスの「システム」と「コンピュータ」項目内容を書き写して下さい。</p>	
上記が会社の場合 会社／部署			
システム		コンピュータ	
パソコン	メーカー： 機種：		
CD-R/RW ドライブ	メーカー： 機種： ファームウェアバージョン：		
SCSI アダプタ	メーカー： 機種：		
サウンドカード	メーカー： 機種：		
周辺機器			
症 状			

本ページをコピーして、FAXあるいは以下に郵送して下さい。

〒564-0053 大阪市吹田市江の木町1-38 西谷東急ビル
メガソフト株式会社

係 行

ユーザー登録変更届け

製品名		ミュージックCDデザイナー3
シリアルNO.		9120 (ご記入のない場合は登録変更をいたしかねます)
旧	住所	〒
	会社名	
	部署名	
	担当者名	
	連絡先	
新	住所	〒
	会社名	
	部署名	
	担当者名	
	連絡先	
備考		
<p>●個人登録から法人登録に変更したり、法人登録から個人登録への変更はできません。</p> <p>●販売・譲渡はできません。</p>		

FAX:06-6386-2123 | 〒564-0053 大阪府吹田市江の木町1-38 西谷東急ビル